

地球温暖化等に関するアンケート調査

報 告 書

平成16年3月

環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議

目 次

・地球温暖化防止の推進に向けて	1
・今後の推進員会議のあり方について	1
・地球温暖化等に関するアンケート調査	3
1．調査の概要	3
2．回収状況	3
3．調査結果の概要	5
・調査結果と分析	7
1．環境問題全般について	7
(1) 環境問題への関心度	7
(2) 関心のある環境問題	8
(3) 環境問題に関心のない理由	14
2．地球温暖化問題について	14
(1) 地球温暖化の認知度	14
(2) 地球温暖化の影響に対する不安	15
3．環境にやさしい小樽市民ルールについて	18
(1) 環境にやさしい小樽市民ルールの周知度	18
(2) 環境にやさしい小樽市民ルールの情報入手先	20
4．環境家計簿について	21
(1) 環境家計簿の周知度	21
(2) 環境家計簿による省エネ意識の変化	23
5．省エネナビについて	23
6．エコショップについて	25
7．環境配慮行動について	27
(1) 環境配慮行動項目の実行度	27
(2) 環境配慮行動の実行順位	45
8．環境関係の情報について	46
(1) 環境関係の情報源	46
(2) 知りたい環境関連情報	48
9．レジ袋・買い物袋(マイバッグ)について	50
(1) マイバッグの使用度	50
(2) レジ袋をもらう理由	52
(3) レジ袋が無料でなかったら	52
(4) ポイント制度	54
・地球温暖化及びごみ減量化に対する意見	57
- 資料編 -	
環境にやさしい小樽市民ルール	
地球温暖化等に関するアンケート調査票	

・地球温暖化等防止の推進に向けて

今回実施したアンケート調査は、環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議の今後の活動を推進するうえで有益な資料となったものと考えています。

アンケート結果からは、小樽市民の環境問題に対する関心は非常に高く、実際の環境配慮行動も比較的良好に実行されている結果になっています。しかし、実行している環境配慮行動の項目を見ると、普段の生活の中でルール化されたものや比較的取り組みやすいものなどは実行度が高くなっていますが、地球温暖化を意識しないと取り組みが進まないものは低くなる傾向にあります。このことは「地球温暖化」が市民の皆さんの意識として、まだ薄いことからきているものではないかと思っています。

地球温暖化は人類の生存基盤さえも脅かしかねない深刻な問題とされています。地球温暖化の問題点は、「原因」となるものが、私たちの生活や事業活動などの社会活動全般にわたって関係していること。そして、それが地球全体に影響を及ぼし、時間的にも非常に長期にわたって、世代を越えて悪影響がでる可能性があることです。

私たちには、私たちの子孫が今と同じような環境の恵みを受けながら生活できるようにする責務があります。それには、循環型の社会システムの実現に向けて、地球環境への負担を減らす方法を皆で考え、そして自主的に実行していくことが大切です。今後も環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議の活動を通じ、地球温暖化防止の取り組みを積極的に推進していきたいと考えています。

・今後の環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議のあり方について

環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議は、地球温暖化の理解を深めながら情報交換を行い各推進員の自主的活動を通して、「市民ルール」が着実に普及するよう努めてきました。今回のアンケートで「市民ルールの周知度」が決して高くなかったことから、より効果的な周知活動を行う必要があり、今まで以上に環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議の役割が大きなものと考え、今後は推進員の自主的活動とあわせて環境にやさしい小樽市民ルール推進委員会議自体の主体的な活動が必要と考えております。

例えば、今回の意見の中に「廃棄物問題」に対する意見が多くあったことから、ゴミの減量活動を通して市民の皆さんに地球温暖化へのアプローチが図られる活動や、エコクッキングの実演会、電気自動車のような最先端の技術の紹介など市民参加型のイベントなどのような活動を企画することで、地球温暖化が身近な環境問題として認識してもらえるきっかけづくりが必要と考えています。

今回のアンケートで「知りたい環境情報」として「日常生活でできる環境保全の取り組み」を挙げる人が半数を超えています。「市民ルール」は、市民の身の回りでできる温暖化対策をわかりやすく伝える行動指針的な役割を負っていますが、市民の皆さんは、より細かな実践的行動の情報を求めていることがうかがわれます。

環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議としても行政と協力しながら、行政ができない部分や不得意な部分を埋めながら、今までの会議で培われたアイデアや市民の皆さんの省エネなどの知恵を盛り込んだ新たな啓発資材を作っていく必要があると考えています。

地球温暖化の一番の問題は、私たちが日常生活のなかで「地球温暖化」を身近に感じることがないこと、「認識」できないことにあります。原因が明確であれば、それを認識し、改善するための対策が進みますが、認識できないために二酸化炭素等の温室効果ガスの削減を呼びかけても危機感が薄く、実行されなかったり、長続きしないものになったりしています。

地球温暖化防止を推進するにあたって大事なことは、継続的に情報を発信することだと思っています。これには活動の推進母体が必要であり、また、組織強化が大切です。私たちの環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議は、1年毎にメンバーを募集し設置されますが、次年度から常設の組織として確立する必要があると考えています。活動の輪が広がることによって、環境保全活動にも厚みが増え、将来的に法人化するという方向性も見えてくるものと思われれます。

・地球温暖化等に関するアンケート調査

1. 調査の概要

(1) 調査目的

平成13年2月に策定した「環境にやさしい小樽市民ルール」をより一層効果的に啓蒙・普及するため、「市民ルール」が市民の皆さんに理解され、どのような取り組みがなされているのか、また、地球温暖化に代表される環境問題に対する環境配慮行動がどうなのかなど、市民の環境に対する意識を把握し、今後「環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議」が活動していく上での基礎資料とします。

(2) 調査対象

市内にお住まいの20歳以上の方から、人口の年齢構成比に応じて1,000人を無作為抽出。

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
人口構成比 %	13.5%	13.4%	13.2%	20.4%	17.9%	14.4%	0.7%	100%
総 発送数	135	134	132	204	179	144	72	1000
男性 発送数	67	64	62	94	81	59	22	449
女性 発送数	68	70	70	110	98	85	50	551
総 有効発送数	134	134	131	202	177	143	70	991
男性 有効発送数	66	64	61	93	81	59	22	446
女性 有効発送数	68	70	70	109	96	84	48	545

(3) 調査方法

郵送による無記名のアンケート方式

調査時期：平成15年11月

2. 回収状況

(1) 回収状況

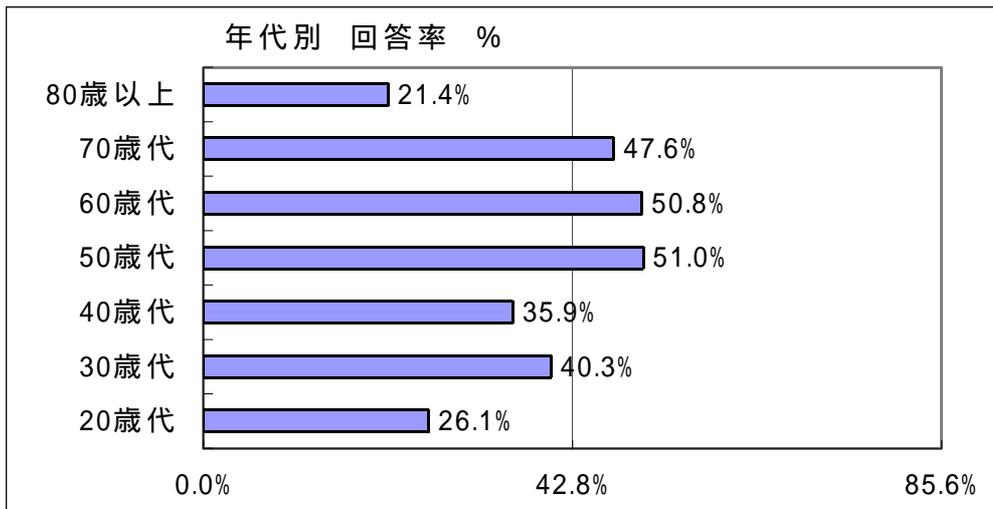
有効発送数：991通（発送数1,000通のうち、あて先不明戻り数：9通）

回 答 数：424通

回 答 率：42.8%

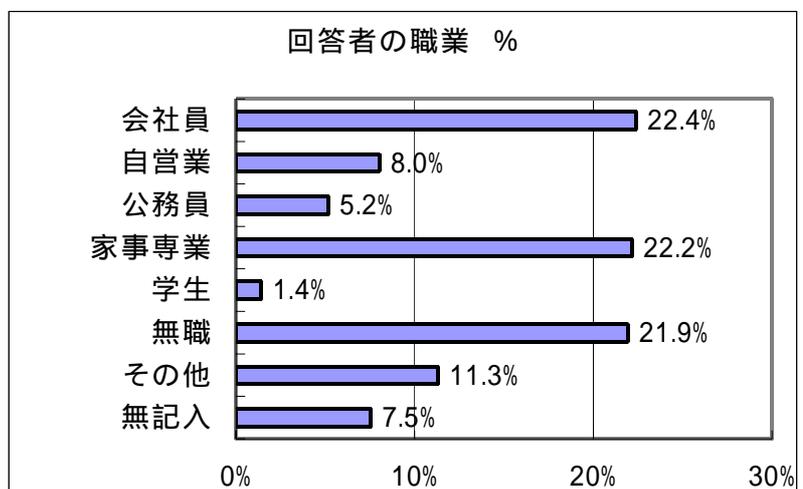
アンケートの回答数は、42.8%となり、他の同様の調査に比べ比較的高い回収率となっています。年代別では、50歳代と60歳代が50%を超え、20歳代と80歳以上が20%台に留まり、比較的高齢者の回答率が高く、若い年代が低い傾向がみられます。

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無記入	合計
総 回答数	35	54	47	103	90	68	15	12	424
男性 回答数	9	21	17	39	36	30	7	1	160
女性 回答数	26	32	29	57	48	31	7	7	237
不明 回答数	0	1	1	7	6	7	1	4	27
回収率 %	26.1%	40.3%	35.9%	51.0%	50.8%	47.6%	21.4%	-	42.8%



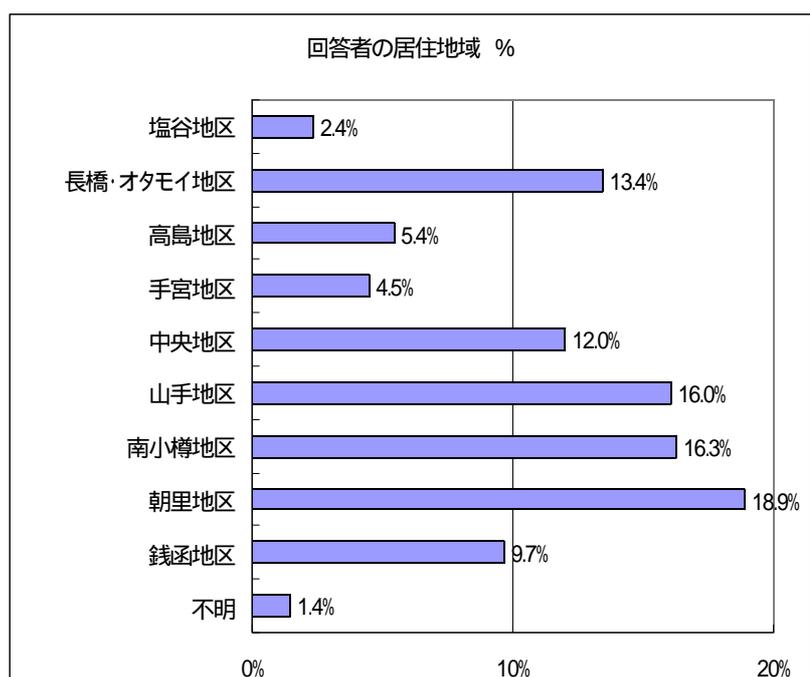
(2) 回答者の職業

区分	回答数	構成比
会社員	95	22.4%
自営業	34	8.0%
公務員	22	5.2%
家事専業	94	22.2%
学生	6	1.4%
無職	93	21.9%
その他	48	11.3%
無記入	32	7.5%



(3) 回答者の居住地域

区分	回答数	構成比
塩谷地区	10	2.4%
長橋・オタモイ地区	57	13.4%
高島地区	23	5.4%
手宮地区	19	4.5%
中央地区	51	12.0%
山手地区	68	16.0%
南小樽地区	69	16.3%
朝里地区	80	18.9%
銭函地区	41	9.7%
無記入	6	1.4%
合計	424	100%



3. 調査結果の概要

環境問題に対する関心度(Q 2)は非常に高く、「関心がある」約50%、「ある程度関心がある」約48%の回答を合わせると約98%になっています。年代別の傾向を見ると「関心がある」と答えた人は高齢の方が多く、若い年代になるほど低くなっています。どちらかと言えば、男性の関心度の方がやや高い傾向がみられます。

「関心がない」と答えた人は7人と少なく傾向を判断できませんが、その理由(Q 4)は、「わからない」4人、「特に理由はない」2人、「自分とは関係ない」1人となっています。

関心のある環境問題(Q 3)は、「地球温暖化問題」約60%、「廃棄物問題」約57%と高く、これ以外の「オゾン層の破壊」などの5項目は約30%、「エネルギーの枯渇」「野生生物種の減少」が20%を下回っています。

男女間で差はありませんが、男性は「廃棄物問題」が1位、女性は「地球温暖化問題」が1位となっており、年代別では40歳代の方が広範囲に環境問題に関心を示しています。

地球温暖化問題に対する周知度(Q 5)は、「知っている」約76%、「聞いたことはある」約20%との回答を合わせると約96%と高くなっています。

「知っている」と答えた人は、ほとんどの年代で70%を超えており、地球温暖化問題は、京都会議以来メディアで報道される機会が増えたことが高い認識度になっていると思われます。

地球温暖化の不安な影響(Q 6)については、「農漁業への影響」約45%、次いで「異常気象」約30%、「海面上昇」約21%となり、「熱帯病」は低く1.5%になっています。

身近な生活に影響を及ぼす項目が上位となっているのは、温暖化の影響が普段の日常生活で実感しづらい反面、漠然とした生活不安を持っていると思われます。

環境に優しい小樽市民ルールに対する周知度(Q 7)は、「知っている」約10%、「聞いたことはある」約23%を合わせると約33%となり、「知らない」は約65%になっています。

年代別にみると、高齢の方が高く、若い年代に行くにつれ低くなっており、20歳代で「知らない」と答えた人は約97%になっています。

環境に優しい小樽市民ルールを何で知りましたか(Q 8)は、「小樽市広報」が約73%と1番多く、他の「新聞折り込みピラ」約9%、「パンフレット」約4%、「小樽市ホームページ」約4%、「説明会」約1%を大きく離しています。

環境家計簿に対する周知度(Q 9)は、「つけたことがある」約2%、「聞いたことはある」約19%を合わせると約21%となり、「知らない」と答えた人は約76%になっています。

対象者が少なく傾向を判断できませんが、「つけたことがある」9人に、つけたことでの省エネ意識の変化を聞いたところ、「省エネを心掛けて生活するようになった」4人、「省エネを考えるようになった」2人という結果になっています。

省エネナビに対する周知度(Q 11)は、「知っている」約2%、「聞いたことはある」約7%と低く、「知らない」と答えた人が約90%になっています。

エコショップに対する周知度(Q 12)は、「知っている」約19%、「聞いたことはある」約30%、「知らない」と答えた人が約49%となっています。

環境配慮行動(Q 13)は、「実行している」と答えた人が50%を超えた項目は21項目中10項目あり、「水切りネット使用」「油を台所に流さない」「野外でごみを燃やさない」の3項目は80%以上と高くなっています。これに「時々実行している」を加えると、21項目中18項目が50%を超え、9項目が80%以上となります。傾向としては、水質やリサイクルに関する項目が上位となり、次いで省エネや温暖化に関する項目と続いています。

環境関連に関する情報入手先(Q 14)は、「テレビ・ラジオ」約63%、「新聞・雑誌」約58%、「小樽市広報」約48%、「回覧板」約22%が多く、他の項目は10%未満で、「家族・友人知人」「インターネット」「小樽市ホームページ」の順になっています。

「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」といったマスメディア関係が高くなっていますが、「小樽市広報」「回覧板」といった行政から市民への情報提供手段が健闘しています。

年代別では、20歳代～40歳代が「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」から情報を得ており、50歳代～80歳以上が「小樽市広報」「回覧板」から情報を得ている傾向が見られます。

知りたい環境情報(Q 15)は、「日常生活でできる環境保全の取り組み方法」約54%、「ごみについての情報」約48%、「環境に関する一般知識」約48%と需要が高く、他の「環境に関するイベント情報」「市民団体の環境活動情報」は10%未満となっています。

買い物袋の持参(Q 16)は、「いつも持参している」約15%、「時々持参している」約27%を合わせると約42%、「したいけれどできない」約6%、「持参しない」約47%を合わせると約52%、「自分で買い物をしない」約3%となっています。

約半数以上の方がレジ袋をいつももらって買い物していると答えており、「時々持参している人」を加えると約79%の人がレジ袋をもらって買い物をしています。この傾向は、男性の方が高く、「したいけれどできない」「持参しない」を合わせた、いつももらっている比率は男性約63%、女性約45%となっています。

年代別にみると、マイバッグを持参して買い物をする年代は高齢になるほど高く、これはレジ袋が普及する以前に買い物かごを利用していた年代と符合します。

レジ袋をもらう理由(Q 17)は、「ごみ袋に利用する」と答えた人が約75%となり、他の理由を大きく離しています。

レジ袋が無料でなくなった場合(Q 18)は、約50%の人が「マイバッグを持参する」と答え、「料金によってどちらとも言えない」と答えた人は約21%になっています。あくまでレジ袋をもらうという「料金を払う」が約5%、「無料の店で買う」が約8%となっています。

レジ袋減量の一つの方法として、スーパーなどで実施しているポイント制度(Q 19)は、「利用している」約22%、「聞いたことがある」約51%を合わせると約73%と高くなっています。この制度については、知っている人は多いが、その割には利用している人は少ない傾向がみられます。

・ 調査結果と分析

1. 環境問題全般について

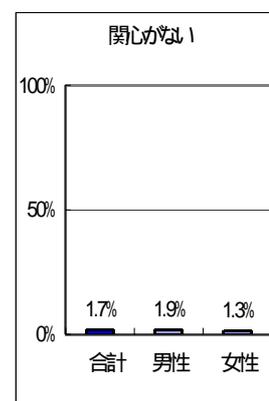
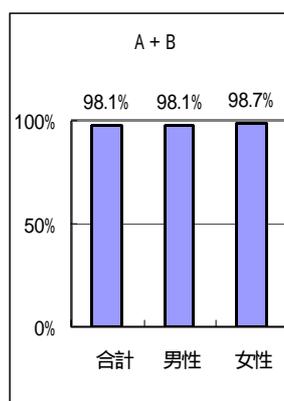
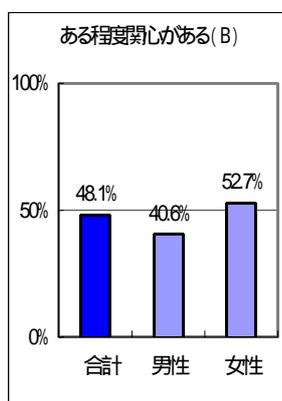
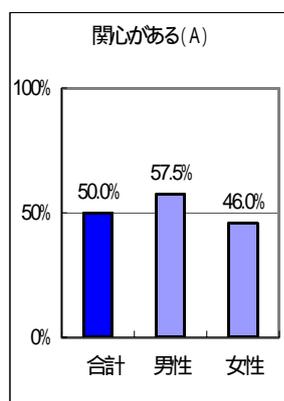
(1) 環境問題への関心度

Q2「環境問題に対して関心がありますか」の問に対して、回答数424人中、423人(99.8%)が回答し、「関心がある」は212人の50.0%、「ある程度関心がある」は204人の48.1%、「関心がない」は7人の1.7%となっています。

「関心がある」、「ある程度関心がある」と答えた人は合わせて98.1%になり、有効回答者のほとんどが環境に対する関心があることとなります。

男女別で見ると、「関心がある」と答えた人は、男性(57.5%)、女性(46.0%)と男性が若干高くなっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
関心がある	92	57.5%	109	46.0%	11	40.7%	212	50.0%
ある程度関心	65	40.6%	125	52.7%	14	51.9%	204	48.1%
小計	157	98.1%	234	98.7%	25	92.6%	416	98.1%
関心がない	3	1.9%	3	1.3%	1	3.7%	7	1.7%
合計	160	100.0%	237	100.0%	26	96.3%	423	99.8%



- 年代別 -

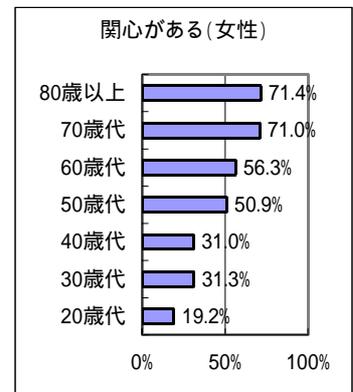
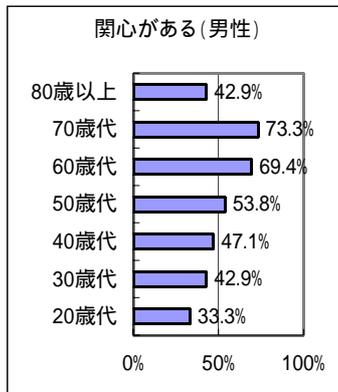
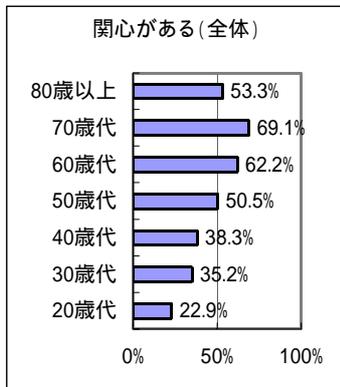
年代別で見ると、全体(男性+女性)では「関心がある」は、70歳代(69.1%)、60歳代(62.2%)、80歳以上(53.3%)、50歳代(50.5%)、40歳代(38.3%)、30歳代(35.2%)、20歳代(22.9%)と高齢者の方が高く、若い年代になるほど低くなっています。

男性では、70歳代、60歳代、女性では、80歳以上、70歳代の環境に対する意識が高くなっています。女性の20歳代が19.2%と最も低くなっています。

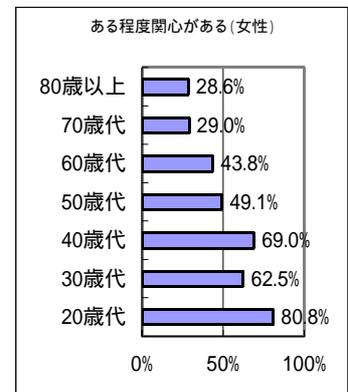
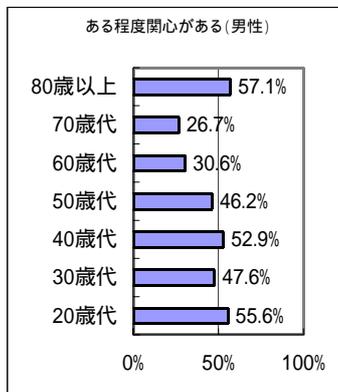
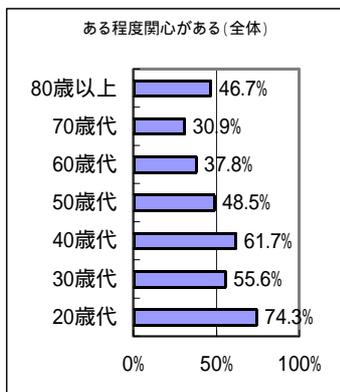
逆に「ある程度関心がある」は、80歳以上を除けば若い年代が高く、高齢になるほど低くなっています。この傾向は、男女別でも同じ傾向を示しています。

「関心がない」と回答した人は7人で、年代別(男女別)で20歳代/1人(男性)、30歳代/5人(男性2人、女性2人、不明1人)、年齢無記入/1人(女性1人)となっています。

【関心がある】



【ある程度関心がある】



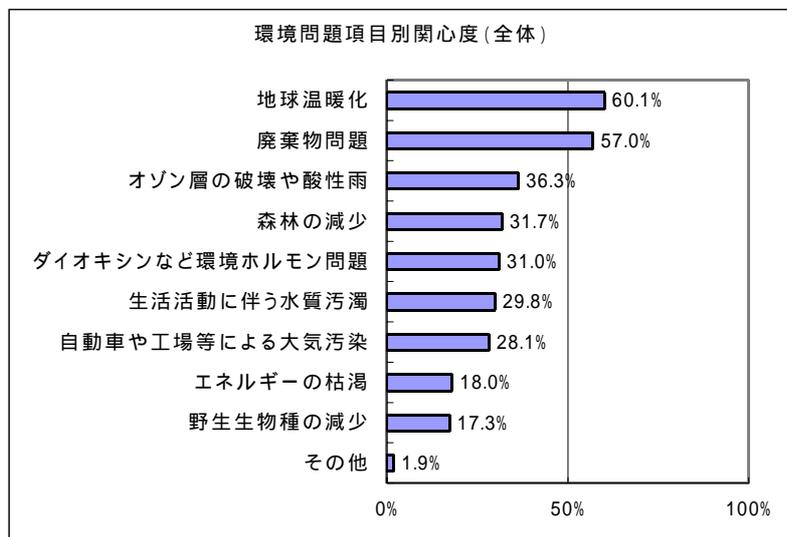
(2) 関心のある環境問題について

Q2で「関心がある(212人)」「ある程度関心がある(204人)」と回答した人に、Q3で「最も関心のある環境問題は何ですか」と尋ねました。(複数回答可)

区分	男性		女性		無記入		合計	
Q2で1・2の回答者数	157人		234人		25人		416人	
地球温暖化	92	58.6%	144	61.5%	14	56.0%	250	60.1%
エネルギーの枯渇	32	20.4%	37	15.8%	6	24.0%	75	18.0%
オゾン層の破壊や酸性雨	56	35.7%	90	38.5%	5	20.0%	151	36.3%
野生生物種の減少	30	19.1%	41	17.5%	1	4.0%	72	17.3%
自動車や工場等による大気汚染	50	31.8%	58	24.8%	9	36.0%	117	28.1%
森林の減少	49	31.2%	77	32.9%	6	24.0%	132	31.7%
生活活動に伴う水質汚濁等	38	24.2%	77	32.9%	9	36.0%	124	29.8%
ダイオキシンなど環境ホルモン問題	42	26.8%	78	33.3%	9	36.0%	129	31.0%
廃棄物問題	94	59.9%	130	55.6%	13	52.0%	237	57.0%
その他	7	4.5%	1	0.4%	0	0.0%	8	1.9%

項目別の関心度

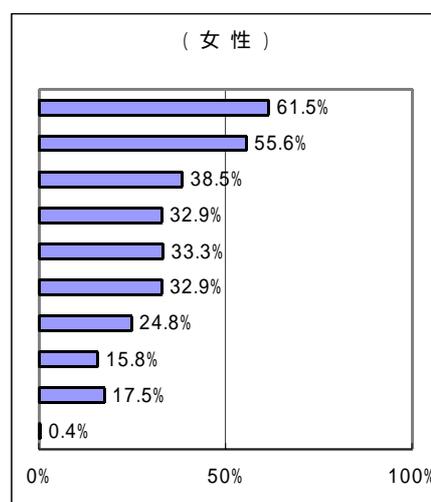
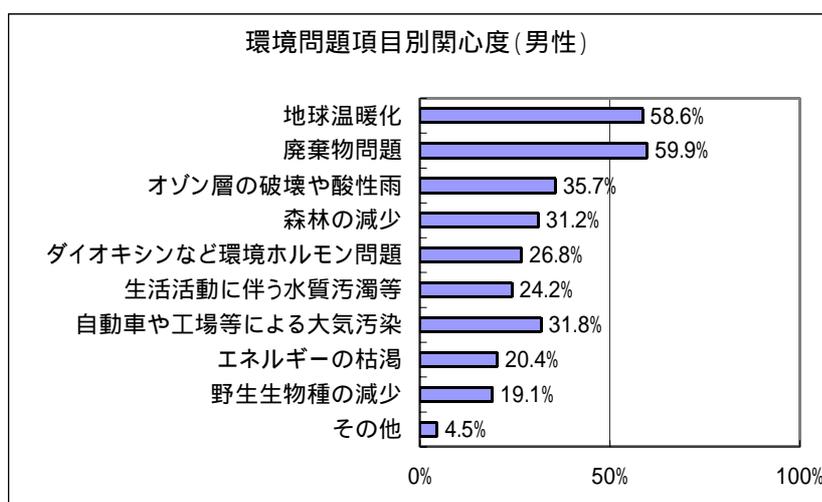
全体（男性＋女性）では、「地球温暖化」（60.1%）と「廃棄物問題」（57.0%）が高い関心度となった。次に「オゾン層の破壊や酸性雨」、「森林の減少」、「ダイオキシンなどの環境ホルモン問題」、「生活活動に伴う水質汚濁」、「自動車や工場等による大気汚染」の順で30%前後で並び、「エネルギーの枯渇」、「野生生物種の減少」は、20%を下回る数値になっています。



男性では、「廃棄物問題」、「地球温暖化」、「オゾン層の破壊や酸性雨」、「自動車や工場による大気汚染」、「森林の減少」、「ダイオキシンなど環境ホルモン問題」、「生活活動に伴う水質汚濁」、「エネルギーの枯渇」、「野生生物種の減少」の順となっています。

女性では、「地球温暖化」、「廃棄物問題」、「オゾン層の破壊や酸性雨」、「ダイオキシンなど環境ホルモン問題」、「生活活動に伴う水質汚濁」、「森林の減少」、「自動車や工場による大気汚染」、「野生生物種の減少」、「エネルギーの枯渇」の順となっています。

男女別では、男性の1位が「廃棄物問題」（59.9%）、女性の1位が「地球温暖化」（61.5%）など環境問題項目の順位に若干の違いがありますが、男女間に大きな違いは見られません。

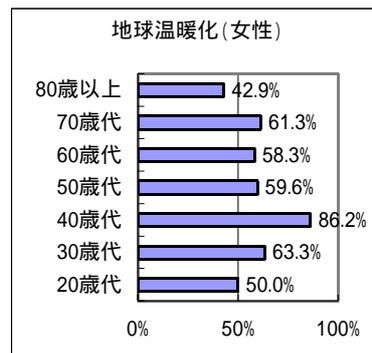
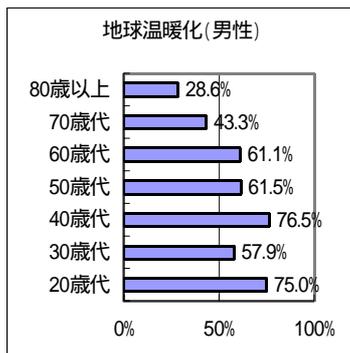
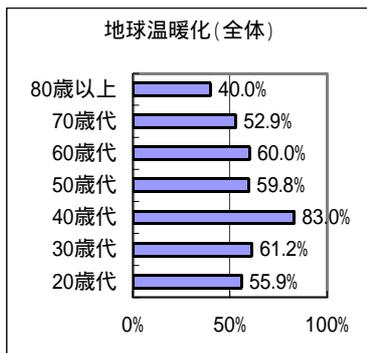


項目毎にみた年代別の関心度

地球温暖化【全体平均60.1%、男性平均58.6%、女性平均61.5%】

全体（男性+女性）では、40歳代が83.0%と最も高く、次いで30歳代（61.2%）、60歳代（60.0%）、50歳代（59.8%）となった。80歳以上を除けば、他の年代も50%を超えています。

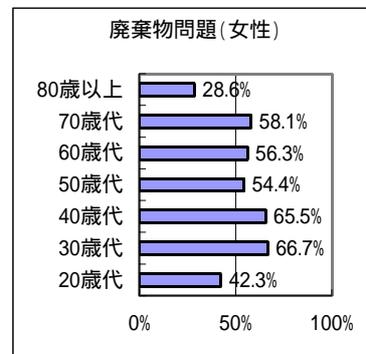
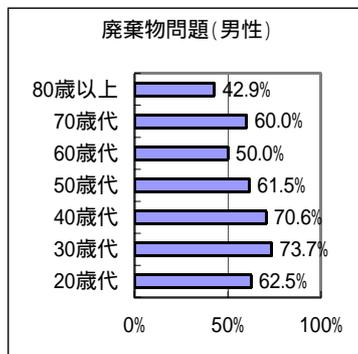
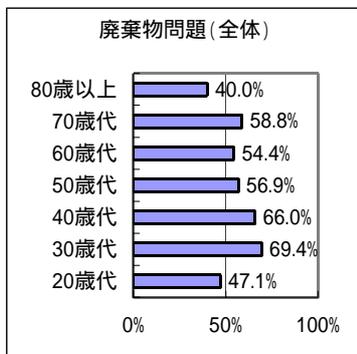
男性では、40歳代 - 20歳代 - 50歳代、女性では、40歳代 - 30歳代 - 70歳代となっており、その中でも、40歳代の女性が86.2%、40歳代の男性が76.5%、20歳代の男性が75.0%と高い関心度となっています。



廃棄物問題【全体平均57.0%、男性平均59.9%、女性平均55.6%】

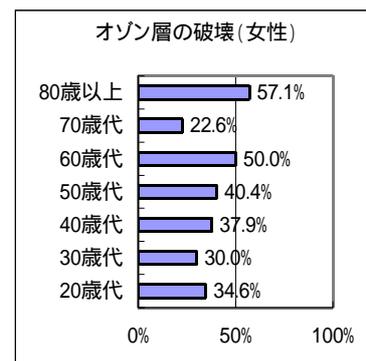
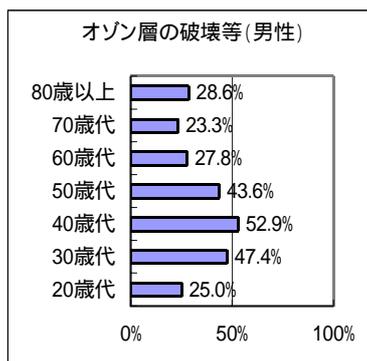
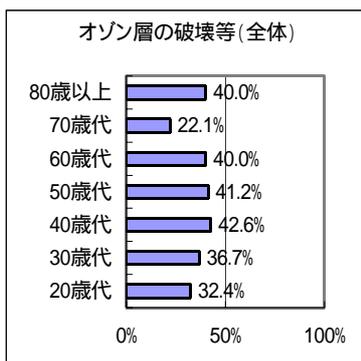
全体では、30歳代が69.4%と最も高く、次いで40歳代（66.0%）、70歳代（58.8%）となっています。「地球温暖化」のように飛び抜けて関心の高い年代はありませんが、20歳代と80歳以上の他は50%を超えています。

男性では、30歳代 - 40歳代 - 20歳代、女性では、30歳代 - 40歳代 - 70歳代の順になっており、中でも30歳代（男性）と40歳代（女性）が70%を超えています。



オゾン層の破壊や酸性雨【全体平均36.3%、男性平均35.7%、女性平均38.5%】

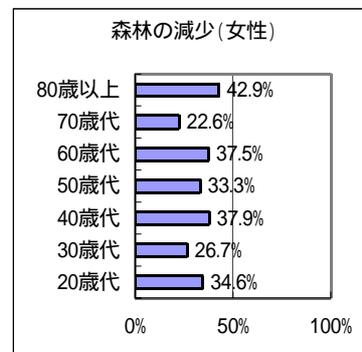
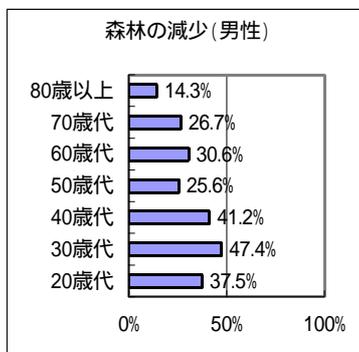
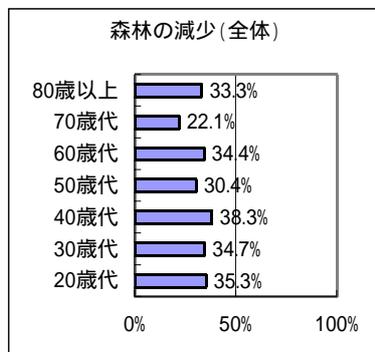
全体では、40歳代が42.6%と最も高く、次いで50歳代（41.2%）、60歳代・80歳以上（40.0%）となっています。男女別で、最も関心度が高いのは80歳以上（女性）の57.1%となっています。



森林の減少【全体平均 31.7%、男性平均 31.2%、女性平均 32.9%】

全体では、40歳代が38.3%と最も高く、次いで20歳代(35.3%)、30歳代(34.7%)となっています。70歳代以外は各年代とも30%台の数値となっています。

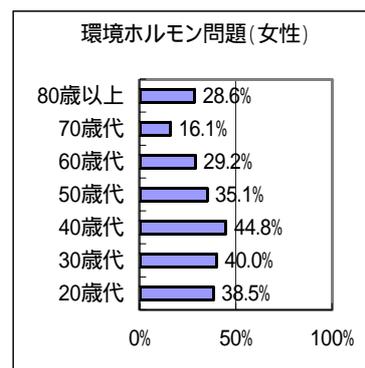
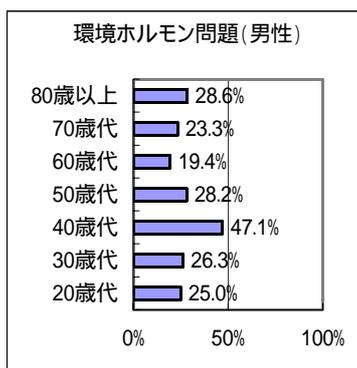
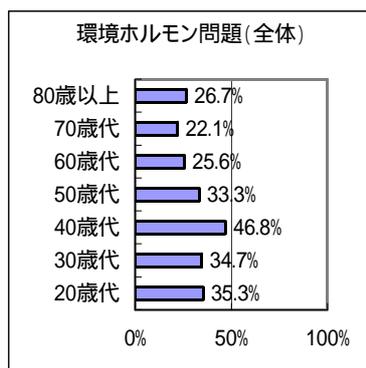
男女別では、男性が30歳代の47.4%、女性は80歳以上の42.9%が最も高い関心度となっています。



ダイオキシン・環境ホルモン【全体平均 31.0%、男性平均 26.8%、女性平均 33.3%】

全体では、40歳代が46.8%と最も高く、次いで20歳代(35.3%)、30歳代(34.7%)となっています。

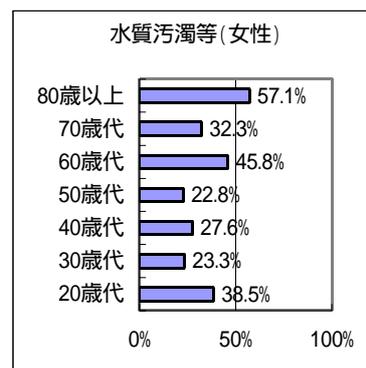
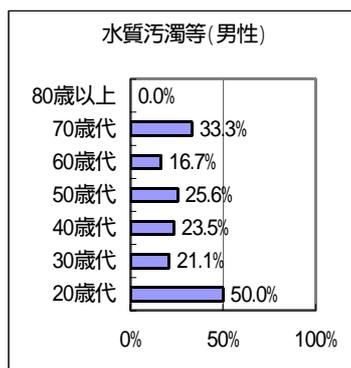
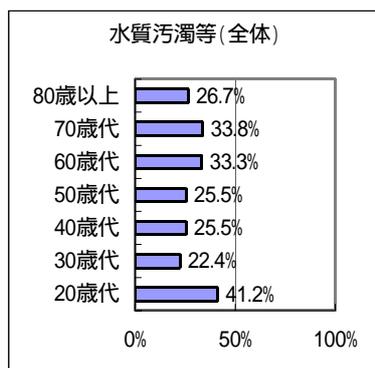
男女別では、男性が40歳代の47.1%、女性は40歳代の44.8%が最も高い関心度となっています。



生活活動に伴う水質汚濁【全体平均 29.8%、男性平均 24.2%、女性平均 32.9%】

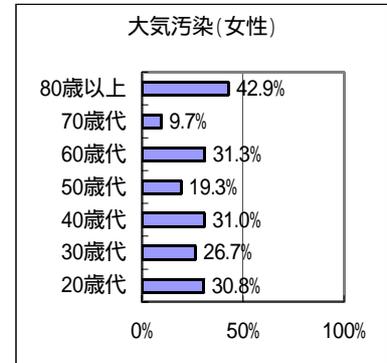
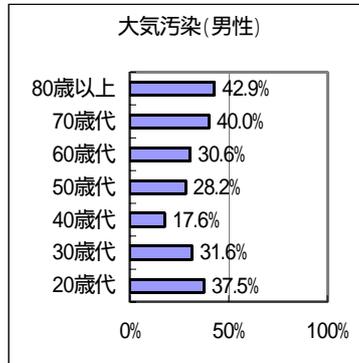
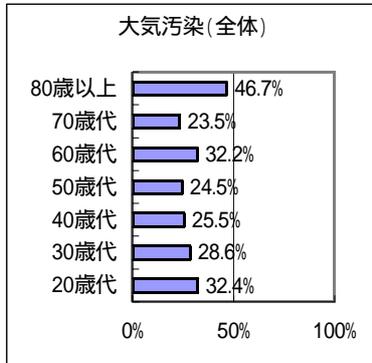
全体では、20歳代が41.2%と最も高く、次いで70歳代(33.8%)、60歳代(33.3%)、80歳以上(26.7%)となっています。

男女別では、男性が20歳代の50.0%、女性は80歳以上の57.1%が最も高い関心度となっています。



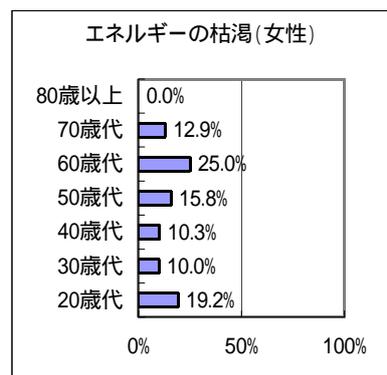
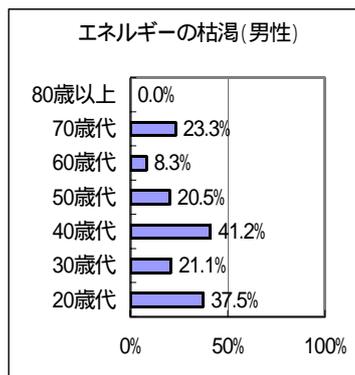
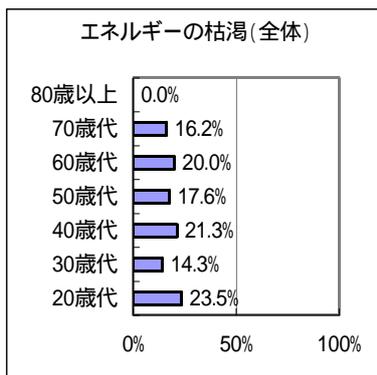
自動車・工場等の大気汚染【全体平均28.1%、男性平均31.8%、女性平均24.8%】
 全体では、80歳以上が46.7%と最も高く、次いで20歳代(32.4%)、60歳代(32.2%)となっています。

男女別では、男性が80歳以上の42.9%、女性は80歳以上の42.9%が最も高い関心度となっています。



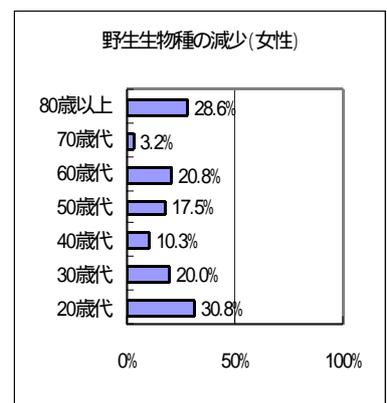
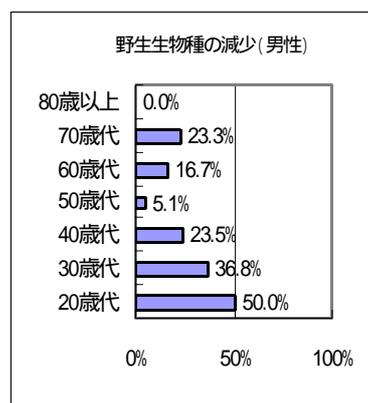
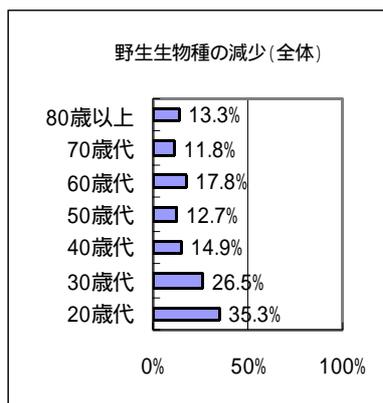
エネルギーの枯渇【全体平均18.0%、男性平均20.4%、女性平均15.8%】
 全体では、20歳代が23.5%と最も高く、次いで40歳代(21.3%)、60歳代(20.0%)となっています。

男女別では、男性が40歳代の41.2%、女性は60歳代の25.0%が最も高い関心度となっています。



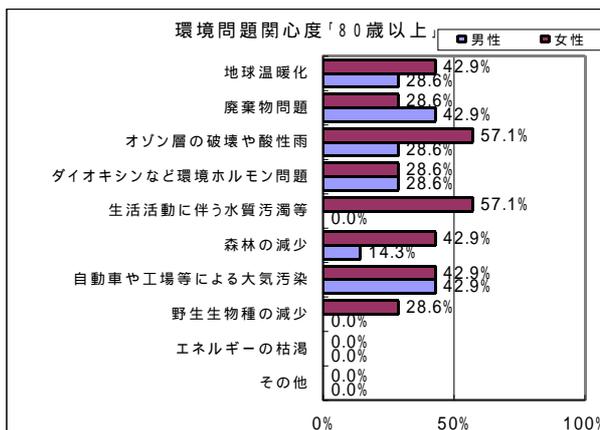
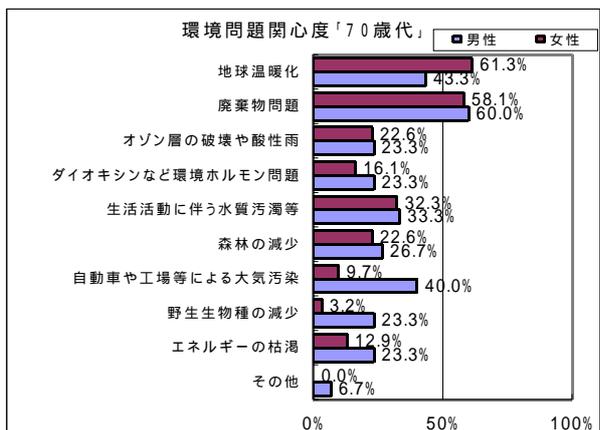
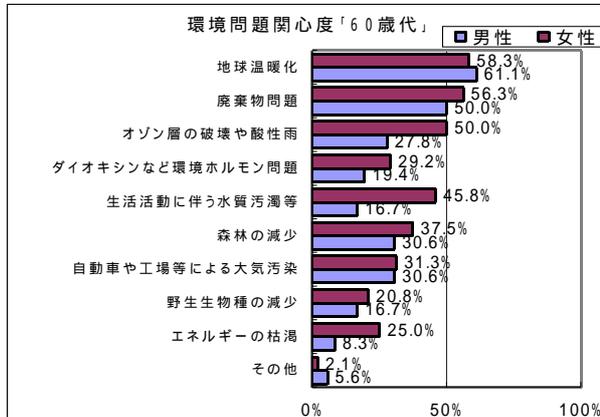
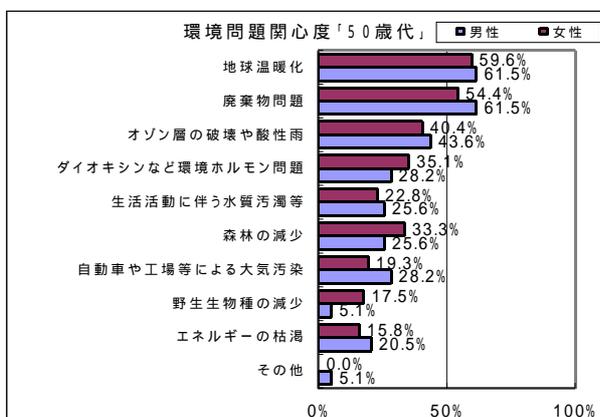
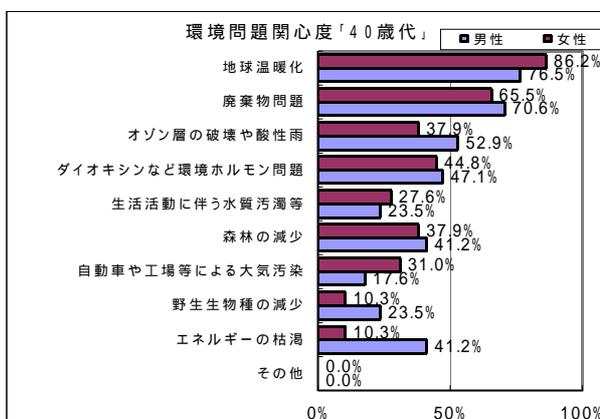
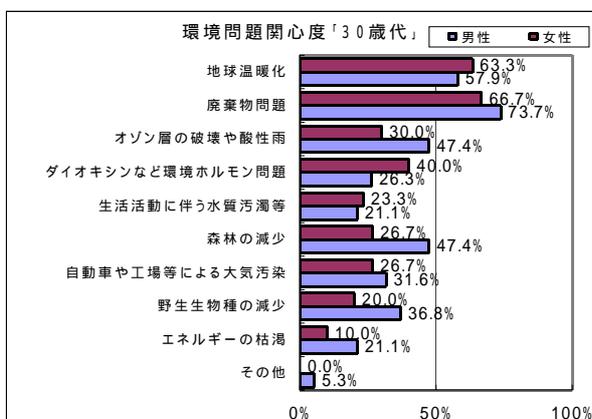
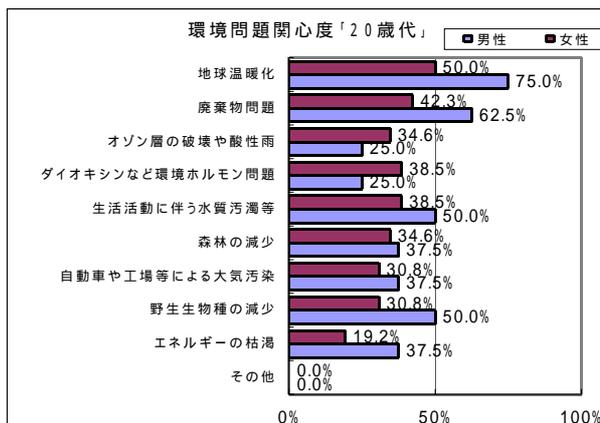
野生生物種の減少【全体平均17.3%、男性平均19.1%、女性平均17.5%】
 全体では、20歳代が35.3%と最も高く、次いで30歳代(26.5%)、60歳代(17.8%)となっています。

男女別では、男性が20歳代の50.0%、女性も20歳代の30.8%が最も高い関心度となっています。



年代別（性別）の環境問題項目の関心度

地球温暖化 / 40歳代（女性）	86.2%
廃棄物問題 / 30歳代（男性）	73.7%
オゾン層 / 80歳以上（女性）	57.1%
環境ホルモン / 40歳代（女性）	47.1%
水質汚濁 / 80歳以上（女性）	57.1%
森林の減少 / 30歳代（男性）	47.7%
大気汚染 / 80歳以上（男・女）	42.9%
野生生物種 / 20歳代（男性）	50.0%
エネルギー / 40歳代（男性）	41.2%



(3) 環境問題に関心のない理由

Q2で「関心がない」と答えた人に、Q4で「その理由」を尋ねました。

- ・「直接自分の生活とは関係ないから」 1人(20歳代の男性)
- ・「とくに理由はない」 2人(30歳代の男性1人、年齢無回答の女性1人)
- ・「わからないから」 4人(30歳代の男性1人、30歳代の女性2人、年齢・性別不明の人1人)

2. 地球温暖化問題について

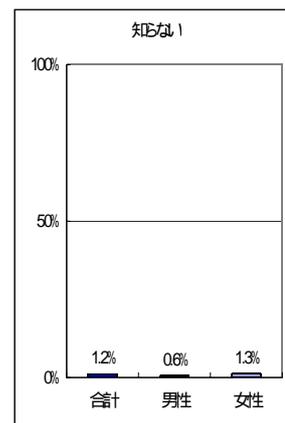
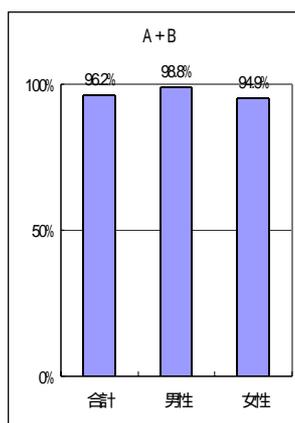
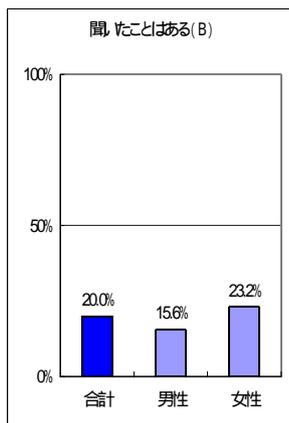
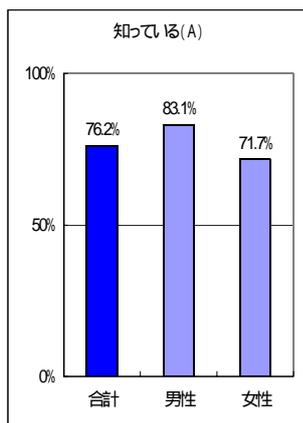
(1) 地球温暖化の認知度

Q5「地球温暖化問題についておうかがいします」の問に対して、アンケート回答者424人中、413人(97.4%)の人が回答し、「知っている」は323人の76.2%、「聞いたことはある」は85人の20.0%、「知らない」は5人の1.2%となっています。

「知っている」、「聞いたことはある」と答えた人を合わせると96.2%になり、環境問題の関心度と同様に有効回答者のほとんどの人が「地球温暖化」を知っていることとなります。

男女別で見ると、「知っている」と答えた人は、男性(83.1%)、女性(71.7%)で男性が若干高くなっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
知っている	133	83.1%	170	71.7%	20	74.1%	323	76.2%
聞いたことはある	25	15.6%	55	23.2%	5	18.5%	85	20.0%
小計	158	98.8%	225	94.9%	25	92.6%	408	96.2%
知らない	1	0.6%	3	1.3%	1	3.7%	5	1.2%
合計	159	99.4%	228	96.2%	26	96.3%	413	97.4%



- 年代別 -

「知っている」

年代別で見ると、全体(男性+女性)で「知っている」と答えた人は、40歳代(80.9%)、50歳代(80.6%)、30歳代(77.8%)、20歳代(77.1%)、60歳代(74.4%)、80歳以上(73.3%)、70歳代(72.1%)となっており、各年代とも70~80%台の高い数値になっています。

男性では、50歳代、20歳代、40歳代、60歳代が80%を超えて認知度は非常に高くなっています。

女性では、男性より低いものの40歳代、30歳代、50歳代、20歳代、80歳以上が70%を超えています。認知度が低い70歳代(女性)でも58.1%と半数を超えています。

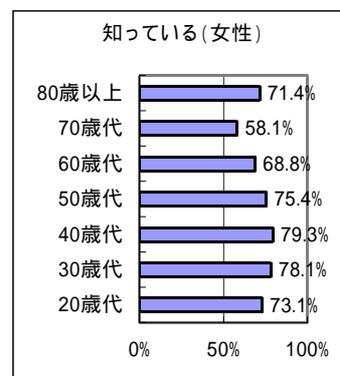
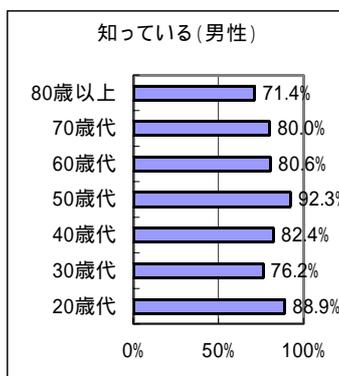
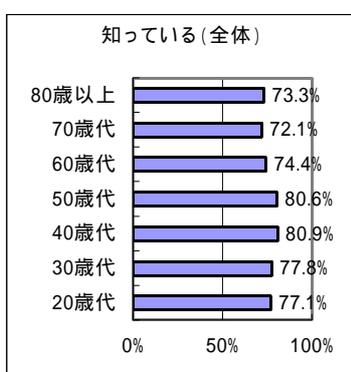
「聞いたことはある」

「聞いたことはある」と回答した人は各年代とも約20%で、男性の20歳代、50歳代、60歳代が少し低いです、男女とも大きな差はありません。

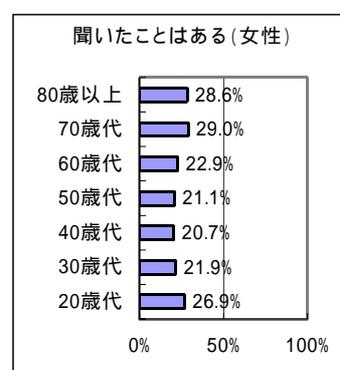
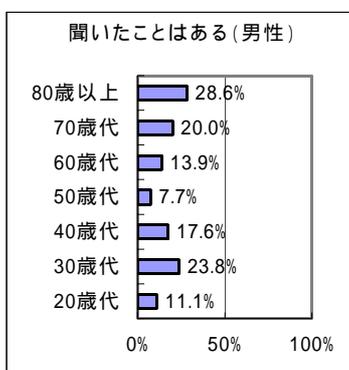
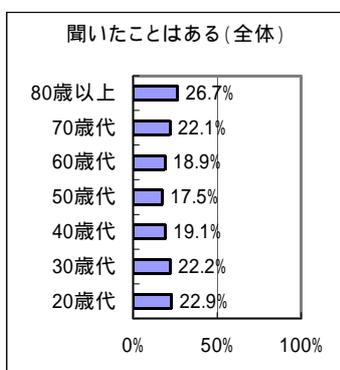
「知らない」

「知らない」と回答した人は5人で、年代別(男女別)で60歳代/1人(男性)、70歳代/2人(女性2人)、年齢無記入/2人(女性1人・不明1人)となっています。

【知っている】



【聞いたことはある】



(2) 地球温暖化の影響に対する不安

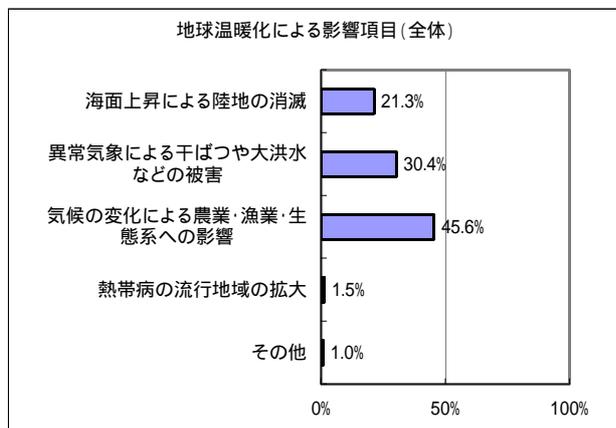
Q5で「知っている(323人)」「聞いたことはある(85人)」と回答した人に、Q6で「予想される地球温暖化の中で最も不安に感じることは何ですか」と尋ねました。

区分	男性	女性	無記入	合計
Q5で1・2の有効回答者数	158人	225人	25人	408人
海面上昇による陸地の消滅	35 22.2%	49 21.8%	3 12.0%	87 21.3%
異常気象による干ばつや大洪水などの被害	53 33.5%	63 28.0%	8 32.0%	124 30.4%
気候の変化による農業・漁業・生態系への影響	65 41.1%	108 48.0%	13 52.0%	186 45.6%
熱帯病の流行地域の拡大	1 0.6%	4 1.8%	1 4.0%	6 1.5%
その他	4 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.0%

(1人回答なし)

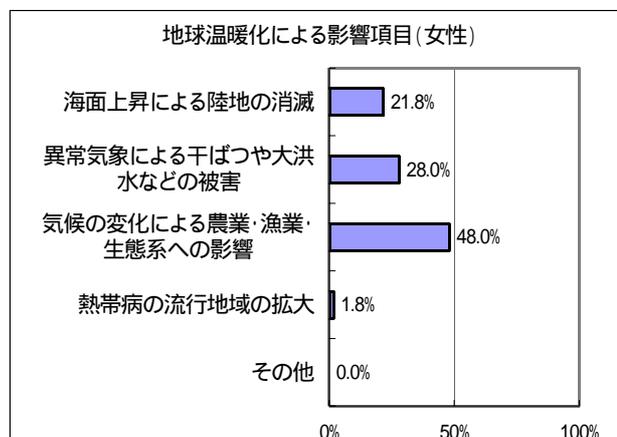
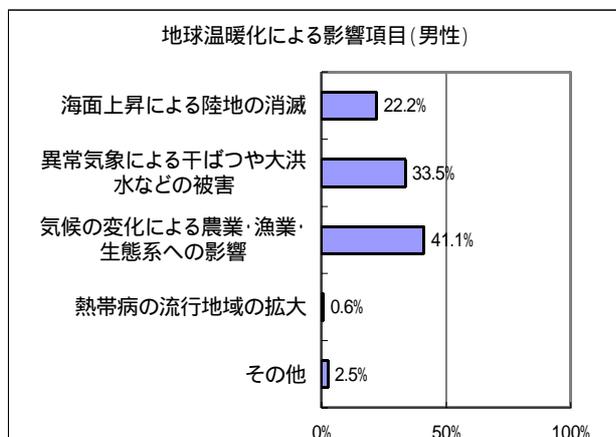
温暖化の影響による不安項目

温暖化の不安項目は、全体（男性＋女性）では、「気候の変化による農業・漁業・生態系への影響」が45.6％と最も高く、次に、「異常気象による干ばつや大洪水などの被害」（30.4％）、「海面上昇による陸地の消滅」（21.3％）、「熱帯病の流行地域の拡大」（1.5％）となっています。温暖化の影響でよく言われている「海面上昇」については不安項目の3番目となっています。



男女別で見ると、男女とも「気候の変化による農業・漁業・生態系への影響」、「異常気象による干ばつや大洪水などの被害」、「海面上昇による陸地の消滅」、「熱帯病の流行地域の拡大」となっており順位は変わりません。

地球温暖化を身近に感じる事ができないことから、不安項目は生活に直接関係するものが上位にきたものと思われます。

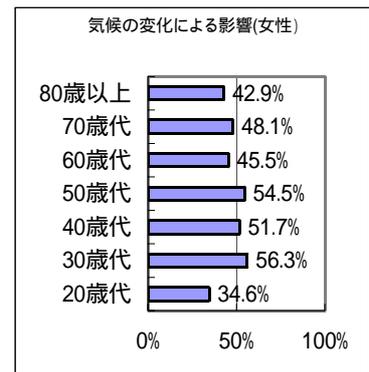
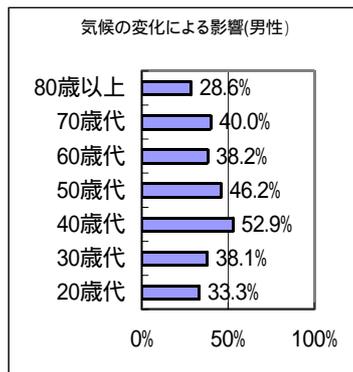
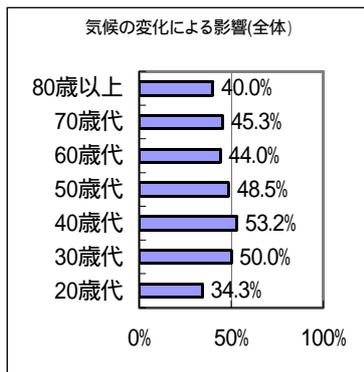


項目毎にみた年代別・男女別の不安度

気候の変化による農業・漁業・生態系への影響

全体（男性＋女性）では、40歳代が53.2％と最も高く、次いで30歳代（50.0％）、50歳代（48.5％）、70歳代（45.3％）となっています。

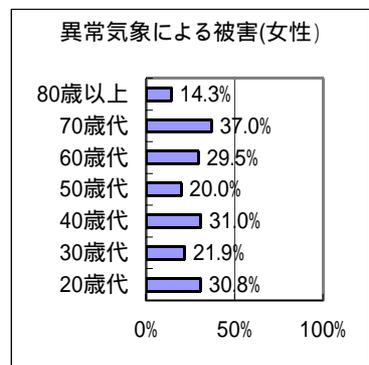
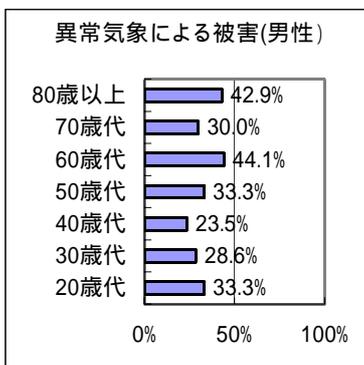
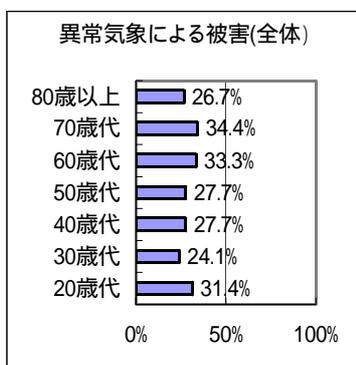
男性では、40歳代 - 50歳代 - 70歳代、女性では、30歳代 - 50歳代 - 40歳代となっており、その中でも、30歳代の女性が56.3％と最も高くなっています。



異常気象による干ばつや大洪水などの被害

全体（男性＋女性）では、70歳代が34.4%と最も高く、次いで60歳代（33.3%）、20歳代（31.4%）となりました。他の年代は、20%台となっています。

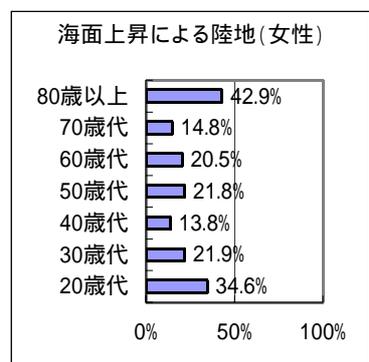
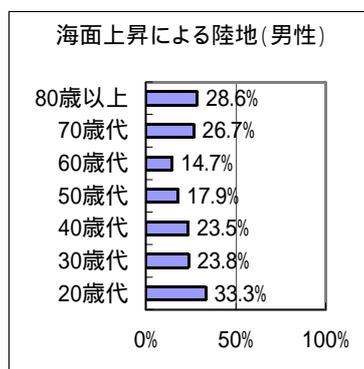
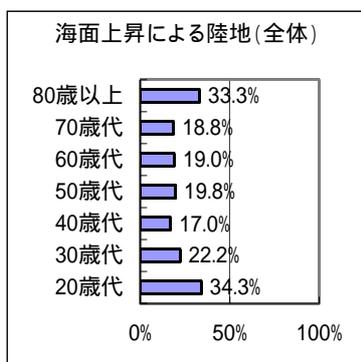
男性では、60歳代 - 80歳以上 - 20歳代・50歳代、女性では、70歳代 - 40歳代 - 20歳代となっており、その中でも、60歳代の男性が44.1%と最も高くなっています。



海面上昇による陸地の消滅

全体（男性＋女性）では、20歳代が34.3%と最も高く、次いで80歳以上（33.3%）、30歳代（22.2%）となっており、その他の年代は10%台になっています。

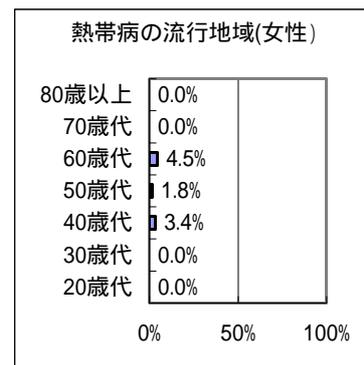
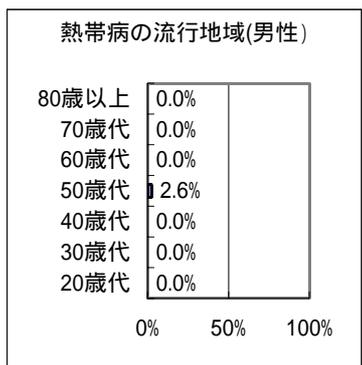
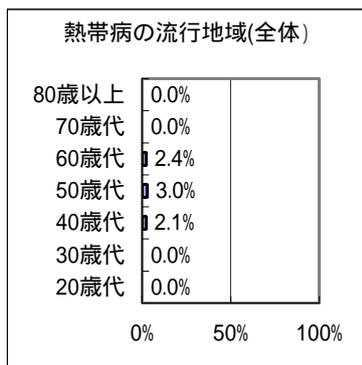
男性では、20歳代 - 80歳以上 - 70歳代、女性では、80歳以上 - 20歳代 - 30歳代となっており、その中で80歳以上の女性が42.9%と最も高くなっています。



熱帯病の流行地域の拡大

熱帯病の流行地域の拡大については、全体（男性＋女性）・男性・女性とも不安項目として挙げている年代はほとんどありませんでした。

寒冷地である北海道ではあまり意識する不安項目とはならなかったと思われます。



3. 環境にやさしい小樽市民ルールについて

(1) 環境にやさしい小樽市民ルールの周知度

Q7「環境にやさしい小樽市民ルールをご存じですか」の問に対して、アンケート回答者424人中、414人(97.6%)の人が回答し、「知っている」は41人の9.7%、「聞いたことはある」は99人の23.3%、「知らない」は274人の64.6%となっています。

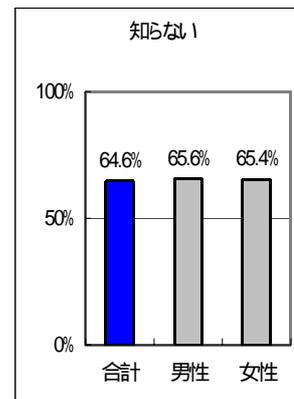
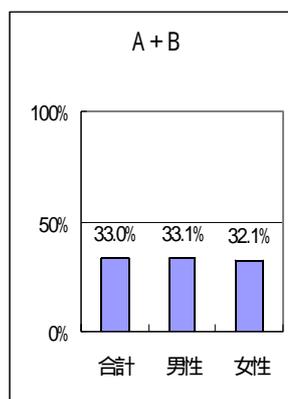
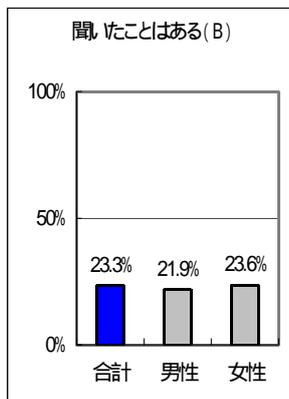
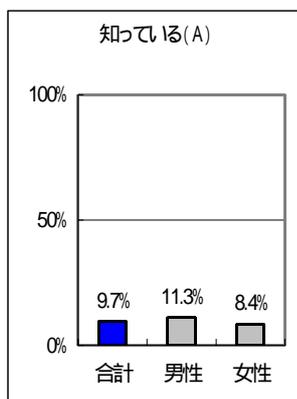
「知っている」と「聞いたことはある」を合わせても33.0%と「環境にやさしい小樽市民ルール」の市民への周知度は3割強にとどまっています。

男女別で見ると「知っている」と答えた人は、男性(11.3%)、女性(8.4%)で男性の認知度の方が若干高くなっています。

「聞いたことはある」を含めると男性(33.1%)、女性(32.1%)となり、ほぼ同じ率となっています。

「知らない」は、男性・女性とも65%程度になっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
知っている	18	11.3%	20	8.4%	3	11.1%	41	9.7%
聞いたことはある	35	21.9%	56	23.6%	8	29.6%	99	23.3%
小計	53	33.1%	76	32.1%	11	40.7%	140	33.0%
知らない	105	65.6%	155	65.4%	14	51.9%	274	64.6%
合計	158	98.8%	231	97.5%	25	92.6%	414	97.6%

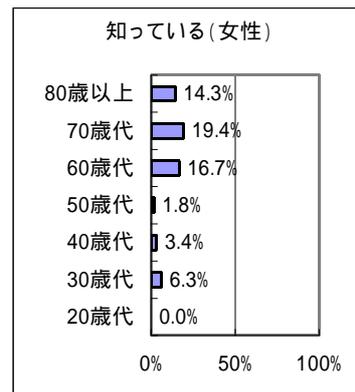
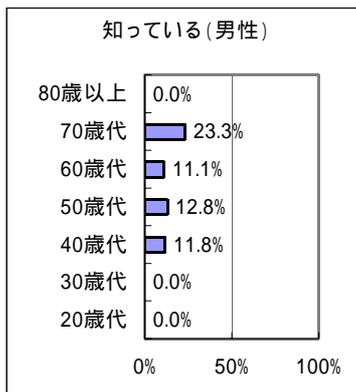
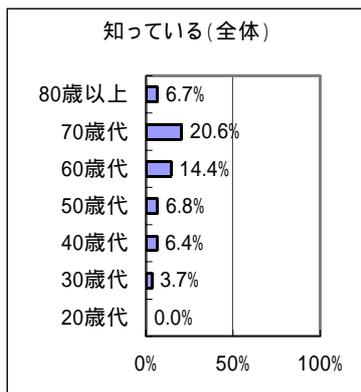


- 年代別 -

「知っている」

年代別で見ると、全体（男性+女性）では、「知っている」と答えた人が、70歳代（20.6%）- 60歳代（14.4%）- 50歳代（6.8%）の順になっていますが、周知度の最も高い70歳代でも約2割となっています。

男性では、70歳代 - 50歳代 - 40歳代、女性では、70歳代 - 60歳代 - 80歳以上の順となっています。最も周知度の高い年代は、70歳代（男性）の23.3%となっています。

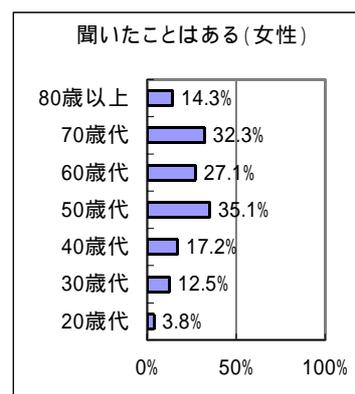
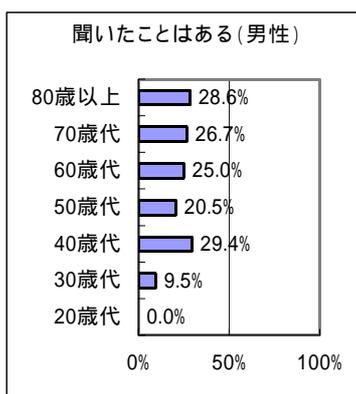
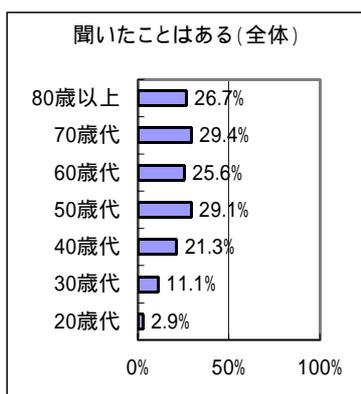


「聞いたことはある」

全体（男性+女性）では、「聞いたことはある」と答えた人が、70歳代（29.4%）- 50歳代（29.1%）- 80歳以上（26.7%）の順となっています。

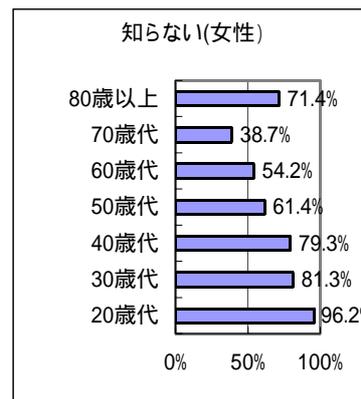
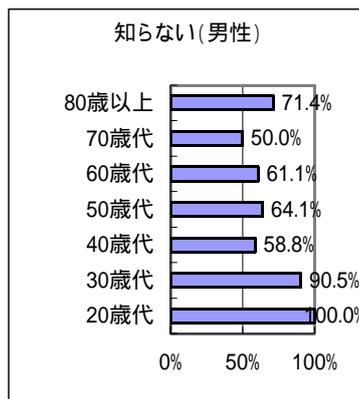
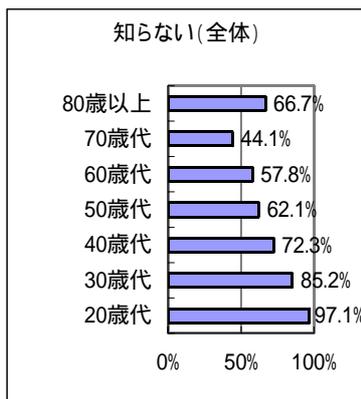
男性では、40歳代 - 80歳以上 - 70歳代、女性では50歳代 - 70歳代 - 60歳代の順となっています。

「知っている」と「聞いたことはある」の合計では、全体（男性+女性）で、70歳代（50.0%）- 60歳代（40.0%）- 50歳代（35.9%）- 80歳以上（33.3%）- 40歳代（27.7%）- 30歳代（14.8%）- 20歳代（2.9%）の順となり、若い年代ほど周知度が低くなっています。



「知らない」

男性では20代が100%、30歳代90.5%と非常に高い数値になっています。女性では、男性ほどではありませんが、同じく20代が96.2%、30歳代81.3%となっています。



(2) 環境にやさしい小樽市民ルールの情報入手先

Q7で「知っている(41人)」「聞いたことはある(99人)」と回答した140人にQ8で「どこで知りましたか」を尋ねました。

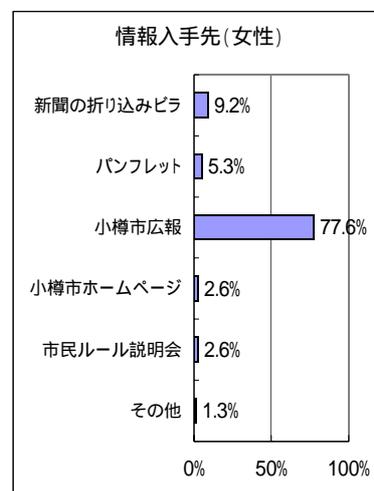
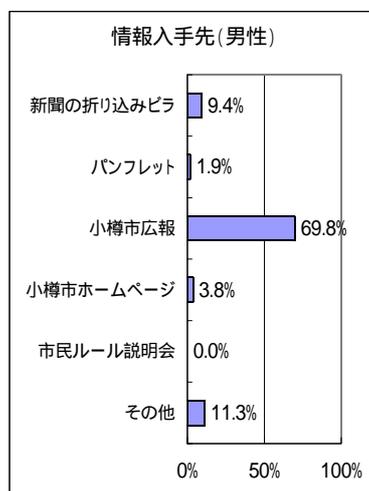
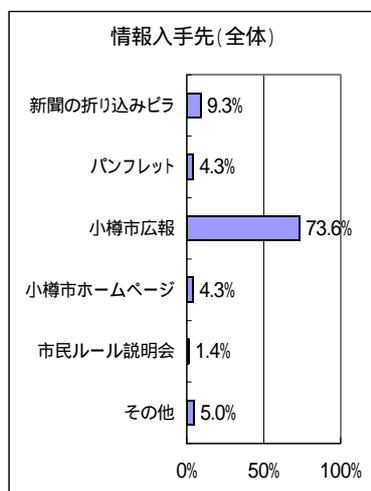
情報の入手先は、全体(男性+女性)で、「小樽市広報」(73.6%)が最も高く、次に「新聞の折り込みビラ」(9.3%)、「小樽市ホームページ」(4.3%)、「パンフレット」(4.3%)、「市民ルール説明会」(1.4%)となっています。

男性では、「小樽市広報」、「新聞の折り込みビラ」、「小樽市ホームページ」、「パンフレット」、女性では、「小樽市広報」、「新聞の折り込みビラ」、「パンフレット」、「小樽市ホームページ」、「市民ルール説明会」の順となっています。

情報入手先は、男性・女性とも、ほとんど「小樽市広報」となっています。

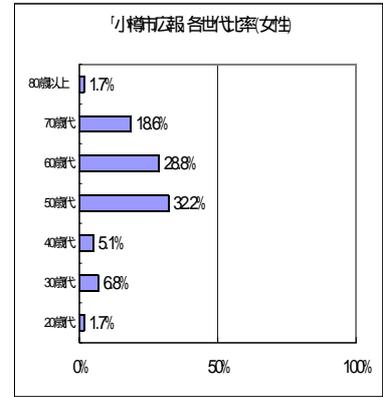
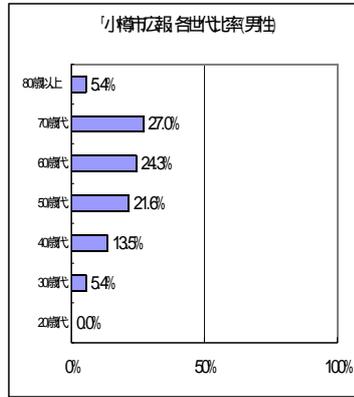
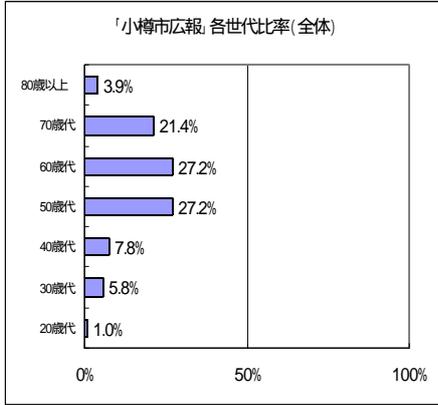
区分	男性		女性		無記入		合計	
Q7で1・2の回答者数	53人		76人		11人		140人	
新聞の折り込みビラ	5	9.4%	7	9.2%	1	9.1%	13	9.3%
パンフレット	1	1.9%	4	5.3%	1	9.1%	6	4.3%
小樽市広報	37	69.8%	59	77.6%	7	63.6%	103	73.6%
小樽市ホームページ	2	3.8%	2	2.6%	2	18.2%	6	4.3%
市民ルール説明会	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	2	1.4%
その他	6	11.3%	1	1.3%	0	0.0%	7	5.0%

(未回答者3人)



- 「小樽市広報」の年代別 -

情報の入手先のほとんどが「小樽市広報」であったことから、男女別・年代別の割合を見ると、男性では、70歳代 - 60歳代 - 50歳代 - 40歳代 - 30歳代 - 80歳以上の順になっており、女性では、50歳代 - 60歳代 - 70歳代 - 30歳代 - 40歳代 - 80歳以上 - 20歳代の順となっています。若い年代ほど、「小樽市広報」から情報を得ていない傾向がみられます。



4. 環境家計簿について

(1) 環境家計簿の周知度

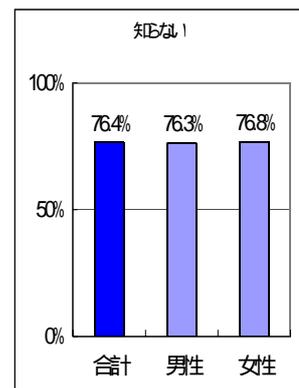
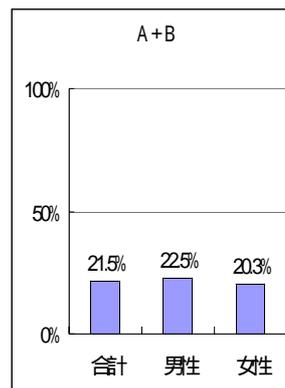
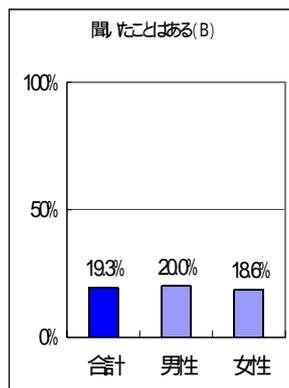
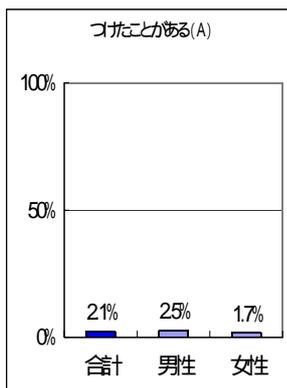
Q9「環境家計簿をご存じですか」の問に対して、アンケート回答者424人中、415人(97.9%)の人が回答し、「つけたことがある」は9人の2.1%、「聞いたことがある」は82人の19.3%、「知らない」は324人の76.4%となっています。

「つけたことがある」と「聞いたことはある」を合わせても21.5%と「環境家計簿」の市民への周知度は、「市民ルール」よりさらに低くなっています。

男女別で見ると、「つけたことがある」と答えた人は、男性(2.5%)、女性(1.7%)となっています。

「聞いたことはある」を含めると男性(22.5%)、女性(20.3%)となっており、「知らない」は男性・女性とも76%程度になっています。

区分	男性	女性	無記入	合計
有効回答者者数	160人	237人	27人	424人
つけたことがある	4 2.5%	4 1.7%	1 3.7%	9 2.1%
聞いたことはある	32 20.0%	44 18.6%	6 22.2%	82 19.3%
小計	36 22.5%	48 20.3%	7 25.9%	91 21.5%
知らない	122 76.3%	182 76.8%	20 74.1%	324 76.4%



- 年代別 -

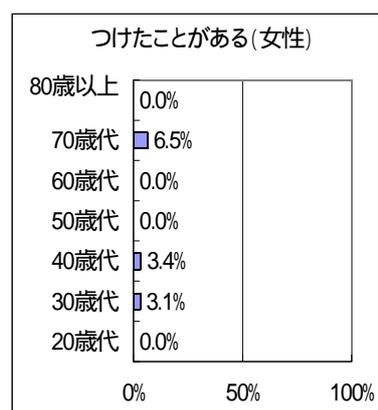
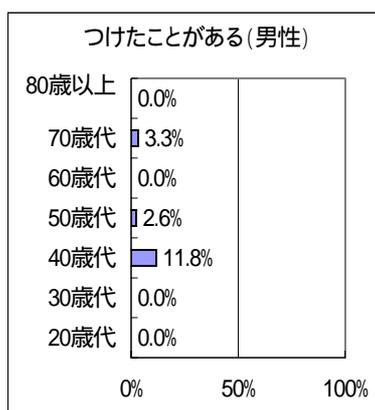
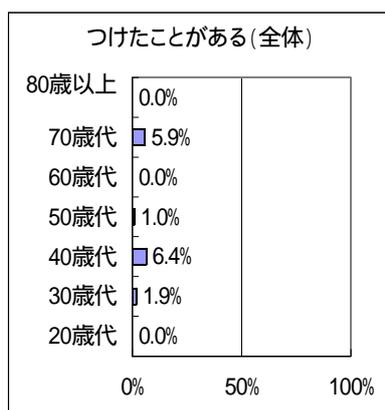
年代別を見ると、全体（男性＋女性）では、「つけたことがある」と答えた人が、40歳代（6.4%）－70歳代（5.9%）－30歳代（1.9%）－50歳代（1.0%）となっています。20歳代、60歳代、80歳以上では、つけた人がいませんでした。

男性では、40歳代が11.8%、女性では、70歳代が6.5%となっています。

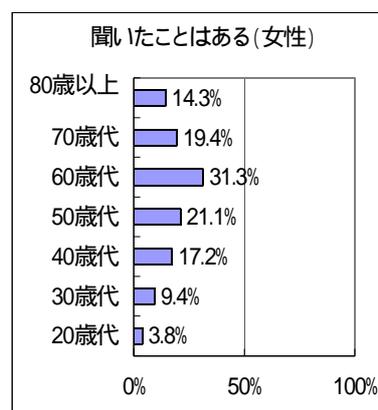
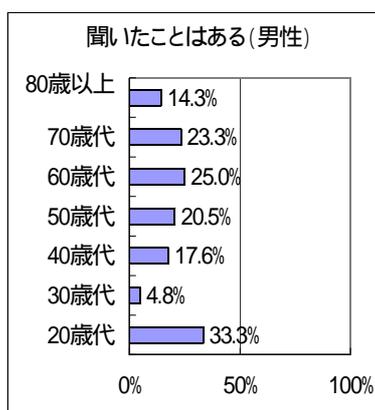
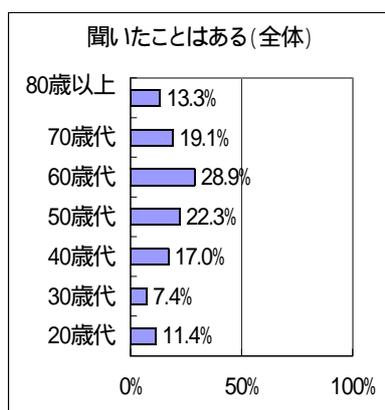
「聞いたことはある」と答えた人の全体（男性＋女性）では、60歳代（28.9%）－50歳代（22.3%）－70歳代（19.1%）－40歳代（17.0%）－80歳以上（13.3%）－20歳代（11.4%）－30歳代（7.4%）の順となり、最も高い年代の60歳代でも3割弱となっています。

「知らない」と答えた人は、男性で30歳代が95.2%、女性で20歳代が96.2%となっており、他の年代でも「知らない」人の比率が高くなっています。

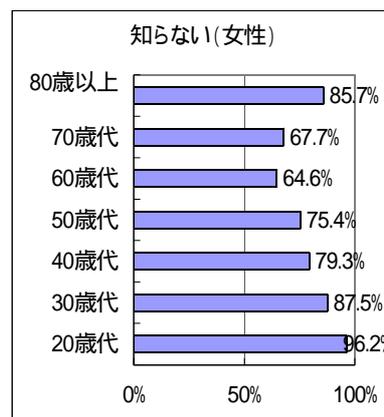
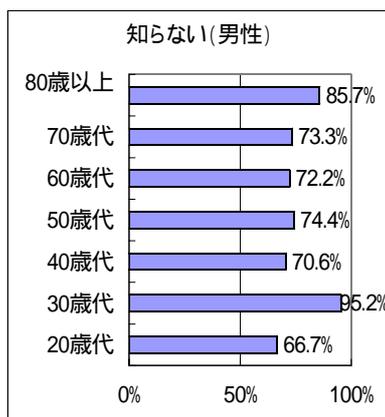
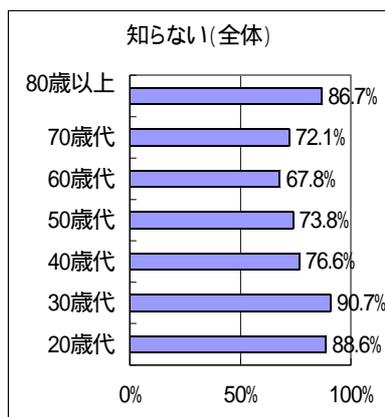
【つけたことがある】



【聞いたことはある】



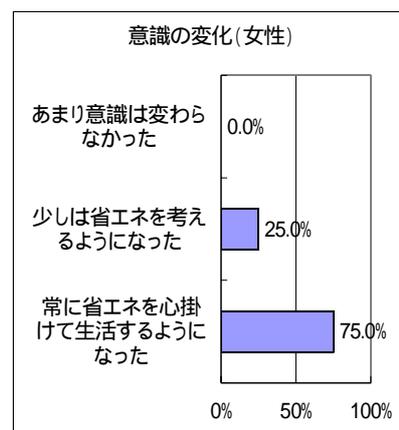
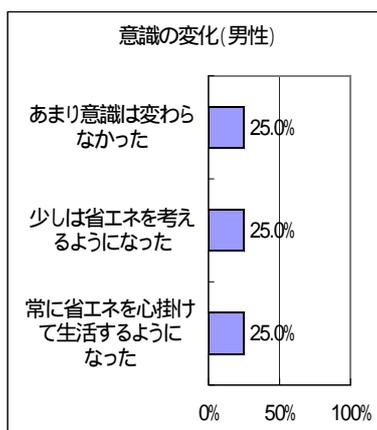
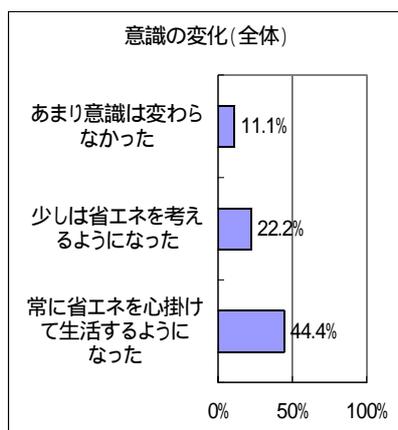
【知らない】



(2) 環境家計簿による省エネ意識の変化

Q9で「つけたことがある」(9人)と回答した人に、Q10で「省エネの意識はどう変わりましたか」と尋ねました。

意識の変化としては、全体(男性+女性)で「常に省エネを心掛けて生活するようになった」(44.4%)4人、「少しは省エネを考えるようになった」(22.2%)2人となっています。



5. 省エネナビについて

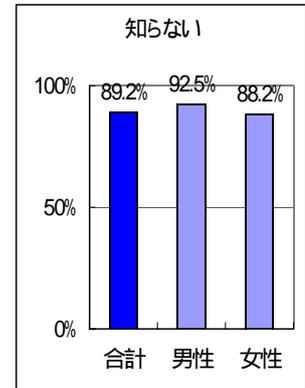
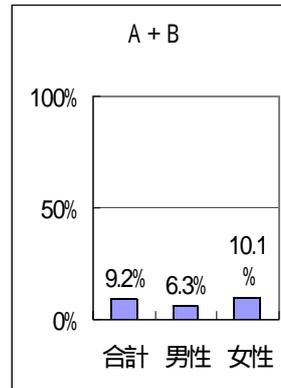
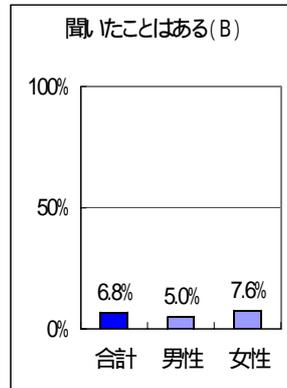
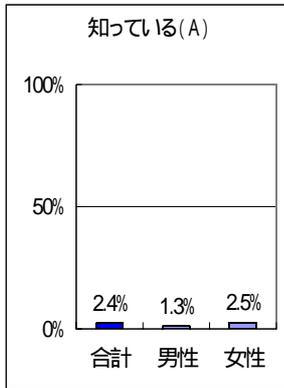
Q11「省エネナビをご存じですか」の問に対して、アンケート回答者424人中、417人(98.3%)の人が回答し、「知っている」は10人の2.4%、「聞いたことはある」は29人の6.8%となっています。

「知らない」と答えた人は、378人の89.2%となっています。

「知っている」と「聞いたことはある」を合わせても9.2%と「省エネナビ」の市民への周知度は非常に低くなっています。

男女別で見ると、「知っている」と答えた人は、男性(1.3%)、女性(2.5%)となっています。「聞いたことはある」を含めても男性(6.3%)、女性(10.1%)と非常に低い結果となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
知っている	2	1.3%	6	2.5%	2	7.4%	10	2.4%
聞いたことはある	8	5.0%	18	7.6%	3	11.1%	29	6.8%
小計	10	6.3%	24	10.1%	5	18.5%	39	9.2%
知らない	148	92.5%	209	88.2%	21	77.8%	378	89.2%



- 年代別 -

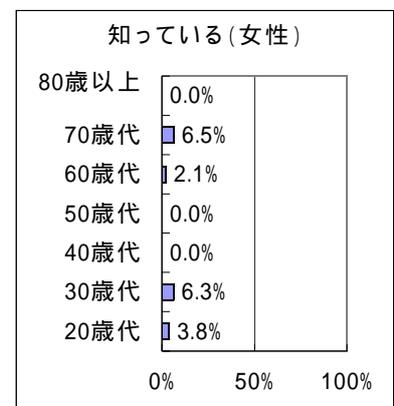
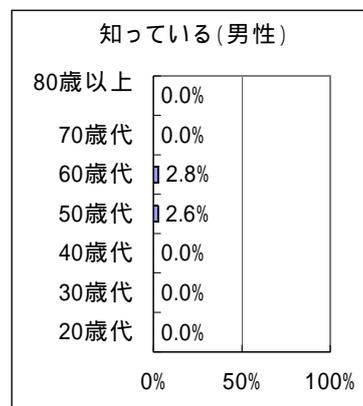
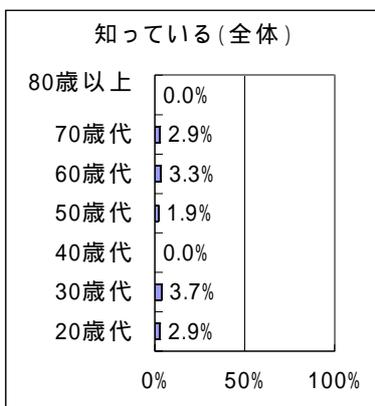
年代別に見ると、全体（男性+女性）では、30歳代の3.7%が最高値で60歳代の3.3%、70歳代、29歳代の2.9%となっています。40歳代、80歳以上では、「知っている」と答えた人はいませんでした。

男性では、60歳代2.8%、50歳代2.6%、女性では、70歳代が6.5%、30歳代6.3%、20歳代3.8%、60歳代2.1%となっています。

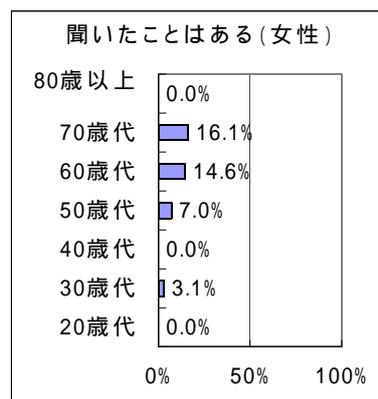
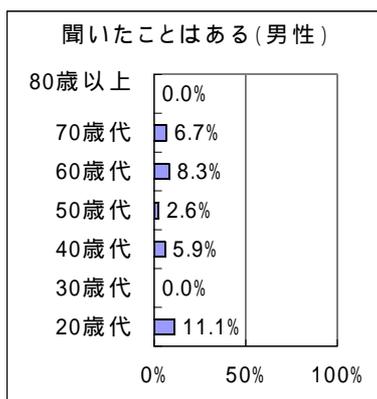
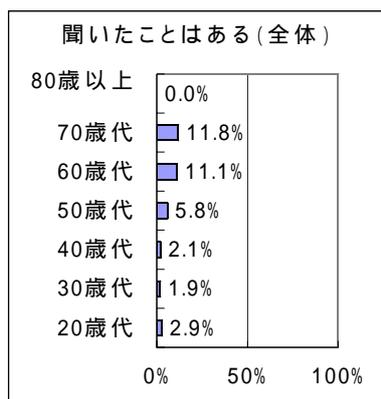
「知っている」と「聞いたことがある」の合計（全体）は、70歳代（14.7%）- 60歳代（14.4%）- 50歳代（7.7%）- 20歳代（8.8%）- 30歳代（5.6%）- 40歳代（2.1%）の順となっています。

男性の30歳代と80歳以上、女性の40歳代と80歳以上の全員が省エネナビを「知らない」と答えています。他の年代でも「省エネナビ」を知らない人の比率が高くなっています。

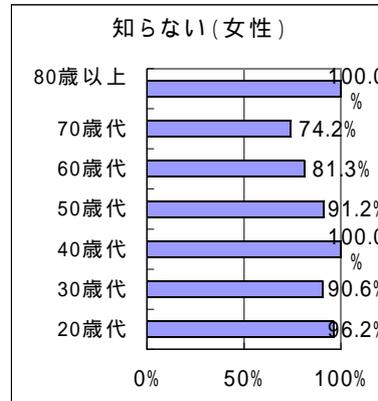
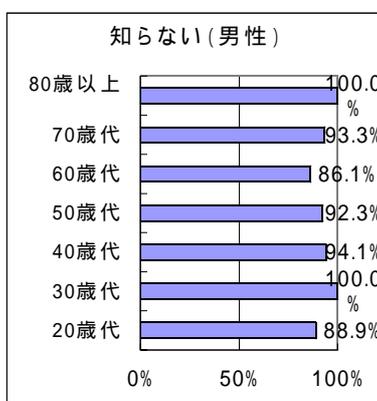
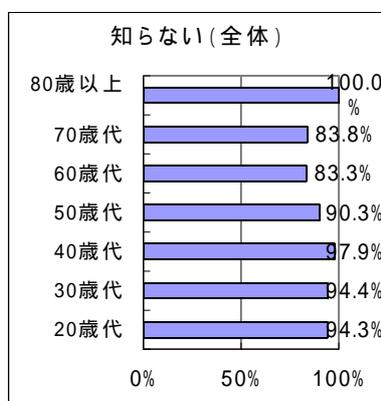
【知っている】



【聞いたことはある】



【知らない】



6. エコショップについて

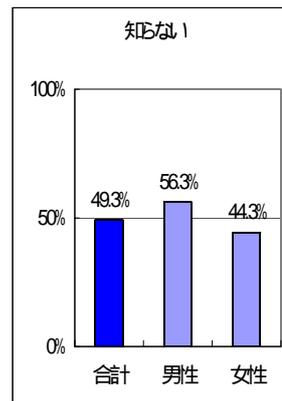
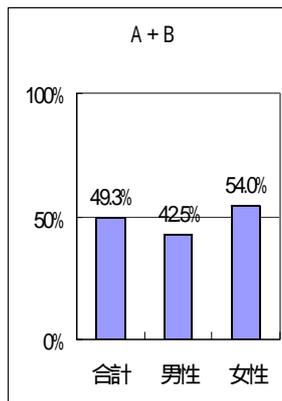
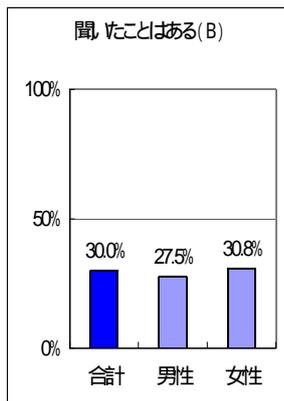
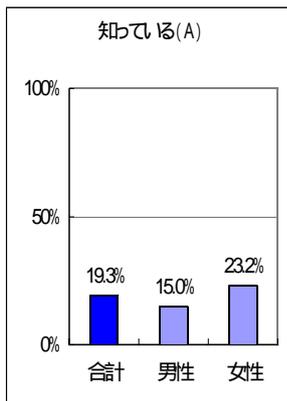
Q12「エコショップをご存じですか」の問に対して、アンケート回答者424人中、418人(98.6%)の人が回答し、「知っている」は82人の19.3%、「聞いたことはある」は127人の30.0%、「知らない」は209人の49.3%となっています。

「知っている」と「聞いたことはある」を合わせると49.3%となり「エコショップ」はある程度周知されています。

男女別で見ると「知っている」と答えた人は、男性(15.0%)、女性(23.2%)で「聞いたことはある」を含めると男性(42.5%)、女性(54.0%)と女性の方が男性より高くなっています。

「知らない」と答えた人は、男性(56.3%)、女性(44.3%)となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
知っている	24	15.0%	55	23.2%	3	11.1%	82	19.3%
聞いたことはある	44	27.5%	73	30.8%	10	37.0%	127	30.0%
小計	68	42.5%	128	54.0%	13	48.1%	209	49.3%
知らない	90	56.3%	105	44.3%	14	51.9%	209	49.3%



- 年代別 -

年代別に見ると、全体（男性＋女性）で「知っている」と答えた人は、60歳代（26.7%）、70歳代（23.5%）、50歳代（19.4%）、40歳代（19.1%）、30歳代（13.0%）、20歳代（11.4%）、80歳以上（6.7%）となっています。

「聞いたことはある」と答えた人は、全体で70歳代、50歳代、40歳代が30%台、20歳代、30歳代、60歳代、80歳以上が20%台となっています。

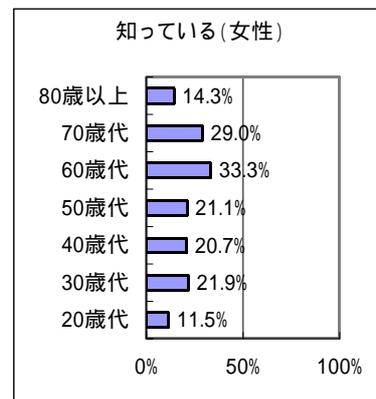
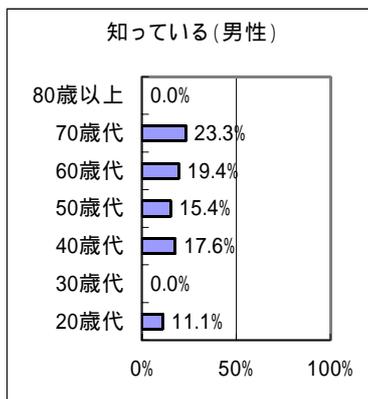
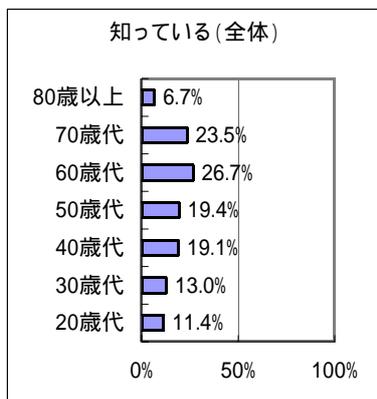
男性では、70歳代の33.3%を最高に40歳代（29.4%）、30歳代と80歳以上（28.6%）- 50歳代（28.2%）- 20歳代（22.2%）- 60歳代（19.4%）となっています。女性では、50歳代（40.4%）を最高に40歳代（37.9%）、60歳代（31.3%）、70歳代（29.0%）、20歳代（19.2%）、30歳代（18.8%）、80歳以上（14.3%）となっています。

「知らない」と答えた人は、全体で20歳代（68.6%）、80歳以上（66.7%）、30歳代（64.8%）、40歳代（46.8%）、60歳代（46.7%）、50歳代（44.7%）、70歳代（39.7%）となっています。

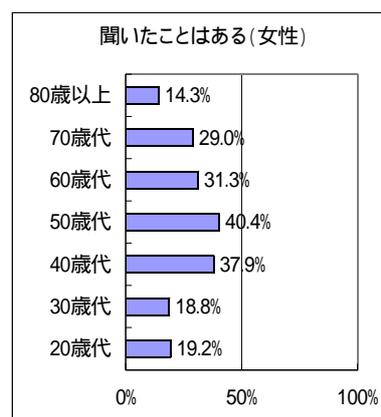
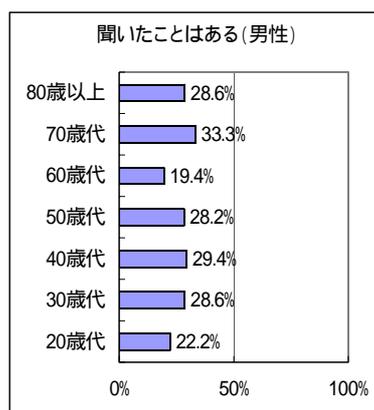
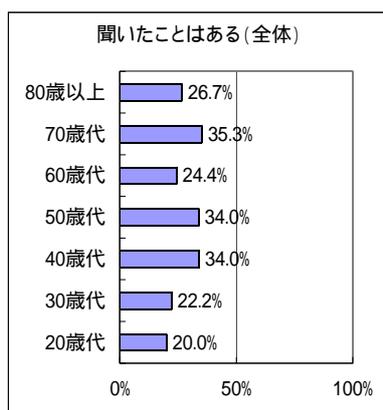
男性では、80歳以上（71.4%）、30歳代（71.4%）、20歳代（66.7%）、60歳代（58.3%）、50歳代（53.8%）、40歳代（52.9%）、70歳代（43.3%）と、70歳代のみ50%以下となっていますが、他の年代は50%を超えています。

女性では、80歳以上（71.4%）、20歳代（69.2%）、30歳代（59.4%）、40歳代（41.4%）、70歳代（38.7%）、50歳代（36.8%）、60歳代（33.3%）となり、女性の方がエコショップの周知度は高くなっています。

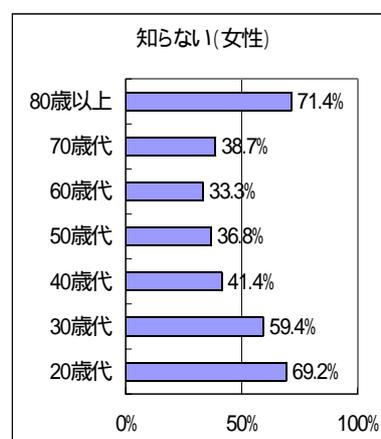
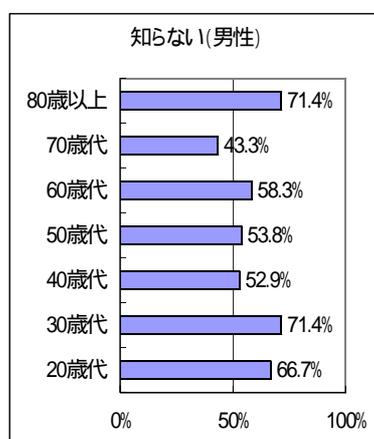
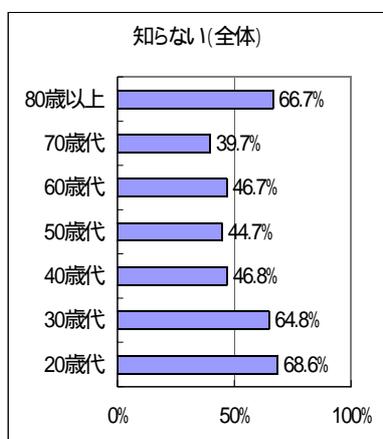
【知っている】



【聞いたことはある】



【知らない】



7. 環境配慮行動について

(1) 環境配慮行動項目の実行度

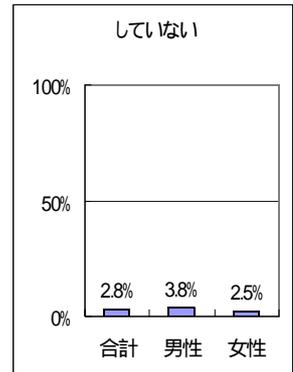
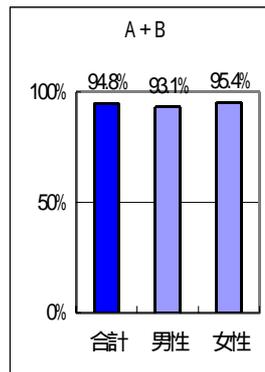
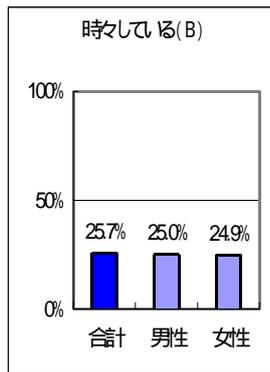
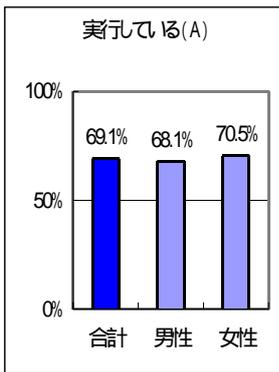
Q13で「普段の生活の中で取り組んでいる環境配慮行動について」各項目ごとに3段階（実行している・時々している・していない）に分けて、実行度を尋ねました。

使用していない照明やテレビはこまめに消す

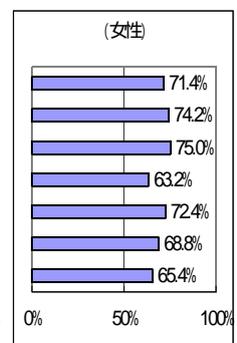
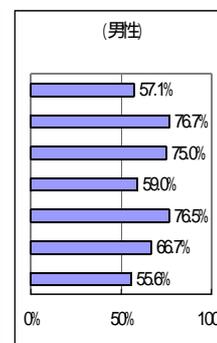
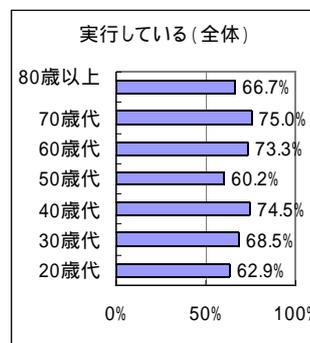
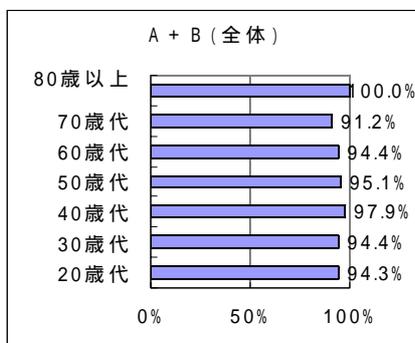
「使用していない照明やテレビはこまめに消す」の問に対して、アンケート回答者424人中、414人（97.6%）の人が回答し、合計（男性+女性）では、「実行している」は293人の69.1%、「時々している」は109人の25.7%、「していない」は12人の2.8%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると94.8%となっています。

男女別では、女性の方が「実行している」と答えた率が、男性より若干多くなっていますが、ほぼ同数値となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	109	68.1%	167	70.5%	17	63.0%	293	69.1%
時々している	40	25.0%	59	24.9%	10	37.0%	109	25.7%
小計	149	93.1%	226	95.4%	27	100.0%	402	94.8%
していない	6	3.8%	6	2.5%	0	0.0%	12	2.8%



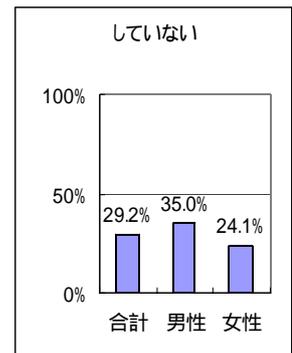
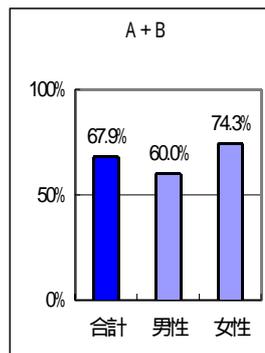
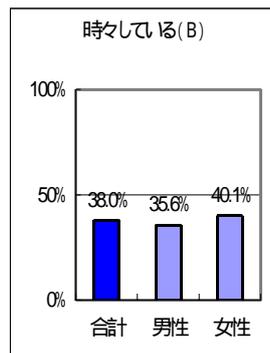
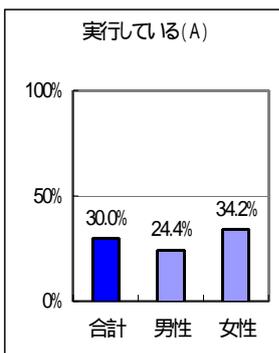
「実行している」と答えた年代別では、男性の70歳代、40歳代、60歳代、女性の60歳代、70歳代、40歳代、80歳以上が70%を超える高い実行度となっています。実行度が最低の20歳代男性でも50%を超えています。



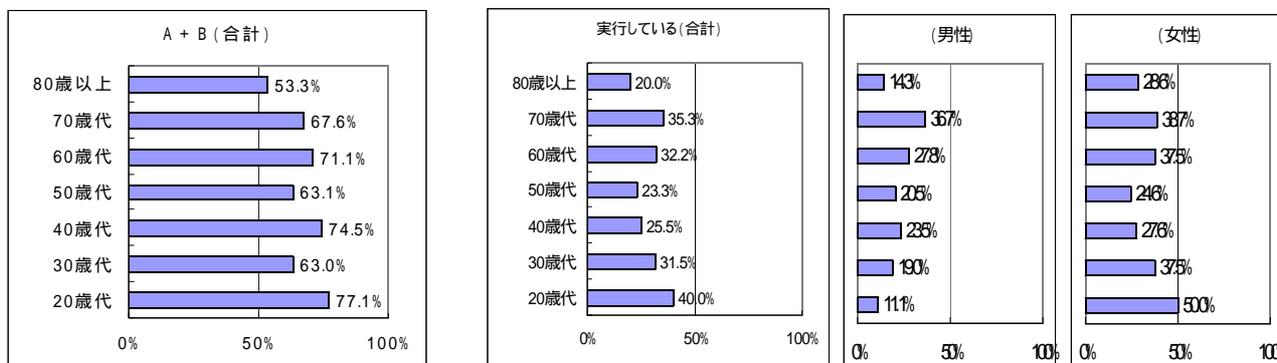
電気製品を使わないときは、コンセントを抜く

「電気製品を使わないときは、コンセントを抜く」の問に対して、アンケート回答者424人中、412人(97.2%)の人が回答し、「実行している」は127人の30.0%、「時々している」は161人の38.0%、「していない」は124人の29.2%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると67.9%となっています。

区分	男性	女性	無記入	合計
有効回答者数	160人	237人	27人	424人
実行している	39 24.4%	81 34.2%	7 25.9%	127 30.0%
時々している	57 35.6%	95 40.1%	9 33.3%	161 38.0%
小計	96 60.0%	176 74.3%	16 59.3%	288 67.9%
していない	56 35.0%	57 24.1%	11 40.7%	124 29.2%



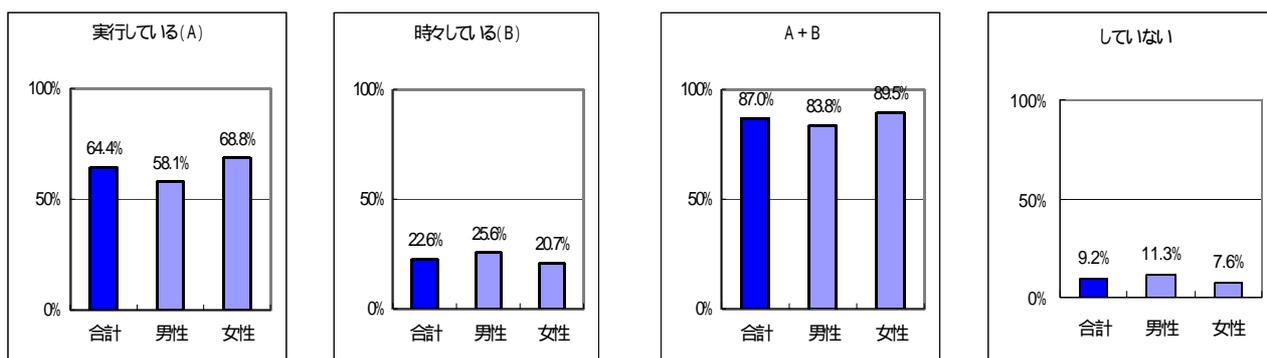
「実行している」と答えた年代別で、男性では、70歳代が30%を超えていますが、他の年代は、10%～20%台となっています。女性では、20歳代が50%、30歳代、60歳代、70歳代が30%台、他の年代も20%台となっています。最低は、80歳以上の男性で14.3%となっています。



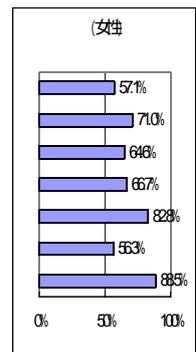
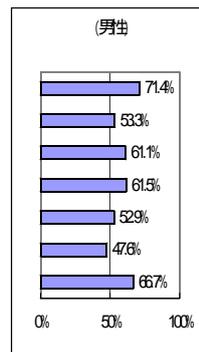
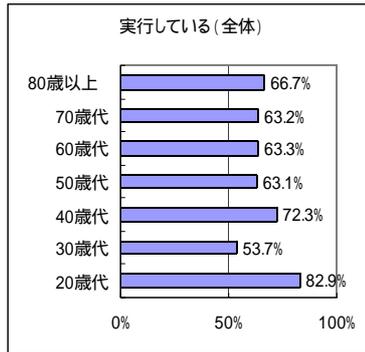
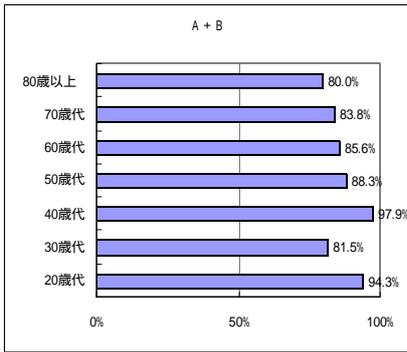
シャワーや歯磨きのとき水を出しっぱなしにしない

「シャワーや歯磨きのとき水を出しっぱなしにしない」の問に対して、アンケート回答者424人中、408人(96.2%)の人が回答し、「実行している」は273人の64.4%、「時々している」は96人の22.6%、「していない」は39人の9.2%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると87.0%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	93	58.1%	163	68.8%	17	63.0%	273	64.4%
時々している	41	25.6%	49	20.7%	6	22.2%	96	22.6%
小計	134	83.8%	212	89.5%	23	85.2%	369	87.0%
していない	18	11.3%	18	7.6%	3	11.1%	39	9.2%



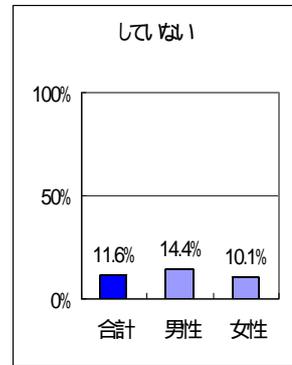
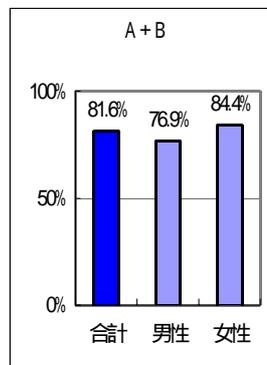
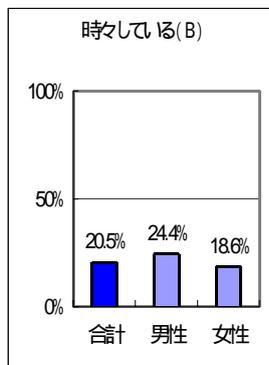
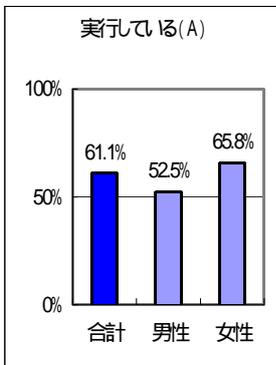
「実行している」と答えた年代別では、男性が80歳以上の71.4%が最高となっていますが、30歳代を除けば、他の年代も50%を超えています。女性は、20歳代の88.5%が最高で他の年代も50%を超え、高い実行度となっています。



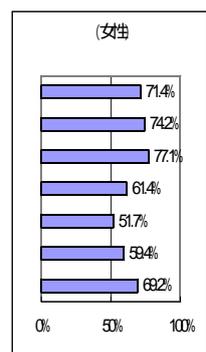
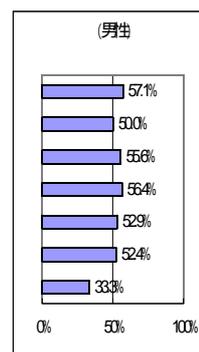
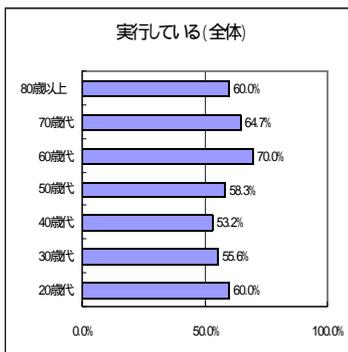
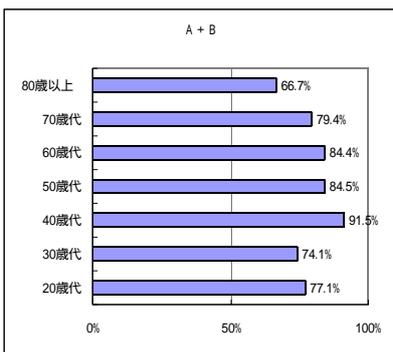
風呂はさめないうちに家族で続けて入る

「風呂はさめないうちに家族で続けて入る」の問に対して、アンケート回答者424人中、395人(93.2%)の人が回答し、「実行している」は259人の61.1%、「時々している」は87人の20.5%、「していない」は49人の11.6%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると81.6%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	84	52.5%	156	65.8%	19	70.4%	259	61.1%
時々している	39	24.4%	44	18.6%	4	14.8%	87	20.5%
小計	123	76.9%	200	84.4%	23	85.2%	346	81.6%
していない	23	14.4%	24	10.1%	2	7.4%	49	11.6%



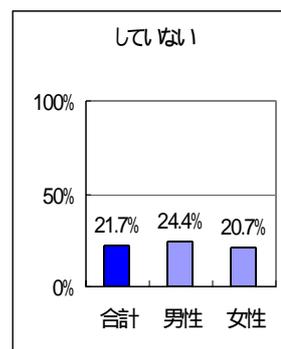
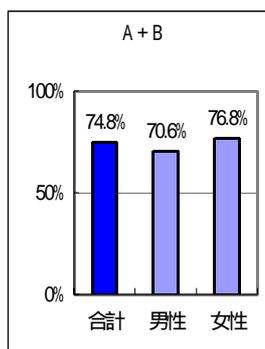
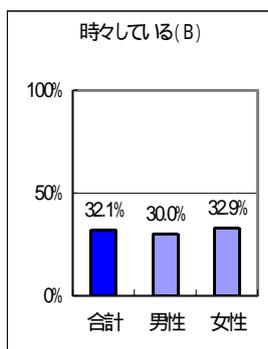
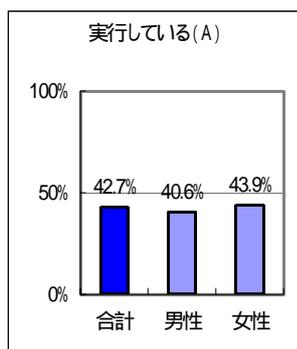
「実行している」と答えた年代別では、男性の20歳代が33.3%と低くなっていますが、他の年代は50%を超えています。女性は、40歳代の51.7%が最低ですが、60歳代、70歳代、80歳以上は70%を超える高い実行度となっています。



一枚厚着をして暖房の温度設定を低くしている

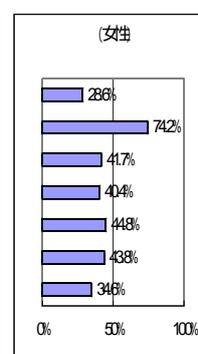
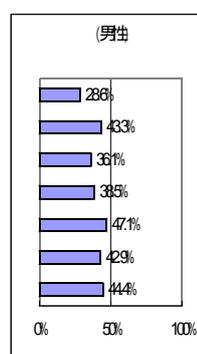
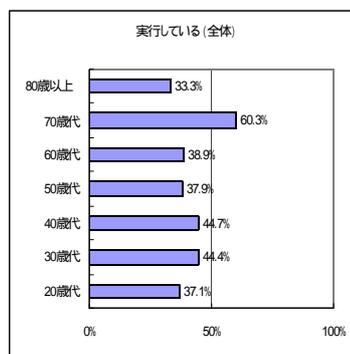
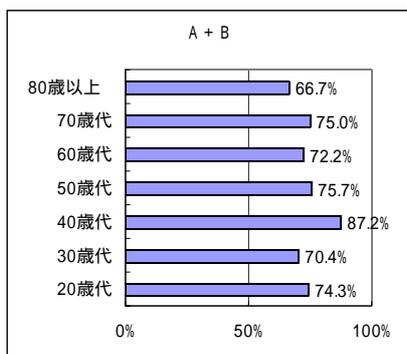
「一枚厚着をして暖房の温度設定を低くしている」の問に対して、アンケート回答者424人中、409人(96.5%)の人が回答し、「実行している」は181人の42.7%、「時々している」は136人の20.5%、「していない」は92人の21.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると74.8%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	65	40.6%	104	43.9%	12	44.4%	181	42.7%
時々している	48	30.0%	78	32.9%	10	37.0%	136	32.1%
小計	113	70.6%	182	76.8%	22	81.5%	317	74.8%
していない	39	24.4%	49	20.7%	4	14.8%	92	21.7%



「実行している」と答えた年代別では、男性は50%を超える年代はありませんが、80歳以上を除けば、30%~40%台の実行度となっています。

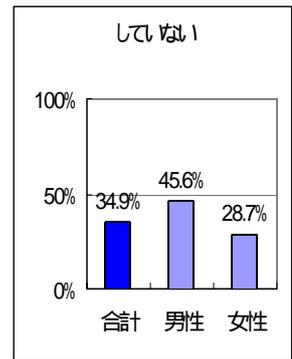
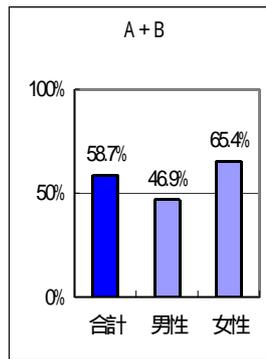
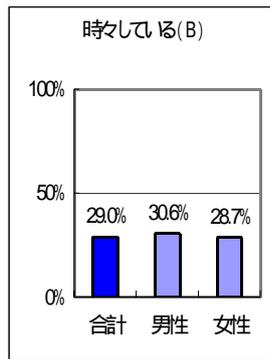
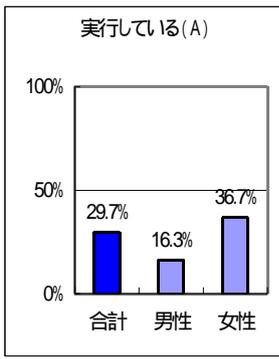
女性は70歳代が74.1%と高い実行度となっているほかは、80歳以上の28.6%を除いた他の年代は、30%~40%台の実行度となっています。



自動車をなるべく使わずバスなどの公共交通機関を利用する

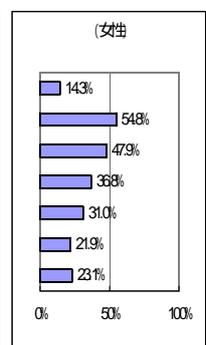
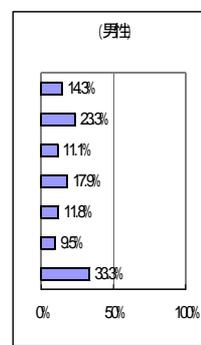
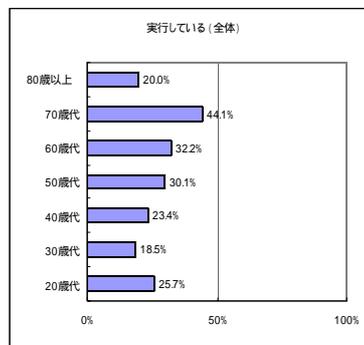
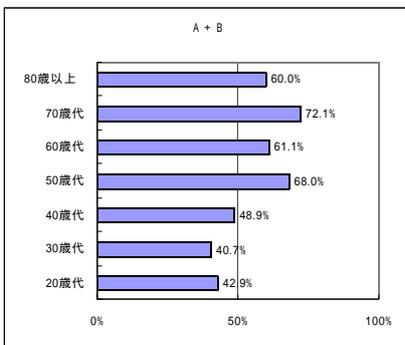
「自動車をなるべく使わずバスなどの公共交通機関を利用する」の問に対して、アンケート回答者424人中、397人(93.6%)の人が回答し、「実行している」は126人の29.7%、「時々している」は123人の29.0%、「していない」は148人の34.9%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると58.7%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	26	16.3%	87	36.7%	13	48.1%	126	29.7%
時々している	49	30.6%	68	28.7%	6	22.2%	123	29.0%
小計	75	46.9%	155	65.4%	19	70.4%	249	58.7%
していない	73	45.6%	68	28.7%	7	25.9%	148	34.9%



「実行している」と答えた年代別では、男性は20歳代の33.3%が最高となっていますが、他の年代は20%以下となっています。

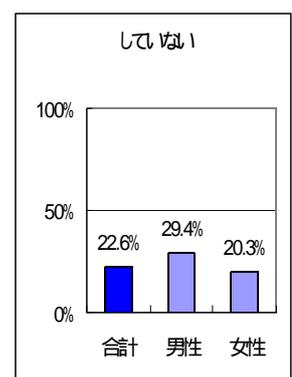
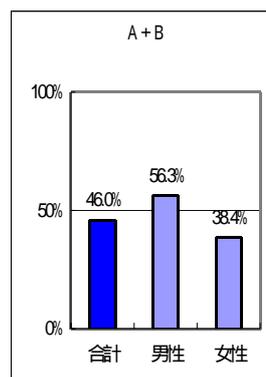
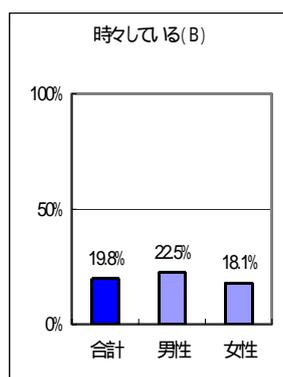
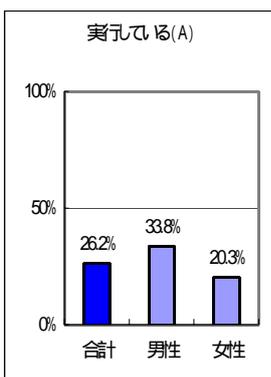
女性は、70歳代が50%を超えていますが、他の年代は、10%~40%台とばらつきが見られます。



常にアイドリングストップを心掛けている

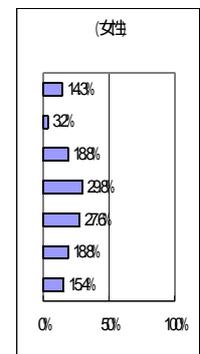
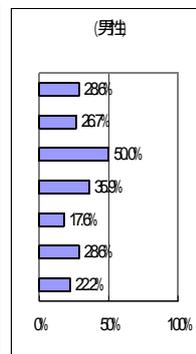
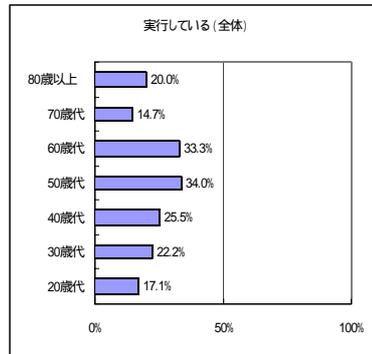
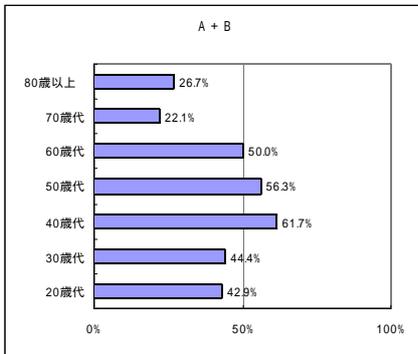
「常にアイドリングストップを心掛けている」の問に対して、アンケート回答者424人中、291人(68.6%)の人が回答し、「実行している」は111人の26.2%、「時々している」は84人の19.8%、「していない」は96人の22.6%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると46.0%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	54	33.8%	48	20.3%	9	33.3%	111	26.2%
時々している	36	22.5%	43	18.1%	5	18.5%	84	19.8%
小計	90	56.3%	91	38.4%	14	51.9%	195	46.0%
していない	47	29.4%	48	20.3%	1	3.7%	96	22.6%



「実行している」と答えた年代別では、男性の60歳代が50%のほか、他の年代は40%以下となっています。

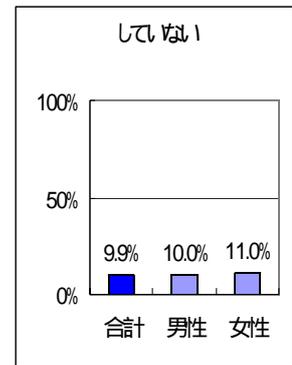
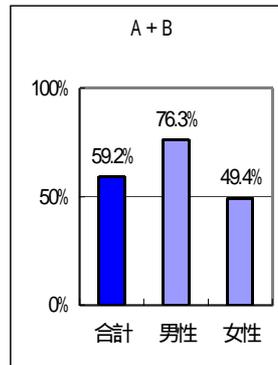
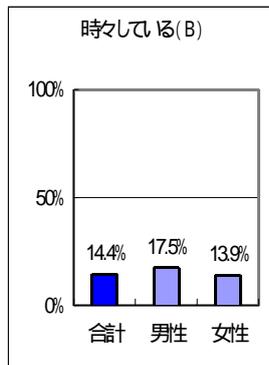
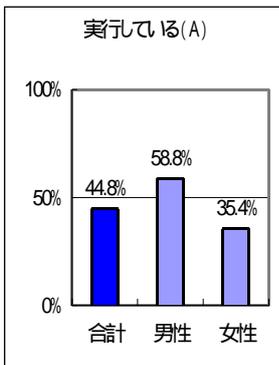
女性では、各年代とも30%以下となっています。



急発進や急加速などをしてないように経済的な運転をしている

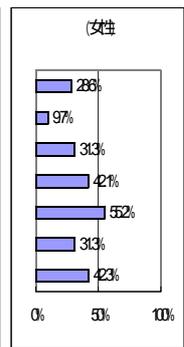
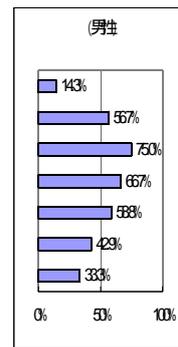
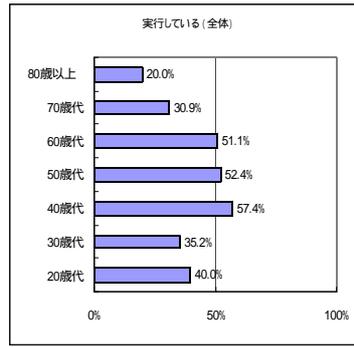
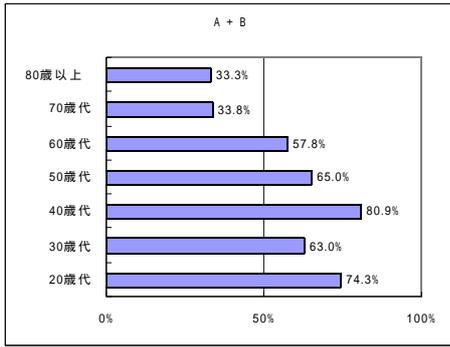
「急発進や急加速などをしてないように経済的な運転をしている」の問に対して、アンケート回答者424人中、293人(69.1%)の人が回答し、「実行している」は190人の44.8%、「時々している」は61人の14.4%、「していない」は42人の9.9%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると59.2%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	94	58.8%	84	35.4%	12	44.4%	190	44.8%
時々している	28	17.5%	33	13.9%	0	0.0%	61	14.4%
小計	122	76.3%	117	49.4%	12	44.4%	251	59.2%
していない	16	10.0%	26	11.0%	0	0.0%	42	9.9%



「実行している」と答えた年代別では、男性の60歳代が75%と高い実行度となったほか、40歳代、50歳代、70歳代が50%を超えています。最低は80歳以上の14.3%となっています。

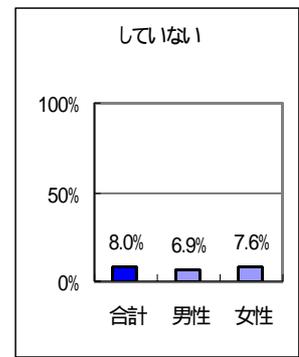
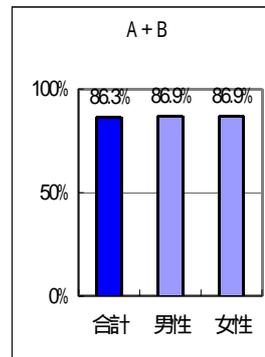
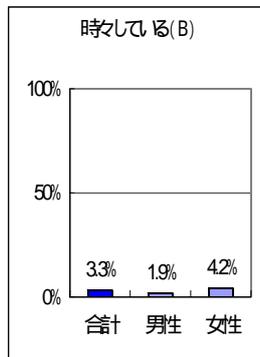
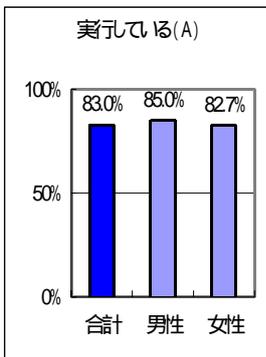
女性は40歳代の55.2%が最高で、他の年代は、50%以下となっています。最低は70歳代で9.7%となっています。



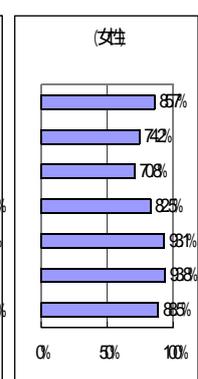
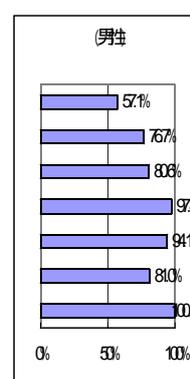
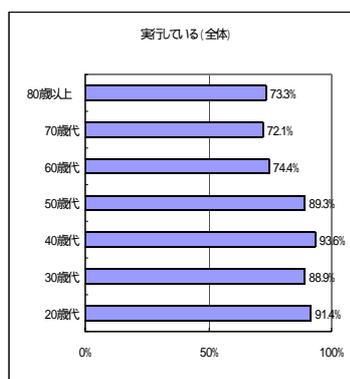
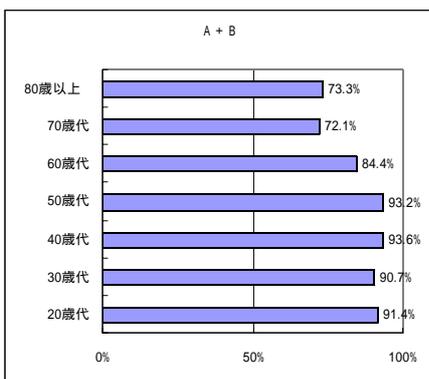
野外でゴミ等を燃やさない

「野外でゴミ等を燃やさない」の問に対して、アンケート回答者424人中、400人(94.3%)の人が回答し、「実行している」は352人の83.0%、「時々している」は14人の3.3%、「していない」は34人の8.0%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると86.3%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	136	85.0%	196	82.7%	20	74.1%	352	83.0%
時々している	3	1.9%	10	4.2%	1	3.7%	14	3.3%
小計	139	86.9%	206	86.9%	21	77.8%	366	86.3%
していない	11	6.9%	18	7.6%	5	18.5%	34	8.0%



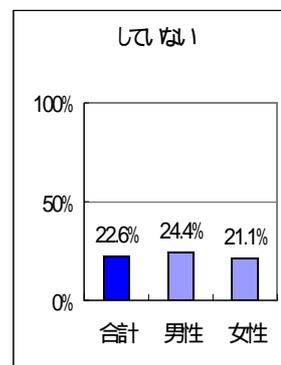
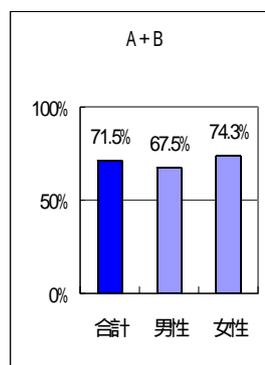
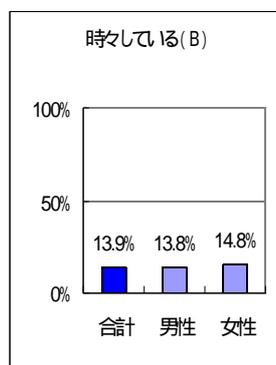
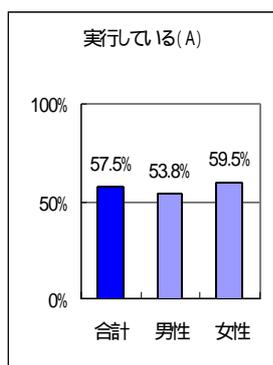
「実行している」と答えた年代別では、男性の80歳以上の57.1%を除けば、各年代とも70%を超える高い実行度となっています。女性は、各世代とも70%を超えています。



風呂水を再利用している（洗濯や水やり）

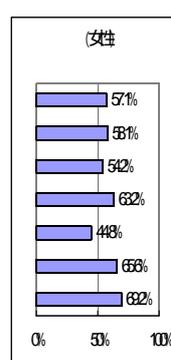
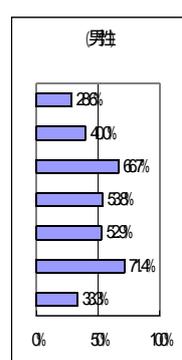
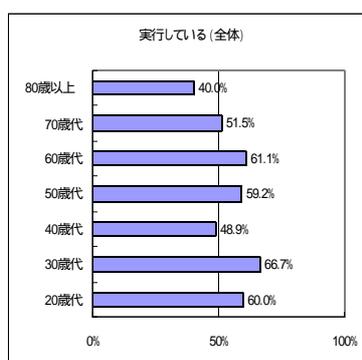
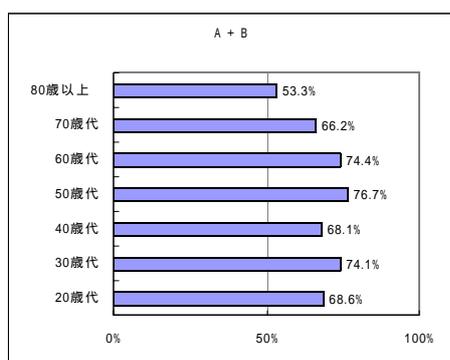
「風呂水を再利用している（洗濯や水やり）」の問に対して、アンケート回答者424人中、399人（94.1%）の人が回答し、「実行している」244人の57.5%、「時々している」は59人の13.9%、「していない」は96人の22.6%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると71.5%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	86	53.8%	141	59.5%	17	63.0%	244	57.5%
時々している	22	13.8%	35	14.8%	2	7.4%	59	13.9%
小計	108	67.5%	176	74.3%	19	70.4%	303	71.5%
していない	39	24.4%	50	21.1%	7	25.9%	96	22.6%



「実行している」と答えた年代別では、男性の30歳代が71.4%、60歳代が66.7%と高く、50歳代、40歳代で50%台になっていますが、20歳代33.3%、80歳以上28.6%と低くなっており、年代間の差が大きくなっています。

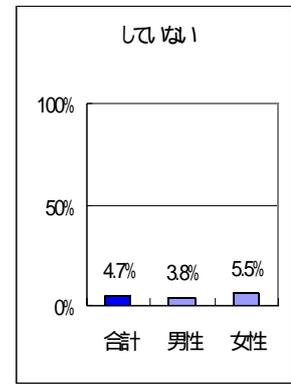
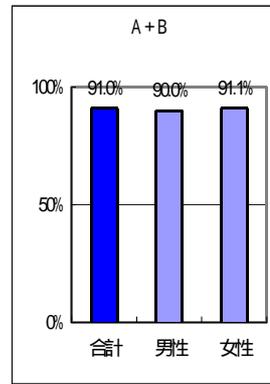
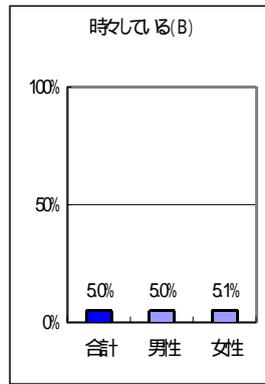
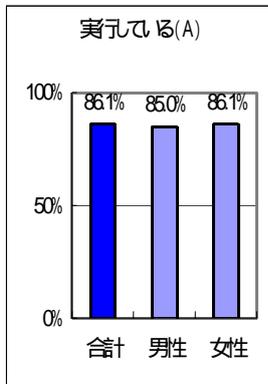
女性は、40歳代が44.8%と最低ですが、他の年代は50%～60%台になっています。



油は流しに捨てない

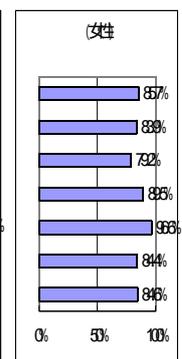
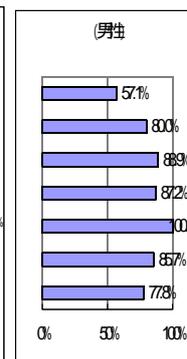
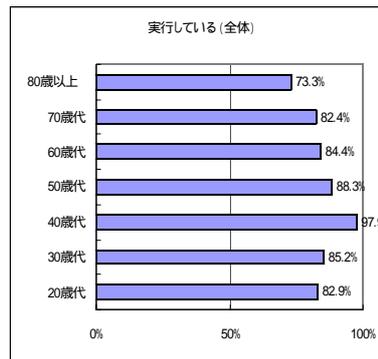
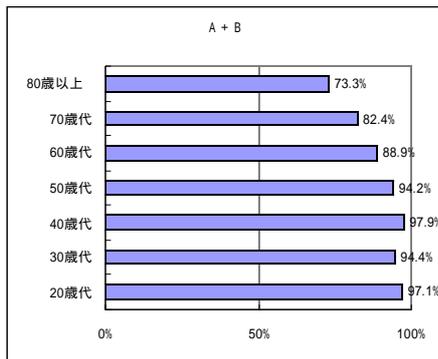
「油は流しに捨てない」の問に対して、アンケート回答者424人中、406人（95.8%）の人が回答し、「実行している」365人の86.1%、「時々している」は21人の5.0%、「していない」は20人の4.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると91.0%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	136	85.0%	204	86.1%	25	92.6%	365	86.1%
時々している	8	5.0%	12	5.1%	1	3.7%	21	5.0%
小計	144	90.0%	216	91.1%	26	96.3%	386	91.0%
していない	6	3.8%	13	5.5%	1	3.7%	20	4.7%



「実行している」と答えた年代別では、男性の最低でも80歳以上が57.1%となっているほか、各年代とも70%以上の高い実行度となっています。

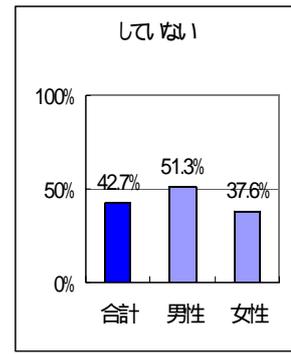
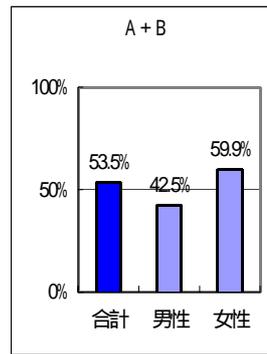
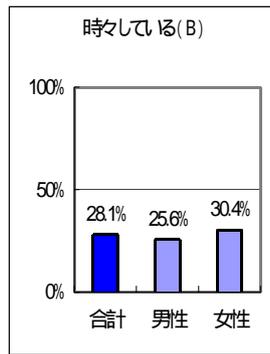
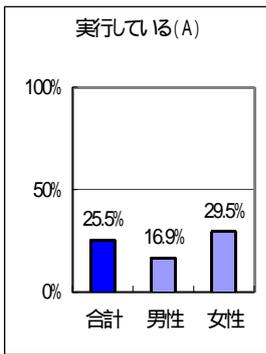
女性は、各年代とも70%を超える高い実行度となっています。



お米のとぎ汁は植木などに利用している

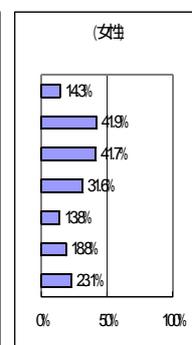
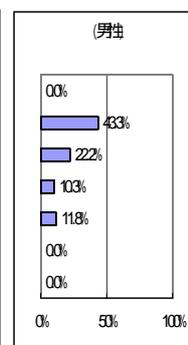
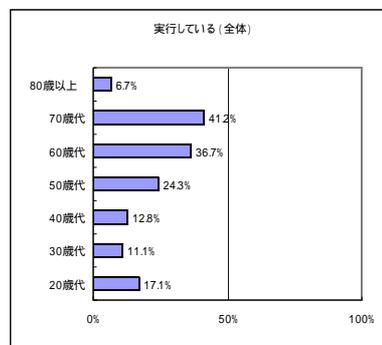
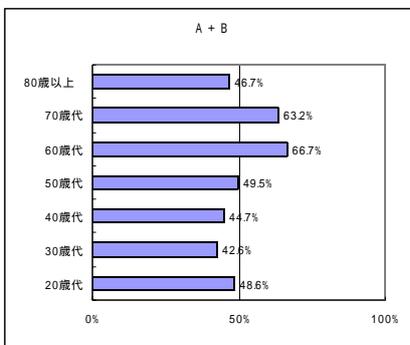
「お米のとぎ汁は植木などに利用している」の問に対して、アンケート回答者424人中、408人(96.2%)の人が回答し、「実行している」108人の25.5%、「時々している」は119人の28.1%、「していない」は181人の42.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると53.5%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	27	16.9%	70	29.5%	11	40.7%	108	25.5%
時々している	41	25.6%	72	30.4%	6	22.2%	119	28.1%
小計	68	42.5%	142	59.9%	17	63.0%	227	53.5%
していない	82	51.3%	89	37.6%	10	37.0%	181	42.7%



「実行している」と答えた年代別では、男性の70歳代の43.3%が最高となったほか、実行していない年代も見られます。

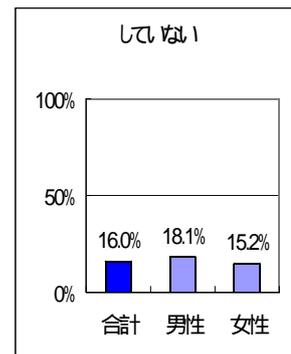
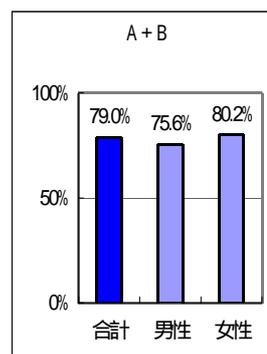
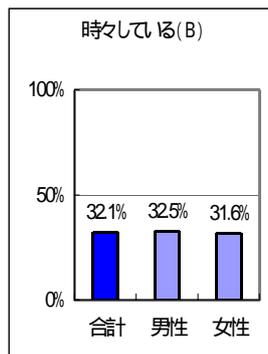
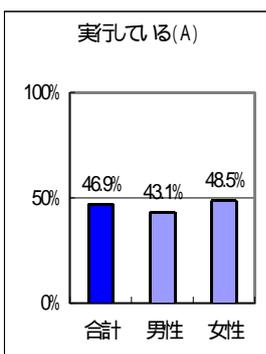
女性は、男性より実行度のばらつきは少ないですが、70歳代、60歳代、50歳代以外は低くなっています。



洗剤の量を少なくしている

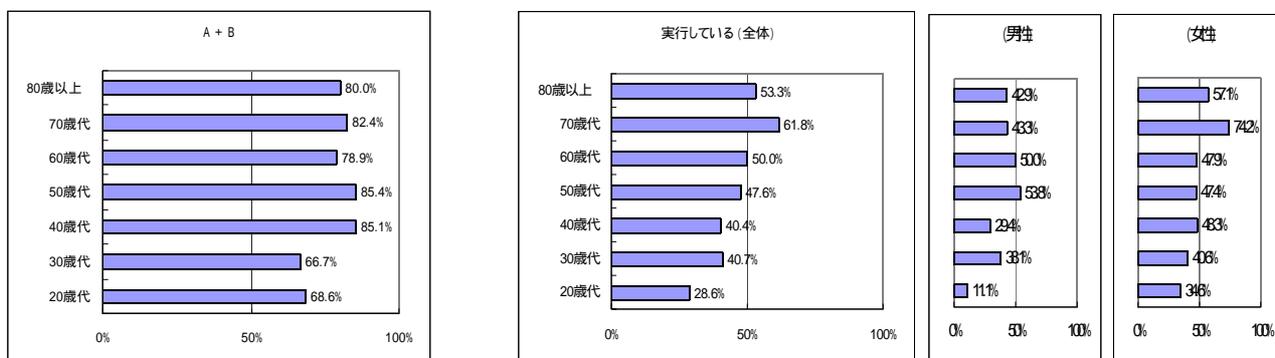
「洗剤の量を少なくしている」の問に対して、アンケート回答者424人中、403人(95.0%)の人が回答し、「実行している」199人の46.9%、「時々している」は136人の32.1%、「していない」は68人の16.0%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると79.0%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	69	43.1%	115	48.5%	15	55.6%	199	46.9%
時々している	52	32.5%	75	31.6%	9	33.3%	136	32.1%
小計	121	75.6%	190	80.2%	24	88.9%	335	79.0%
していない	29	18.1%	36	15.2%	3	11.1%	68	16.0%



「実行している」と答えた年代別では、男性の50歳代が53.8%となっているほか、各年代とも50%以下となっています。

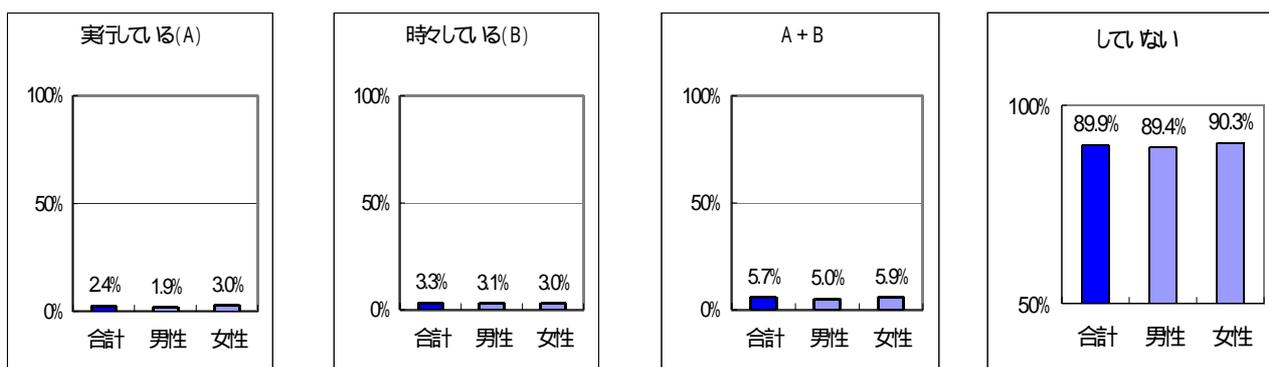
女性は、70歳代が74.2%と高い実行度となっているほか、50%前後の年代が多く、男性より実行度は高くなっています。



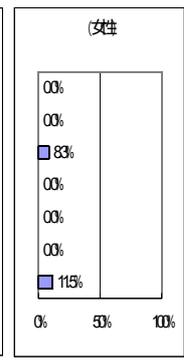
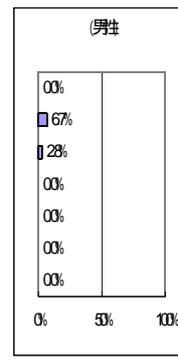
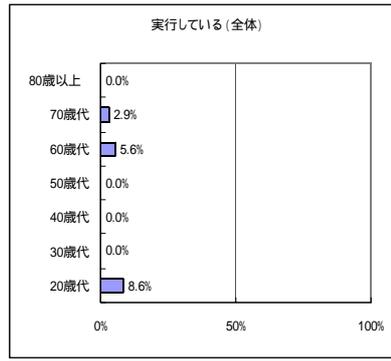
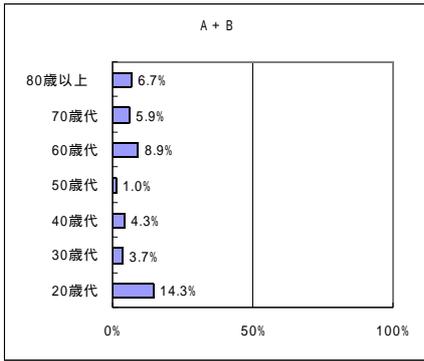
洗濯炭などを利用し洗剤を使わない洗濯をしている

「洗濯炭などを利用し洗剤を使わない洗濯をしている」の問に対して、アンケート回答者424人中、405人(95.5%)の人が回答し、「実行している」10人の2.4%、「時々している」は14人の3.3%、「していない」は381人の89.9%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると5.7%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	3	1.9%	7	3.0%	0	0.0%	10	2.4%
時々している	5	3.1%	7	3.0%	2	7.4%	14	3.3%
小計	8	5.0%	14	5.9%	2	7.4%	24	5.7%
していない	143	89.4%	214	90.3%	24	88.9%	381	89.9%



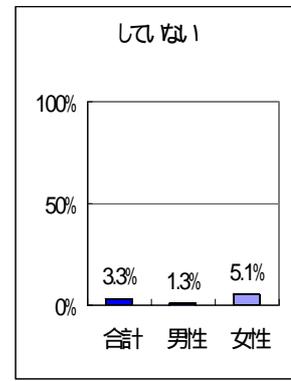
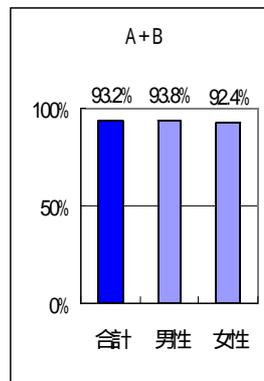
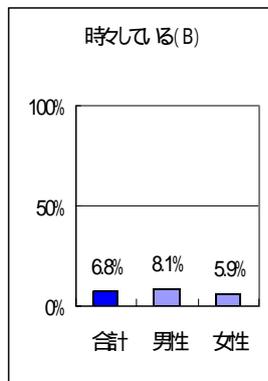
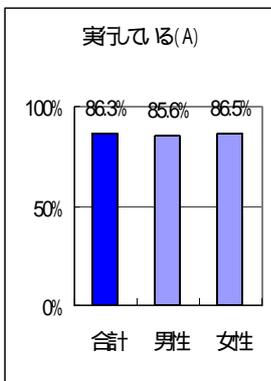
「実行している」と答えた年代別では、男性の70歳代(6.7%)と60歳代(2.8%)、女性の60歳代(8.3%)と20歳代(11.5%)となっており、それ以外の他の年代では実行されていません。



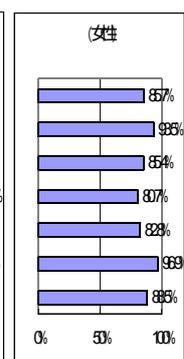
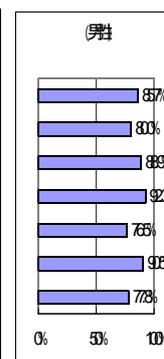
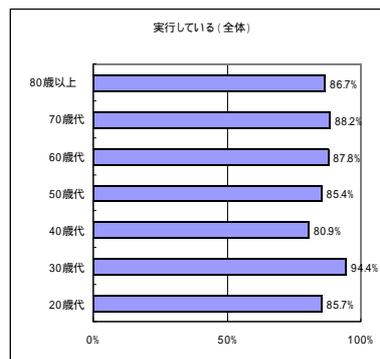
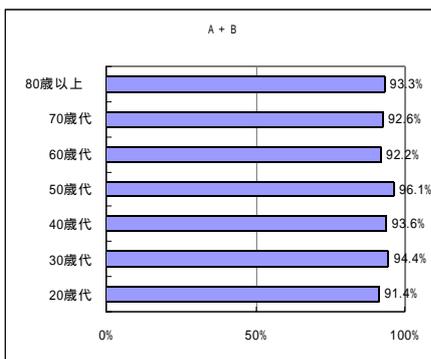
水切りネットや排水口ネットを使用し、固形物を除去している

「水切りネットや排水口ネットを使用し、固形物を除去している」の問に対して、アンケート回答者424人中、409人(96.5%)の人が回答し、「実行している」366人の86.3%、「時々している」は29人の6.8%、「していない」は14人の3.3%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると93.2%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	137	85.6%	205	86.5%	24	88.9%	366	86.3%
時々している	13	8.1%	14	5.9%	2	7.4%	29	6.8%
小計	150	93.8%	219	92.4%	26	96.3%	395	93.2%
していない	2	1.3%	12	5.1%	0	0.0%	14	3.3%



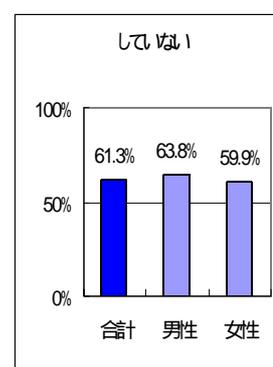
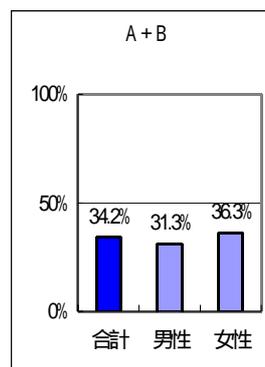
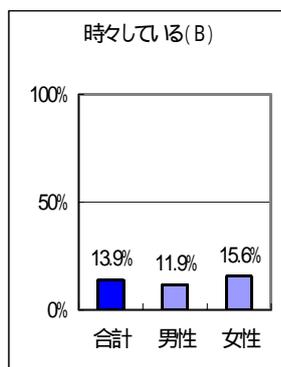
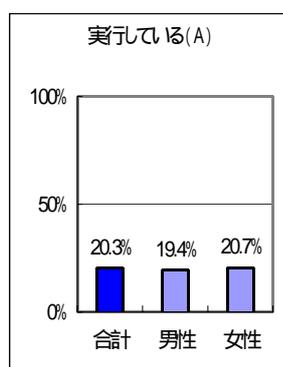
「実行している」と答えた年代別では、男性、女性ともすべての年代で70%を超える高い実行度となっています。



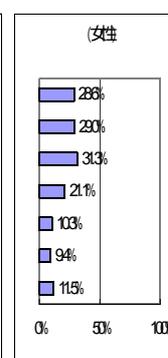
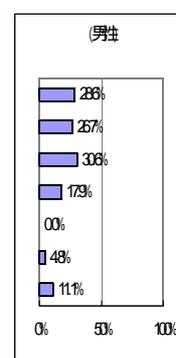
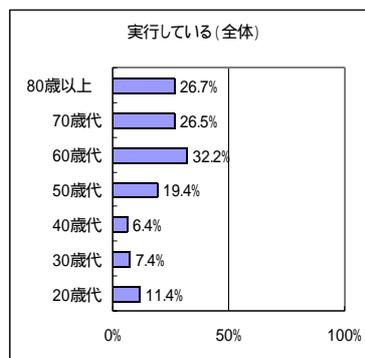
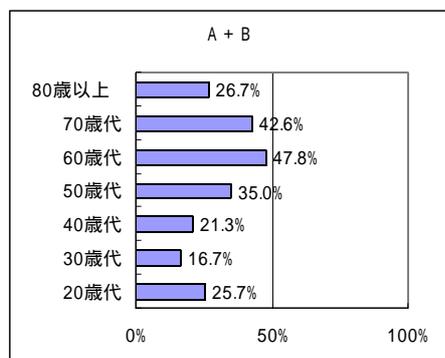
生ごみの堆肥化をしている

「生ごみの堆肥化をしている」の問に対して、アンケート回答者424人中、405人(95.5%)の人が回答し、「実行している」86人の20.3%、「時々している」は59人の13.9%、「していない」は260人の61.3%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると34.2%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	31	19.4%	49	20.7%	6	22.2%	86	20.3%
時々している	19	11.9%	37	15.6%	3	11.1%	59	13.9%
小計	50	31.3%	86	36.3%	9	33.3%	145	34.2%
していない	102	63.8%	142	59.9%	16	59.3%	260	61.3%



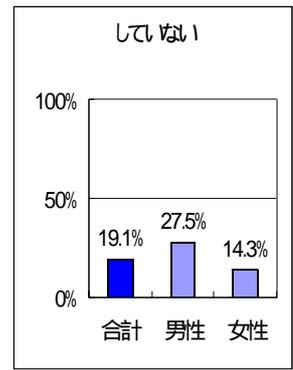
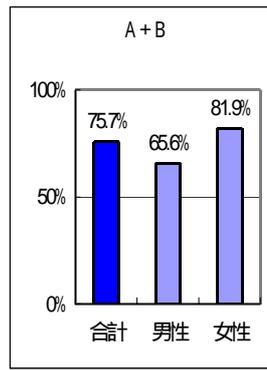
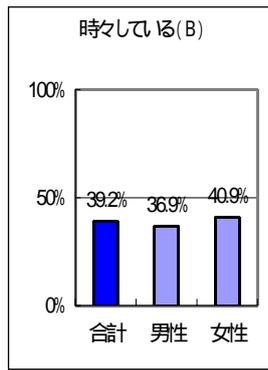
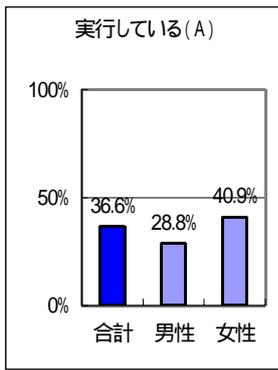
「実行している」と答えた年代別では、男性の60歳代(30.6%)、70歳代(26.7%)、80歳以上(28.6%)となっていますが、20歳代~50歳代では20%以下となっています。女性は男性と同じような傾向となっています。



過剰包装は断っている

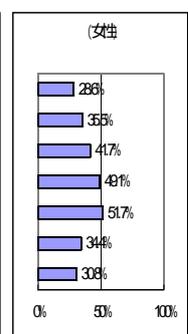
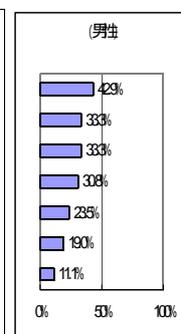
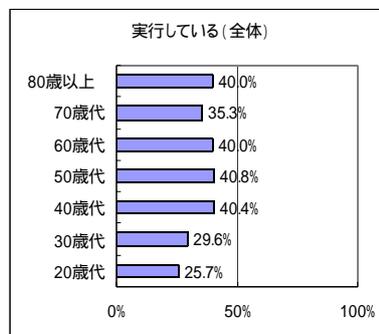
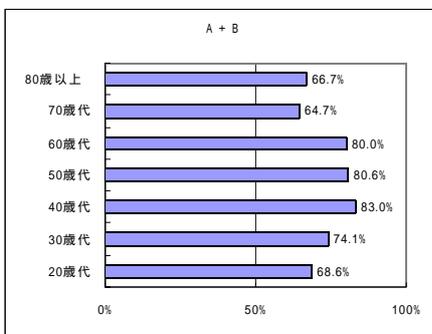
「過剰包装は断っている」の問に対して、アンケート回答者424人中、402人(94.8%)の人が回答し、「実行している」155人の36.6%、「時々している」は166人の39.2%、「していない」は81人の19.1%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると75.7%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	46	28.8%	97	40.9%	12	44.4%	155	36.6%
時々している	59	36.9%	97	40.9%	10	37.0%	166	39.2%
小計	105	65.6%	194	81.9%	22	81.5%	321	75.7%
していない	44	27.5%	34	14.3%	3	11.1%	81	19.1%



「実行している」と答えた年代別では、男性の80歳以上の42.9%を最高に、若い年代に行くに従って低くなり、20歳代で11.1%となっています。

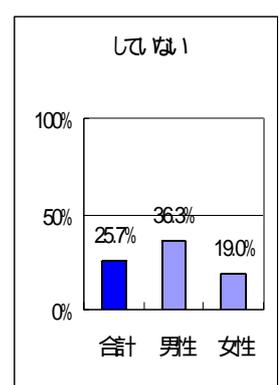
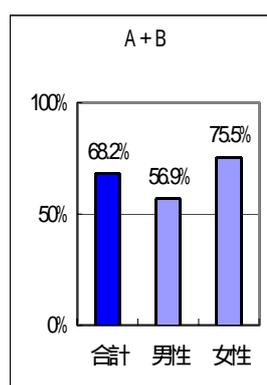
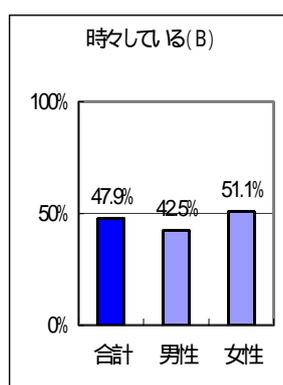
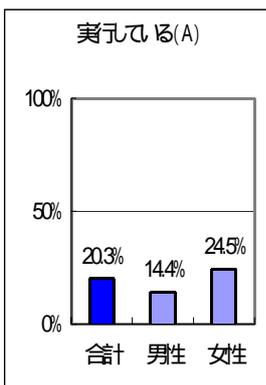
女性は、40歳代が51.7%、50歳代、60歳代が40%台となっており、最低の80歳以上で28.6%となっています。



エコマーク等の環境にやさしい商品を買う

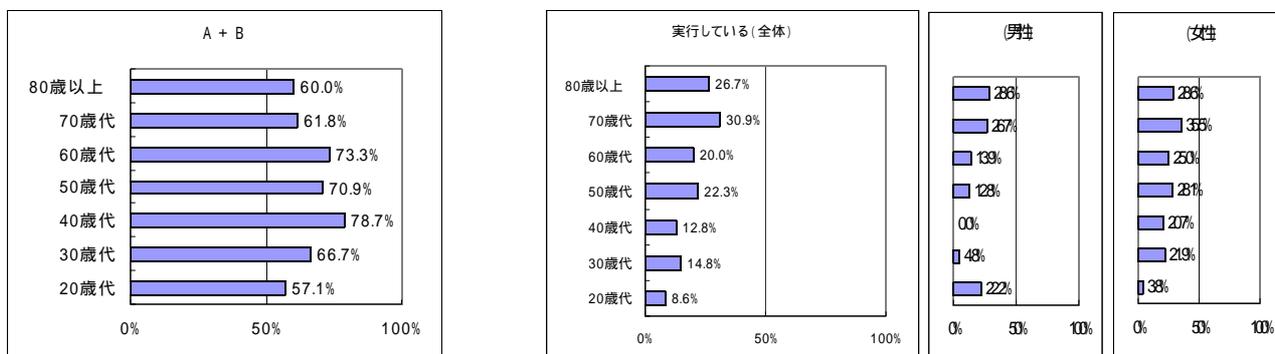
「エコマーク等の環境にやさしい商品を買う」の問に対して、アンケート回答者424人中、398人(93.9%)の人が回答し、「実行している」86人の20.3%、「時々している」は203人の47.9%、「していない」は109人の25.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると68.2%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	23	14.4%	58	24.5%	5	18.5%	86	20.3%
時々している	68	42.5%	121	51.1%	14	51.9%	203	47.9%
小計	91	56.9%	179	75.5%	19	70.4%	289	68.2%
していない	58	36.3%	45	19.0%	6	22.2%	109	25.7%



「実行している」と答えた年代別では、男性の80歳以上、70歳代、20歳代が20%台となっているほか、他の年代は20%以下となっています。

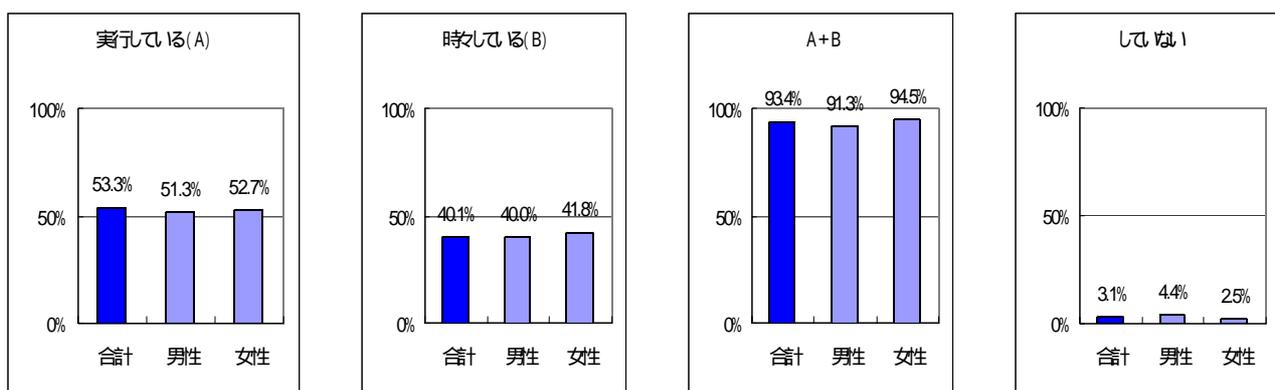
女性は、20歳代が3.8%となっているほか、各年代とも20%～30%台になっています。



使えるものは使い切り、無駄なものは買わない

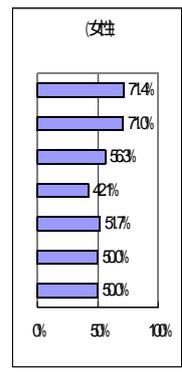
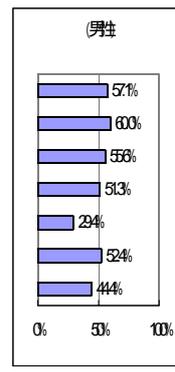
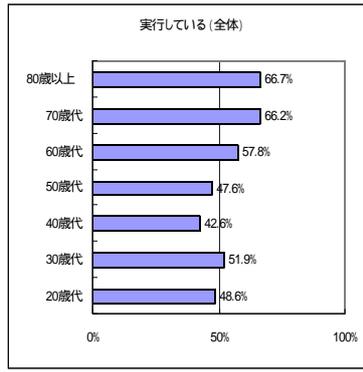
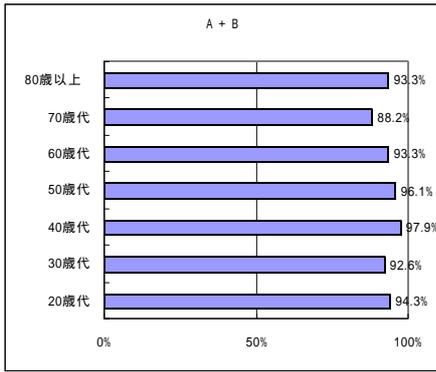
「使えるものは使い切り、無駄なものは買わない」の問に対して、アンケート回答者424人中、409人(96.5%)の人が回答し、「実行している」226人の53.3%、「時々している」は170人の40.1%、「していない」は13人の3.1%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると93.4%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	82	51.3%	125	52.7%	19	70.4%	226	53.3%
時々している	64	40.0%	99	41.8%	7	25.9%	170	40.1%
小計	146	91.3%	224	94.5%	26	96.3%	396	93.4%
していない	7	4.4%	6	2.5%	0	0.0%	13	3.1%



「実行している」と答えた年代別では、男性の40歳代29.4%が最低で、他の年代は50%前後となっています。

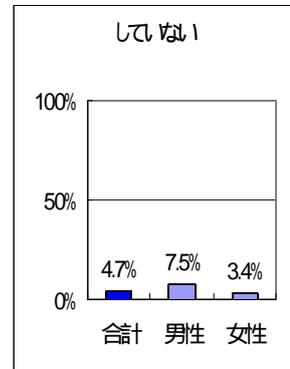
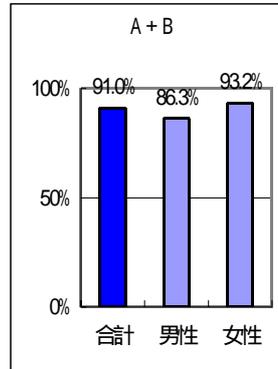
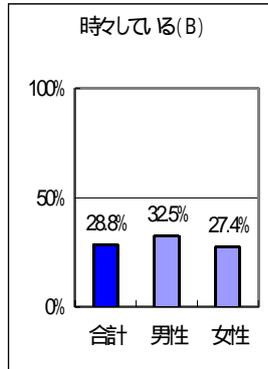
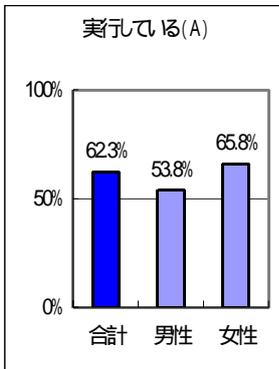
女性は、80歳以上と70歳代が70%台の高い実行度となっているほか、他の年代も50%前後になっています。



料理は食べ残しの出ないように調理している

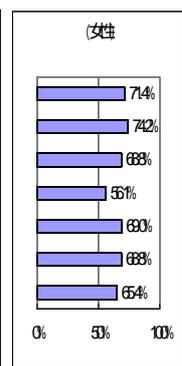
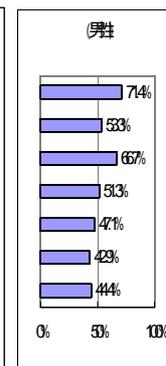
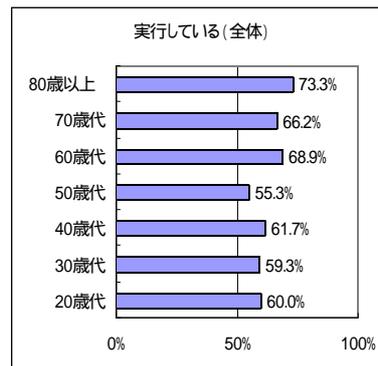
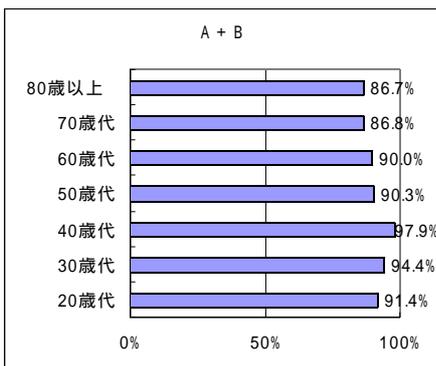
「料理は食べ残しの出ないように調理している」の問に対して、アンケート回答者424人中、406人(95.8%)の人が回答し、「実行している」264人の62.3%、「時々している」は122人の28.8%、「していない」は20人の4.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると91.0%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	86	53.8%	156	65.8%	22	81.5%	264	62.3%
時々している	52	32.5%	65	27.4%	5	18.5%	122	28.8%
小計	138	86.3%	221	93.2%	27	100.0%	386	91.0%
していない	12	7.5%	8	3.4%	0	0.0%	20	4.7%



「実行している」と答えた年代別では、男性の80歳以上が71.4%と高い実行度となっており、60歳代で66.7%、他の年代でも50%前後になっています。

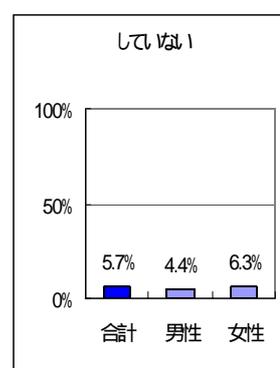
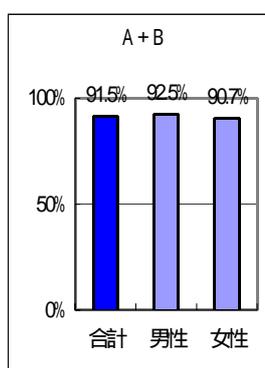
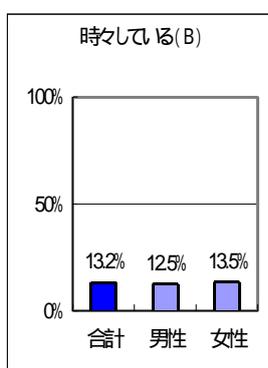
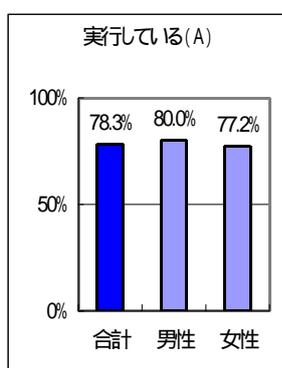
女性は、70歳代(74.2%)、80歳以上(71.4%)が70%を超える高い実行度となっているほか、50歳代の56.1%以外は60%台の実行度となっています。



㊴ 空きカン、空きビンなどを資源物収集に出している

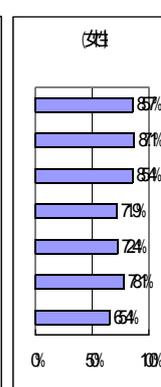
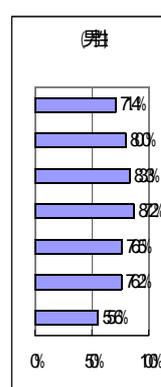
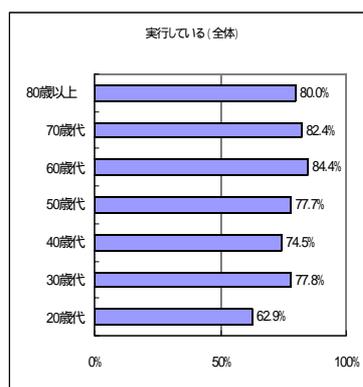
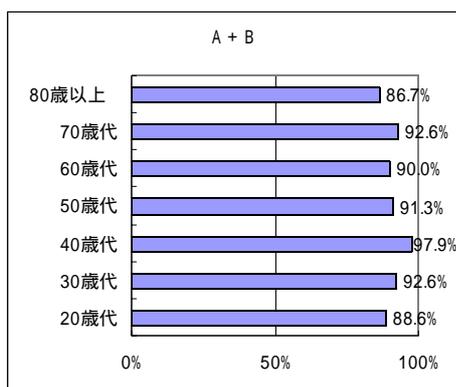
「空きカン、空きビンなどを資源物収集に出している」の問に対して、アンケート回答者424人中、412人(97.2%)の人が回答し、「実行している」332人の78.3%、「時々している」は56人の13.2%、「していない」は24人の5.7%となっており、「実行している」と「時々している」を合わせると91.5%となっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
実行している	128	80.0%	183	77.2%	21	77.8%	332	78.3%
時々している	20	12.5%	32	13.5%	4	14.8%	56	13.2%
小計	148	92.5%	215	90.7%	25	92.6%	388	91.5%
していない	7	4.4%	15	6.3%	2	7.4%	24	5.7%



「実行している」と答えた年代別で、男性では20歳代の55.6%が最低になっていますが、他の年代は70%以上の高い実行度となっています。

女性は、20歳代の65.4%以外、各年代とも70%を超える高い実行度となっています。

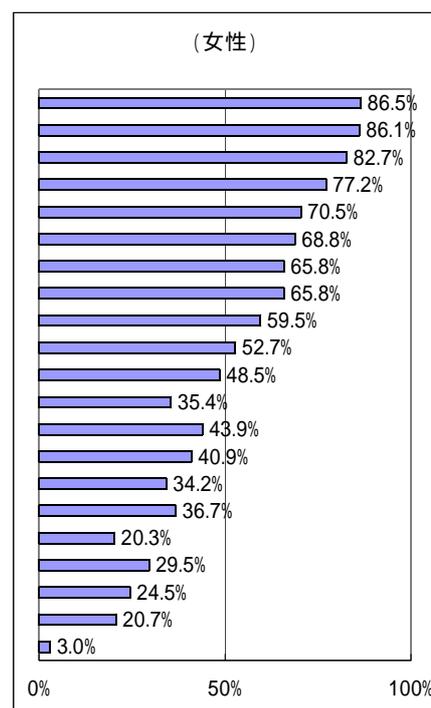
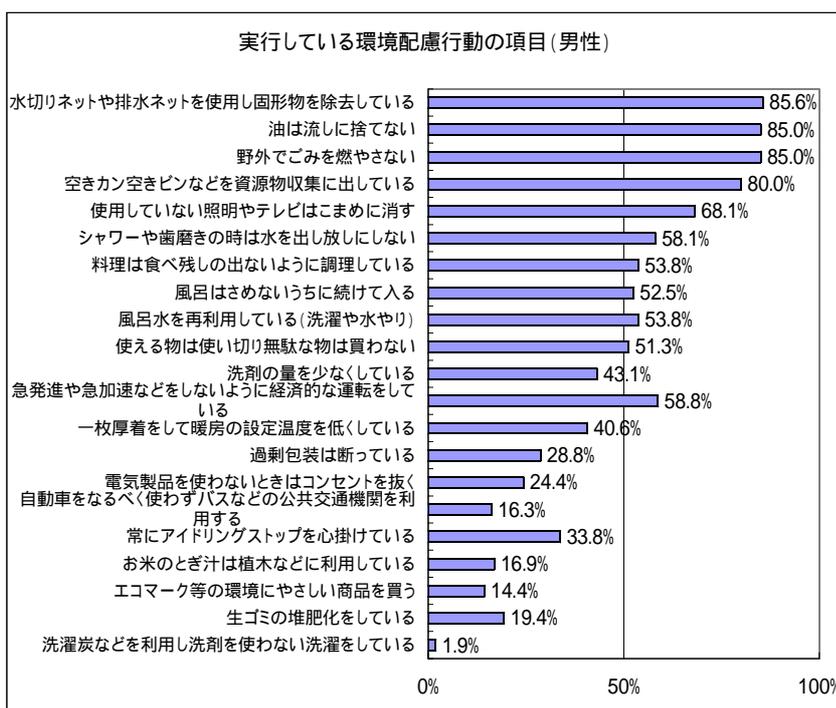
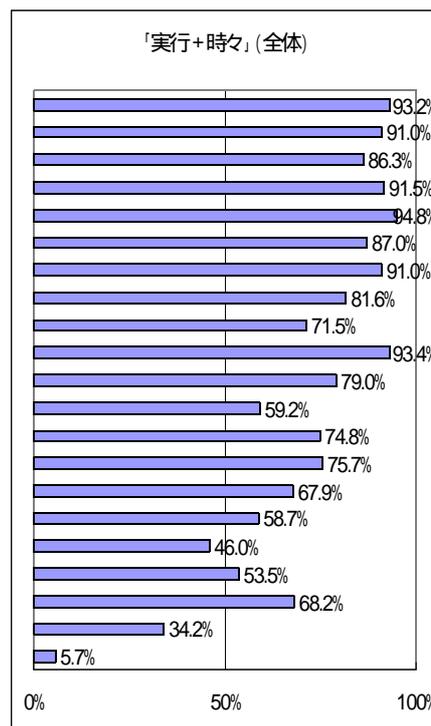
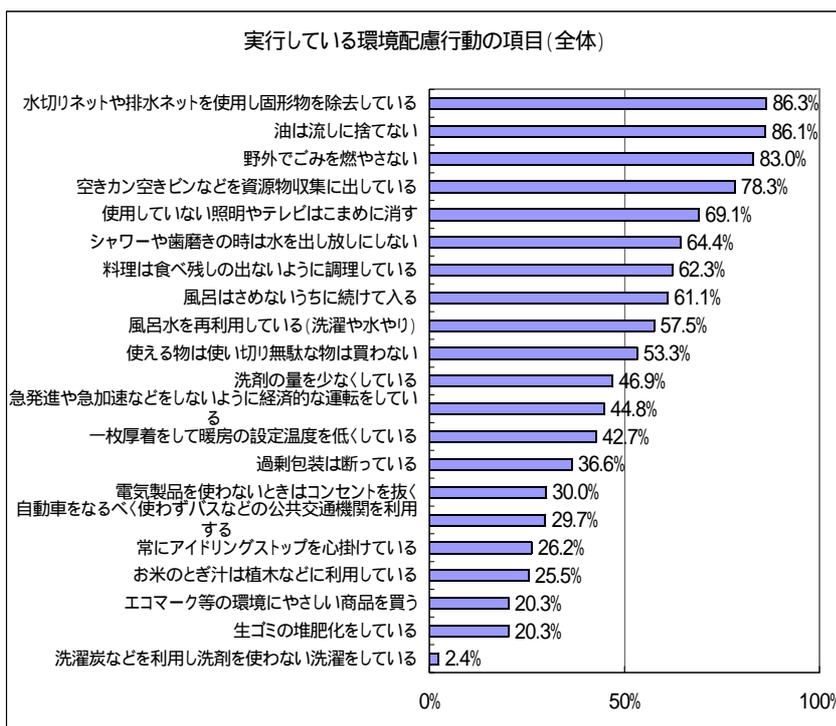


(2) 環境配慮行動の実行順位

環境配慮行動の実行度について、下記のグラフの通りとなっており、全体（男性＋女性）で上位3項目が80%以上の実行率を示し、半数以上の人を実行している項目も21項目中10項目となっています。

その中で特に実行度が高いのが、「水切りネットや排水ネットの使用」「油の処理」「野外でのごみ焼却」に関する事項で、80%以上という高い率を示しています。また、男女とも実行度の上位5項目は、同じ項目となっています。

男女別で実行度に差の出た環境配慮行動は「急発進や急加速の経済運転」で、運転する頻度の高い男性で6番目となっていますが、そうではない女性では15番目と低くなっています。

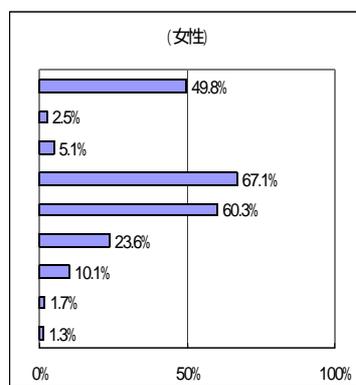
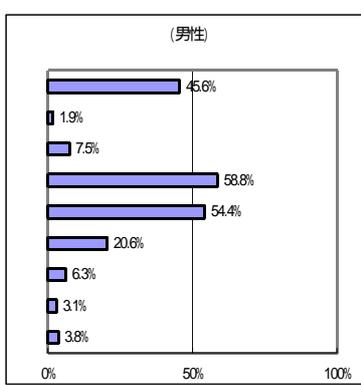
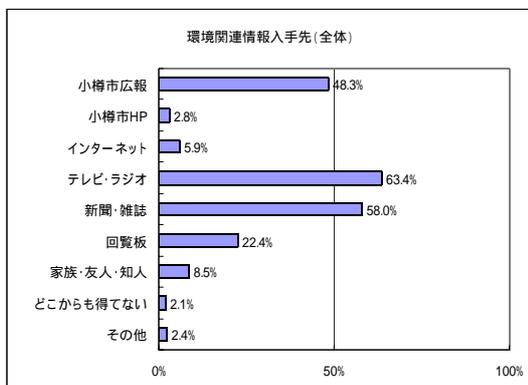


8. 環境関係の情報について

(1) 環境関係の情報源

Q14「環境に関する情報をどこから得ていますか(複数回答可)」との問に対して、男性、女性とも、「テレビ・ラジオ」-「新聞・雑誌」-「小樽市広報」-「回覧板」の順となっており、「テレビ・ラジオ」と「新聞・雑誌」が50%以上、「小樽市広報」が40%台、「回覧板」は、20%台、その他については、10%以下となっています。

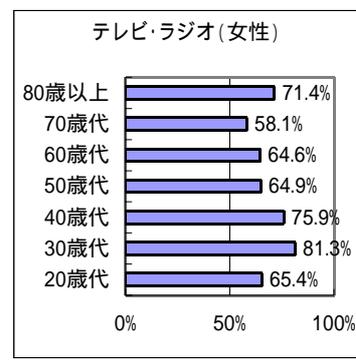
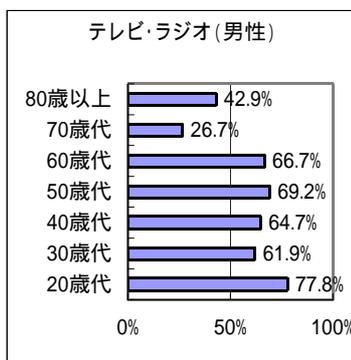
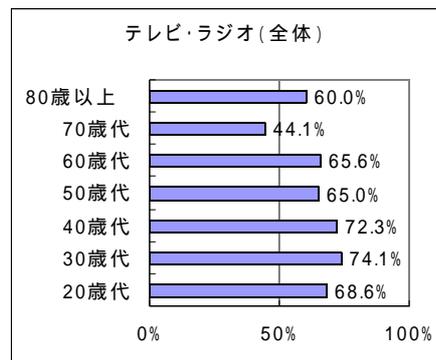
区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
小樽市広報	73	45.6%	118	49.8%	14	51.9%	205	48.3%
小樽市HP	3	1.9%	6	2.5%	3	11.1%	12	2.8%
インターネット	12	7.5%	12	5.1%	1	3.7%	25	5.9%
テレビ・ラジオ	94	58.8%	159	67.1%	16	59.3%	269	63.4%
新聞・雑誌	87	54.4%	143	60.3%	16	59.3%	246	58.0%
回覧板	33	20.6%	56	23.6%	6	22.2%	95	22.4%
家族・友人・知人	10	6.3%	24	10.1%	2	7.4%	36	8.5%
どこからも得てない	5	3.1%	4	1.7%	0	0.0%	9	2.1%
その他	6	3.8%	3	1.3%	1	3.7%	10	2.4%



テレビ・ラジオ

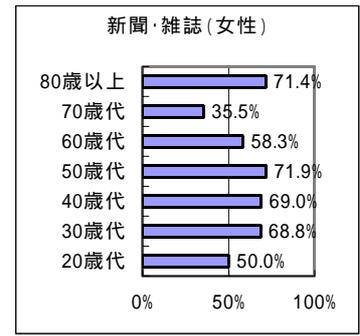
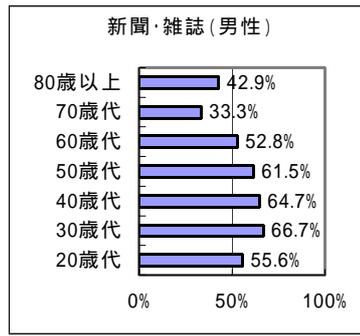
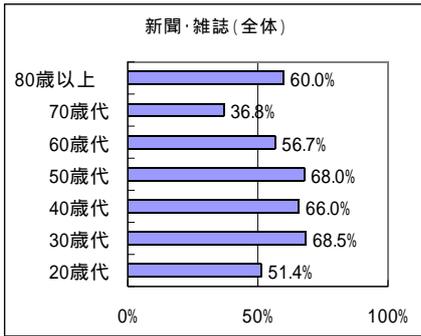
男性は、80歳以上と70歳代以外は、60%~70%台となっています。

女性は、70歳代でも58.1%と各年代とも「テレビ・ラジオ」を情報入手先に挙げています。



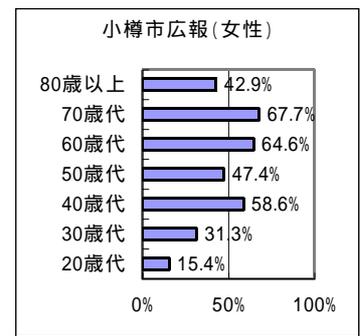
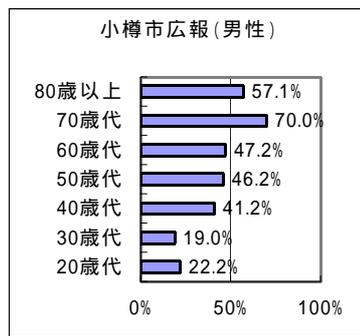
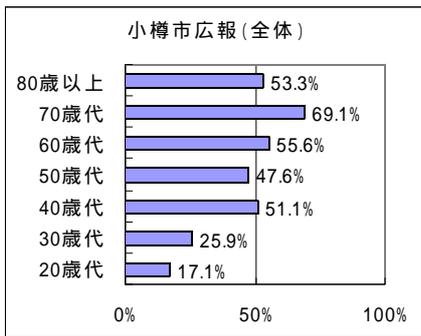
新聞・雑誌

男性・女性ともに70歳代が30%台と低くなっています。特に30歳代~50歳代は、新聞・雑誌を情報源にしています。



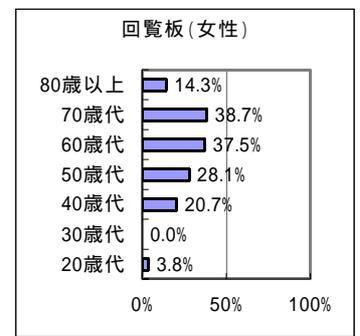
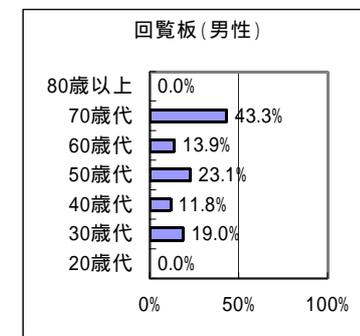
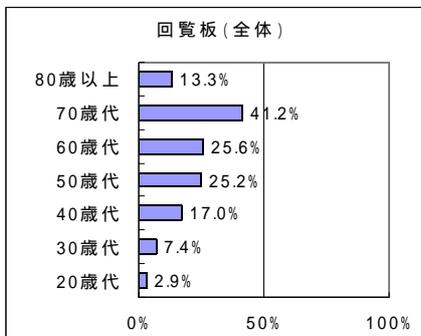
小樽市広報

男性・女性とも各年代でばらつきはあるものの、20歳代、30歳代が低くなっています。



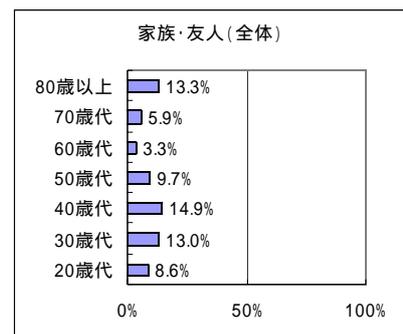
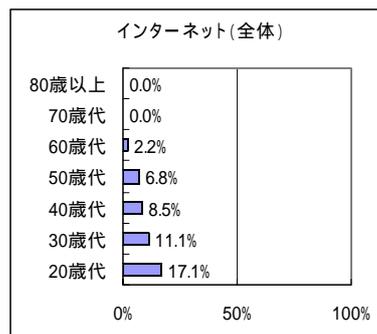
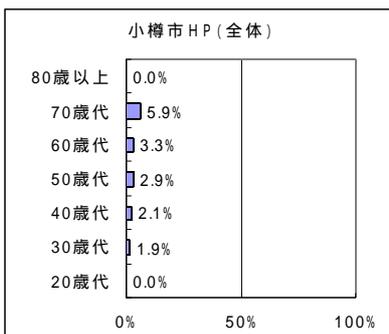
回覧板

男性・女性とも情報源としている率はあまり高くありませんが、その中でも50歳代以上の年代が高い傾向がみられます。



その他

下記の情報源では、若い年代が、インターネット関係から、高齢者は、家族・友人等を情報源にしている傾向がみられます。

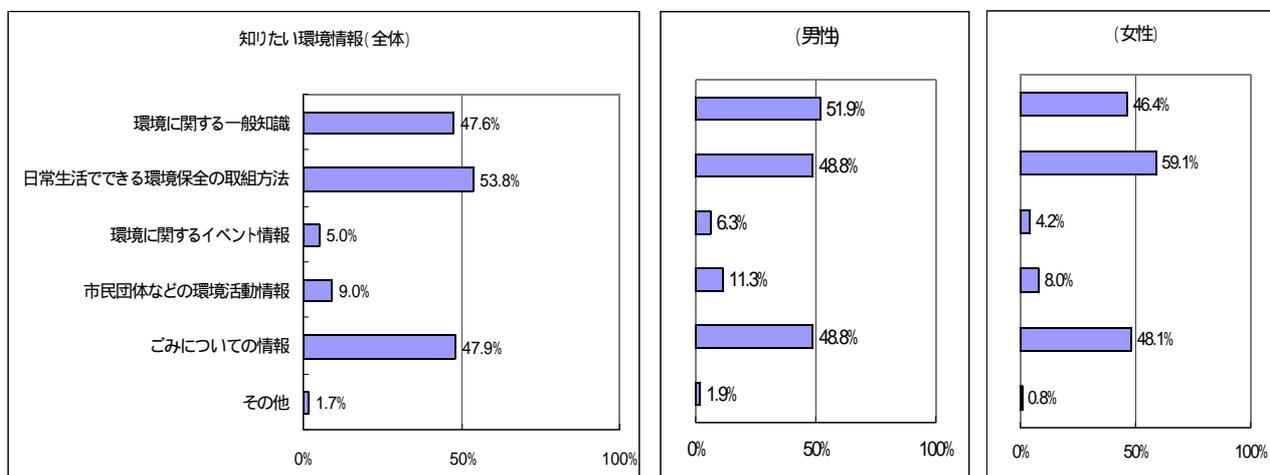


(2) 知りたい環境関連情報

Q15「あなたにとって知りたい環境の情報は何ですか(複数回答可)」との問に対して、男性、女性とも、「日常生活でできる環境保全の取り組み」、「ごみについての情報」、「環境に関する一般知識」が50%前後となっており、その他の項目については10%以下となっています。

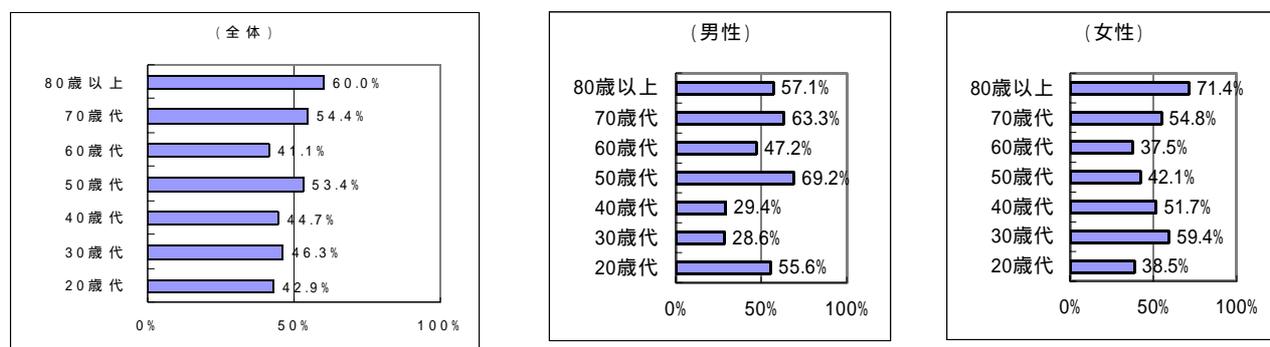
知りたい環境関連情報の優先度には、男女の違いがみられますが、知りたい環境情報の項目には大きな差はみられません。

区分	男性	女性	無記入	合計
有効回答者数	160人	237人	27人	424人
環境に関する一般知識	83 51.9%	110 46.4%	9 33.3%	202 47.6%
日常生活でできる環境保全の取り組み	78 48.8%	140 59.1%	10 37.0%	228 53.8%
環境に関するイベント情報	10 6.3%	10 4.2%	1 3.7%	21 5.0%
市民団体などの環境活動情報	18 11.3%	19 8.0%	1 3.7%	38 9.0%
ごみについての情報	78 48.8%	114 48.1%	11 40.7%	203 47.9%
その他	3 1.9%	2 0.8%	2 7.4%	7 1.7%



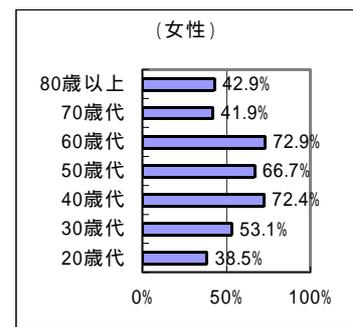
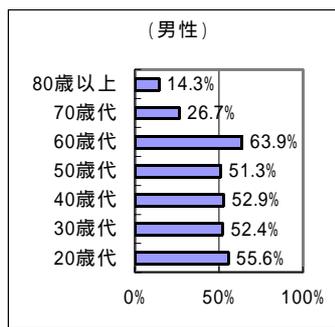
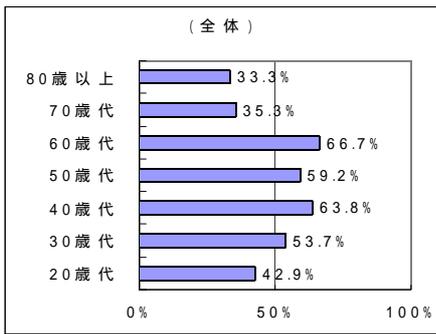
環境に関する一般知識

男性の30歳代、40歳代が30%以下と低くなっています。



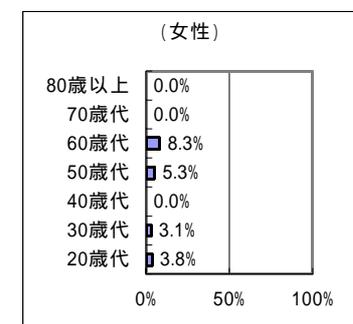
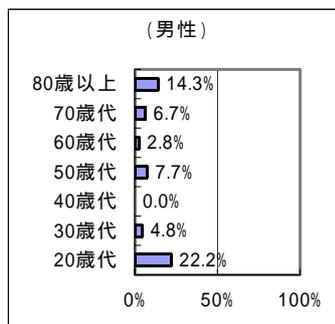
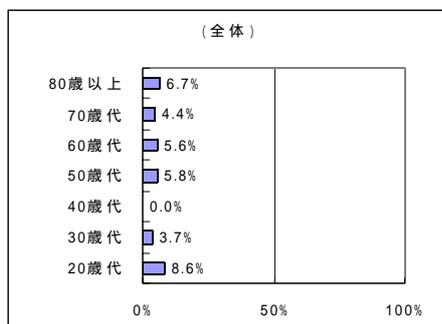
日常生活でできる環境保全の取り組み

70歳代、80歳以上の男性以外の各年代で、大きなばらつきはほとんどありません。その中で、女性の40歳代、50歳代、60歳代、男性の60歳代が高くなっています。



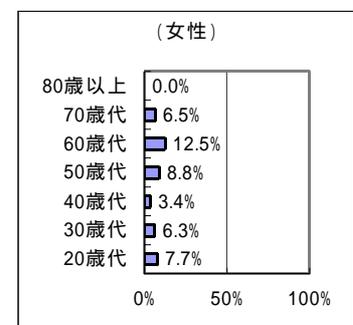
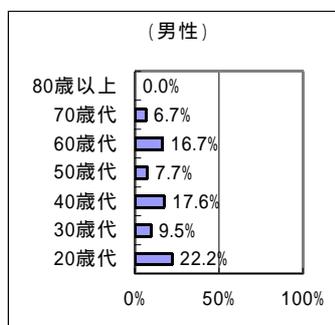
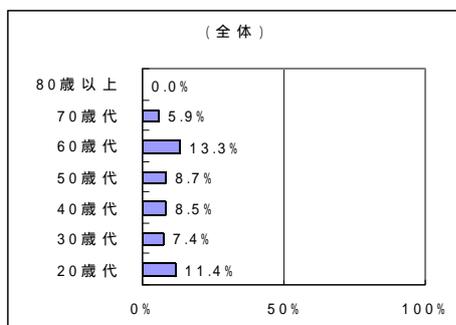
環境に関するイベント情報

20歳代の男性が22.2%となっているほか、各年代とも低くなっています。



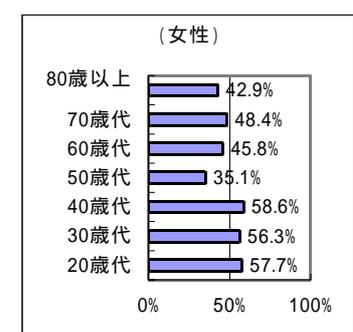
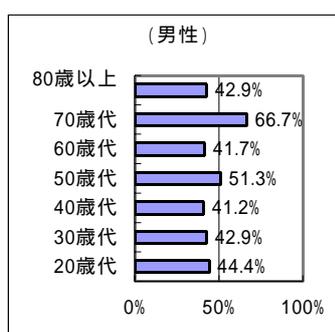
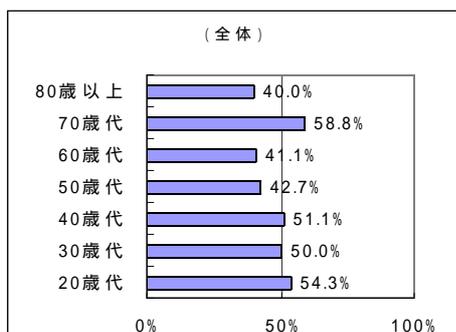
市民団体などの環境活動情報

20歳代、40歳代、60歳代の男性、60歳代の女性が10%台になっているほか、各年代は10%以下と低くなっています。



ごみについての情報

生活に密着する情報のためか、男性・女性の各年代とも、50%前後となっています。



9. レジ袋・買い物袋（マイバッグ）について

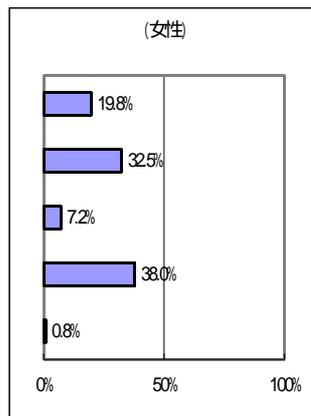
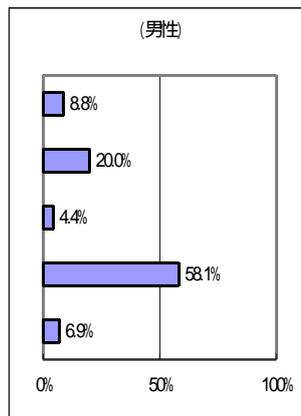
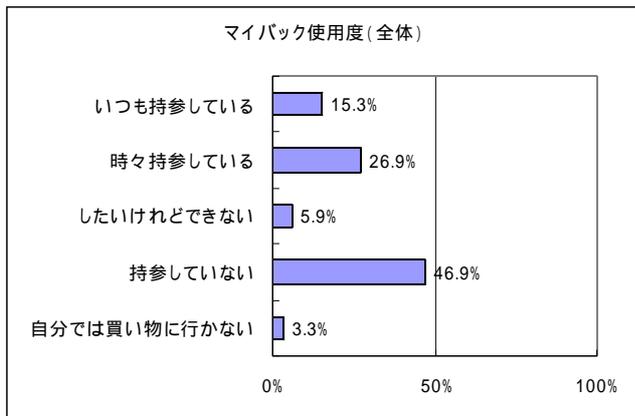
(1) マイバッグの使用度

Q16「買い物時にはマイバッグを持参していますか」の問に対して、アンケート回答者424人中、417人(98.3%)の人が回答し、「いつも持参している」は65人の15.3%、「時々持参している」は114人の26.9%となり、その合計は、179人(42.2%)となっています。「したいけれどできない」は25人の5.9%、「持参していない」は199人の46.9%となっています。

男女別では、買い物をする人が女性が多いことからか、マイバッグを「持参していない」が女性の38.0%に対し、男性は58.1%となっています。

「いつも持参している」でも、女性で19.8%、男性が8.8%となり、男女に大きな違いがみられます。

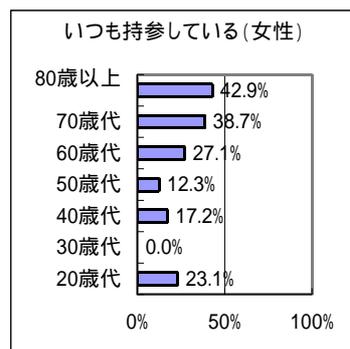
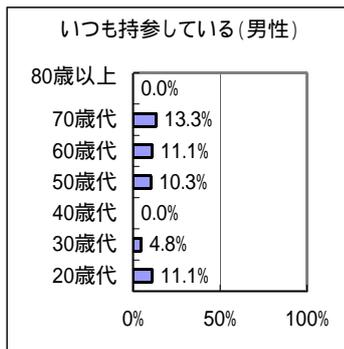
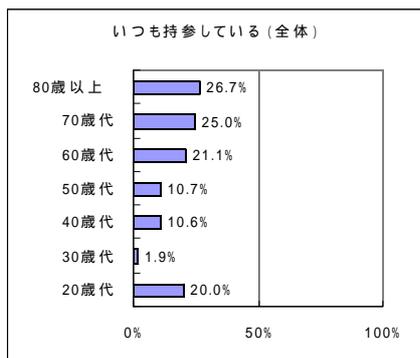
区 分	男性		女性		無記入		合 計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
いつも持参している	14	8.8%	47	19.8%	4	14.8%	65	15.3%
時々持参している	32	20.0%	77	32.5%	5	18.5%	114	26.9%
小 計	46	28.8%	124	52.3%	9	33.3%	179	42.2%
したいけれどできない	7	4.4%	17	7.2%	1	3.7%	25	5.9%
持参していない	93	58.1%	90	38.0%	16	59.3%	199	46.9%
小 計	100	62.5%	107	45.1%	17	63.0%	224	52.8%
自分では買い物に行かない	11	6.9%	2	0.8%	1	3.7%	14	3.3%



いつも持参している

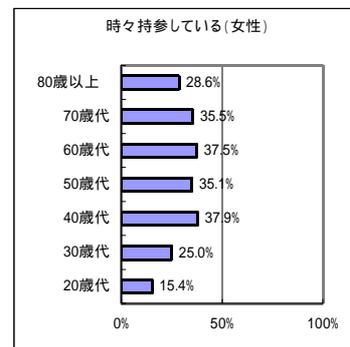
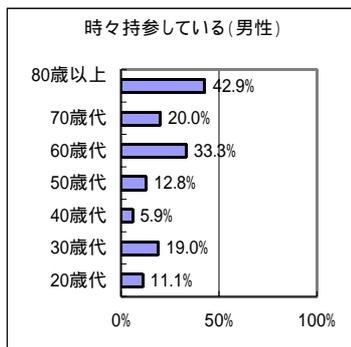
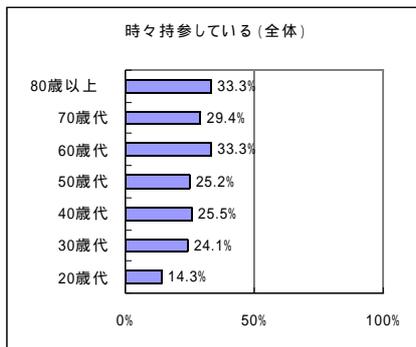
「いつも持参している」は、女性の高齢者が高くなっています。

男性の高齢者も女性ほどではありませんが、10%強となっています。



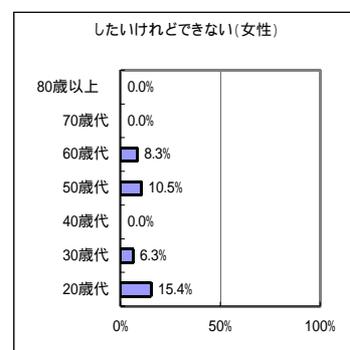
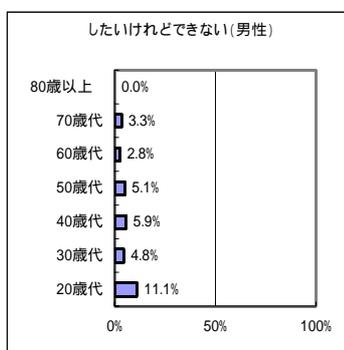
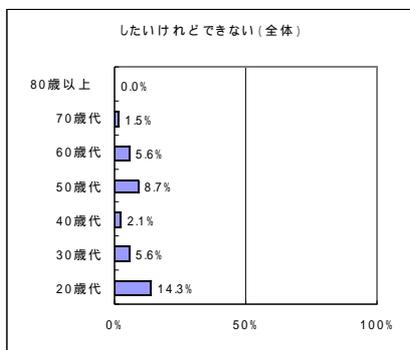
時々持参している

男性では、高齢者が高く、女性では、20歳代以外20%~30%台になっています。



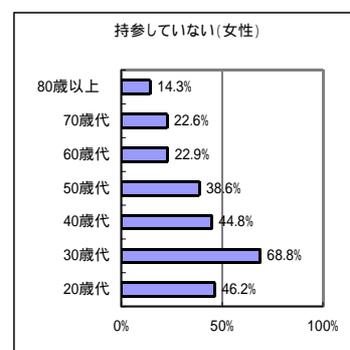
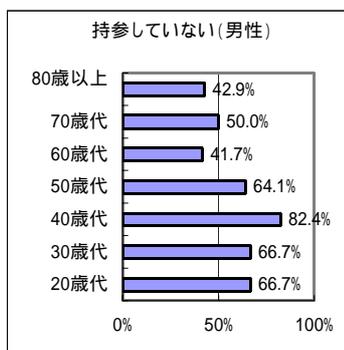
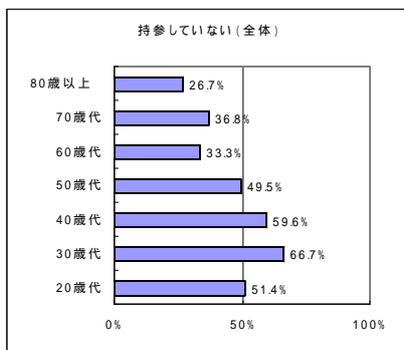
したいけれどできない

20歳代の男女、50歳代の女性が10%台のほか、他の年代は10%以下となっています。



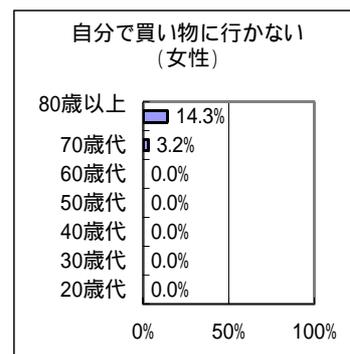
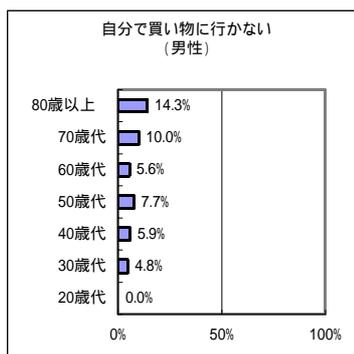
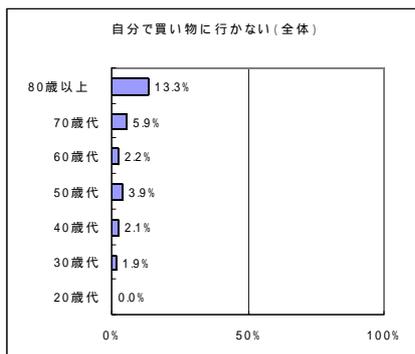
持参していない

男女とも若い年代ほど「持参していない」傾向が高くなっています。



自分では買い物に行かない

男性では、高齢者に行くほど多く、女性では、80歳以上が高くなっています。



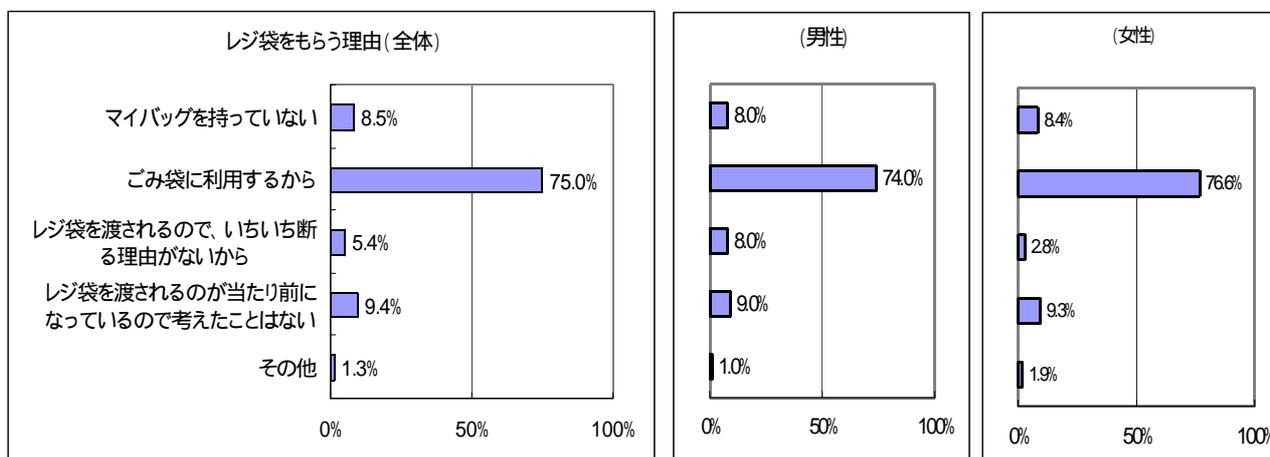
(2) レジ袋をもらう理由

Q16で「したいけれどできない」(25人)、「持参していない」(199人)と回答した人224人に、Q17で「レジ袋をもらう理由はなんですか」と尋ねました。

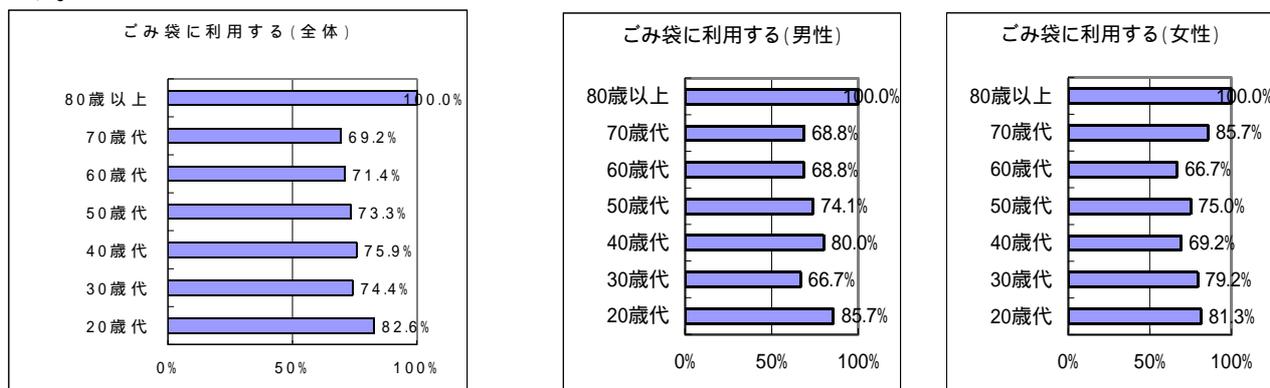
「マイバッグを持っていない」は19人の8.5%、「ごみ袋に利用するから」は168人の75.0%、「いちいち断る理由がないから」は12人の5.4%、「当たり前になっているから」は21人の9.4%となっています。

回答者のほとんどは「ごみ袋に利用するから」と答えており、大きな男女差はみられません。

区分	男性	女性	無記入	合計
Q16での3・4の回答者数	100人	107人	17人	224人
マイバッグを持っていない	8 8.0%	9 8.4%	2 11.8%	19 8.5%
ごみ袋に利用するから	74 74.0%	82 76.6%	12 70.6%	168 75.0%
レジ袋を渡されるので、いちいち断る理由がないから	8 8.0%	3 2.8%	1 5.9%	12 5.4%
レジ袋を渡されるのが当たり前になっているので考えたことはない	9 9.0%	10 9.3%	2 11.8%	21 9.4%
その他	1 1.0%	2 1.9%	0 0.0%	3 1.3%



年代別に「ごみ袋に利用」を見ると、男性・女性の各年代とも60%以上の高い率となっています。



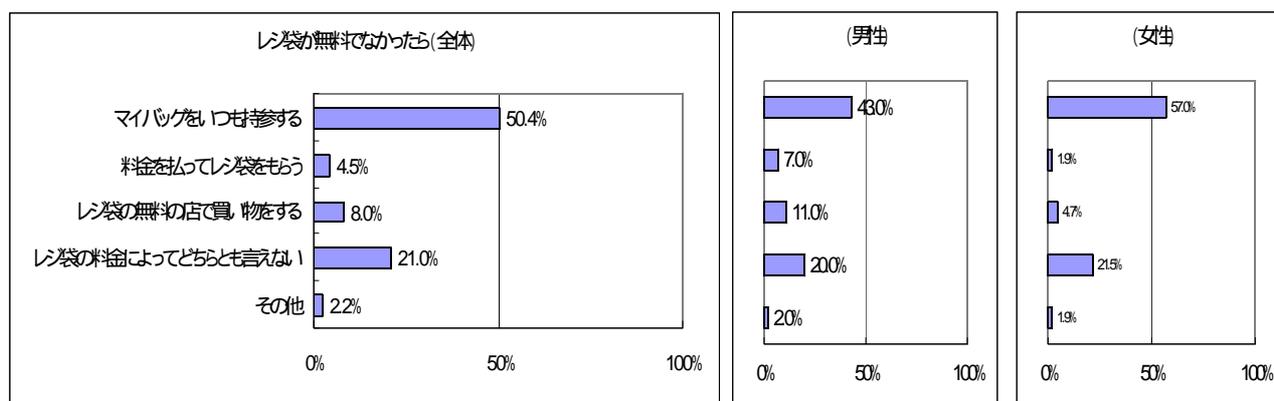
(3) レジ袋が無料でもらえなかったら、どうしますか

Q16で「したいけれどできない」(25人)、「持参していない」(199人)と回答した人にQ18で「レジ袋を無料でもらえなかったら、あなたはどうしますか」と尋ねました。

回答者の対策として、約半数の人が、「マイバッグをいつも持参する」と答えており、レジ袋の金額によって「どうするか決める」という人も約20%になっています。

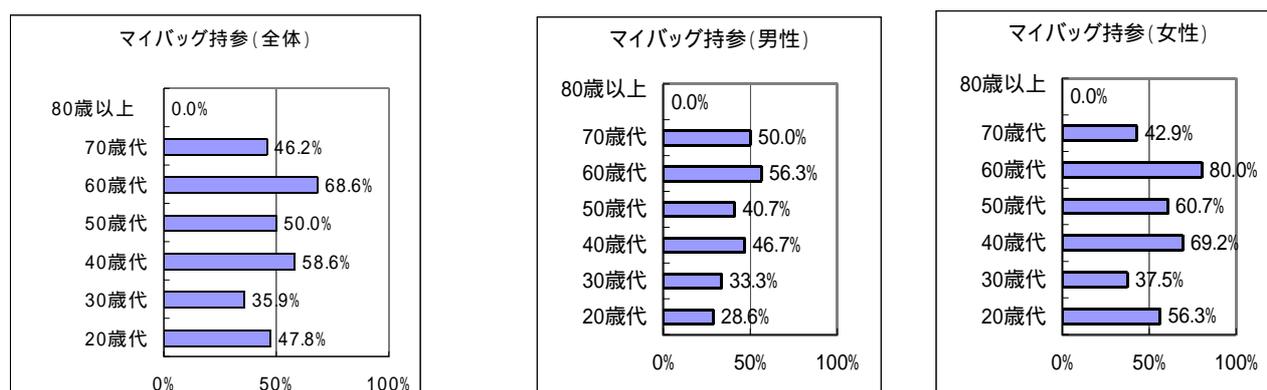
「マイバッグをいつも持参する」は、男性と女性の意識の違いからか、女性の57%に対して、男性43%と低くなっています。

区 分	男性	女性	無記入	合 計
Q16での3・4の回答者数	100人	107人	17人	224人
マイバッグをいつも持参する	43 43.0%	61 57.0%	9 52.9%	113 50.4%
料金を払ってレジ袋をもらう	7 7.0%	2 1.9%	1 5.9%	10 4.5%
レジ袋の無料の店で買い物をする	11 11.0%	5 4.7%	2 11.8%	18 8.0%
レジ袋の料金によってどちらとも言えない	20 20.0%	23 21.5%	4 23.5%	47 21.0%
そ の 他	2 2.0%	2 1.9%	1 5.9%	5 2.2%



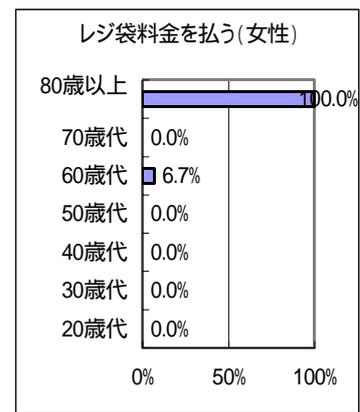
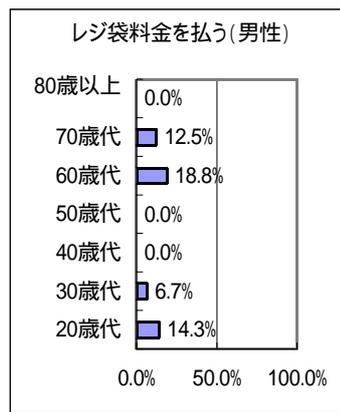
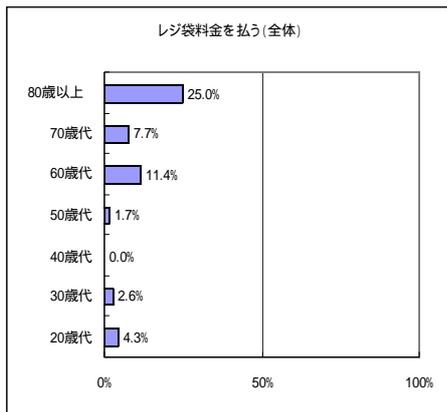
マイバッグをいつも持参する

「マイバッグをいつも持参する」と答えた人を年代別を見ると、男性は60歳代の56.3%が最高となっていますが、女性は、60歳代が80.0%と最高になっています。男性より女性の方が、各世代とも高くなっています。

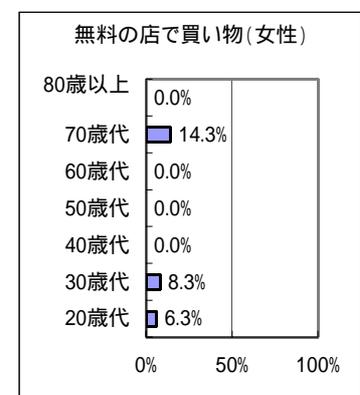
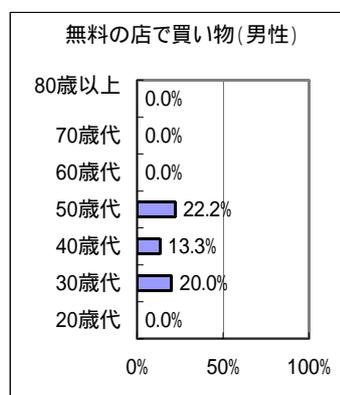
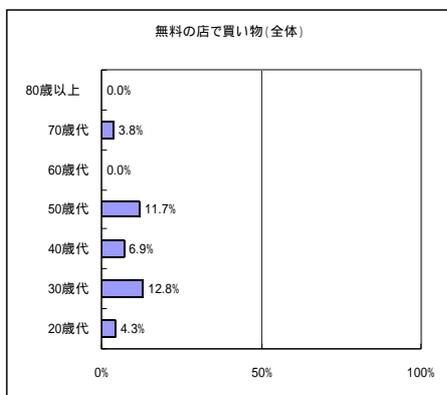


料金を払ってレジ袋をもらう

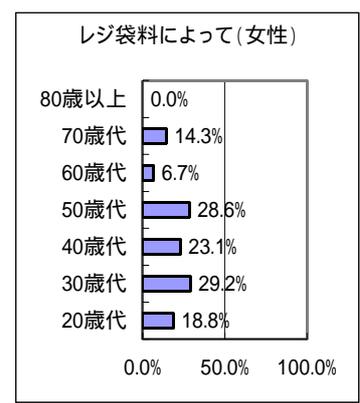
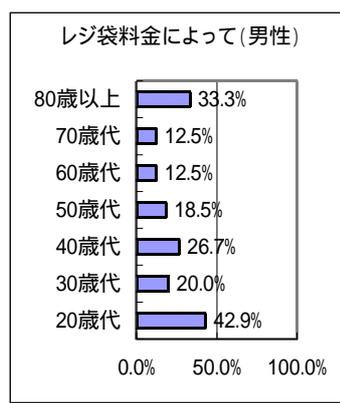
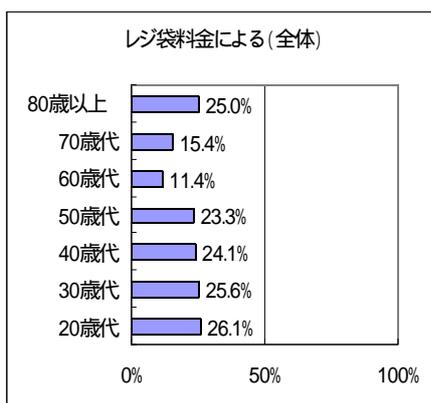
男性では、「レジ袋料金を払う」ことで買い物をする年代が見られますが、女性は、ほとんどの年代で「料金を払って買い物する」と答えた人はいませんでした。(女性の80歳以上が100%となっていますが、これは1人しかいない回答者が「払う」と回答したためです)



レジ袋が無料の店で買い物をする
無料の店に変えて対応すると答えた人は、各年代とも少ない。



レジ袋の料金によってどちらともいえない
レジ袋の金額を見てからと答えた人は、各年代にばらつきがみられる。

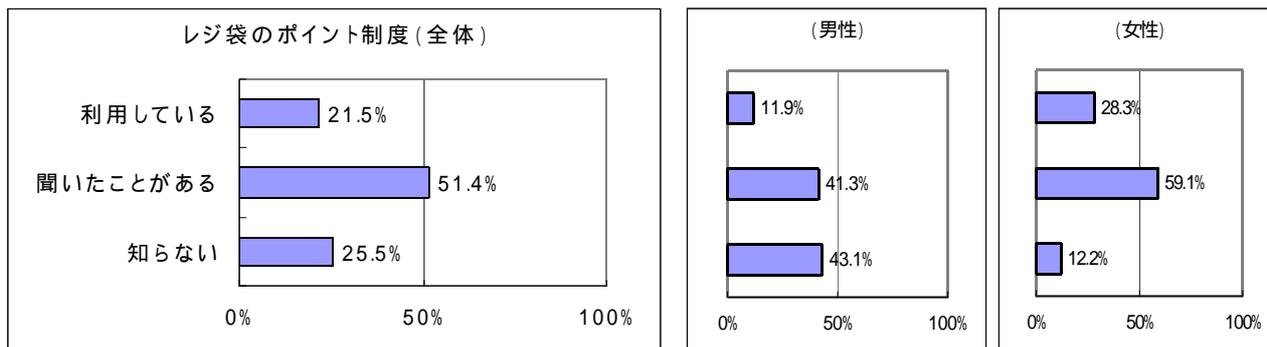


(4) ポイント制度

Q19「スーパーなどでレジ袋を断るとポイントをもらえ、商品券等と交換する制度がありますが、ご存じですか」との問いに対して、アンケート回答者424人中、417人(98.3%)の人が回答し、「利用している」は91人の21.5%、「聞いたことはある」は218人の51.4%となり、その合計は、309人(72.9%)となっています。「知らない」は108人の25.5%となっています。

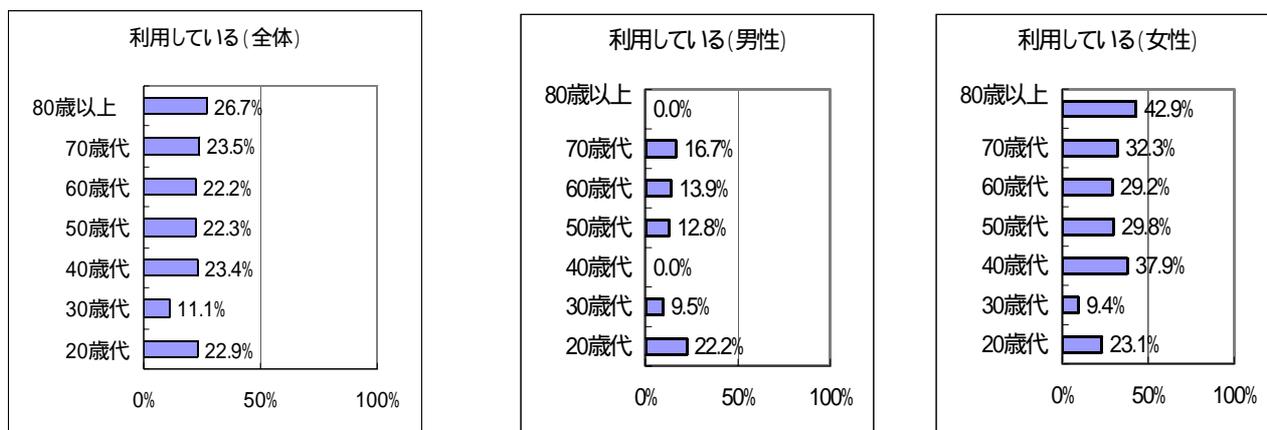
男性では、「聞いたことはある」と「知らない」がほぼ同数となりましたが、女性では、利用している人も約30%あり、「聞いたことはある」を含めると87.3%と周知度は高くなっています。

区分	男性		女性		無記入		合計	
有効回答者数	160人		237人		27人		424人	
利用している	19	11.9%	67	28.3%	5	18.5%	91	21.5%
聞いたことはある	66	41.3%	140	59.1%	12	44.4%	218	51.4%
小計	85	53.1%	207	87.3%	17	63.0%	309	72.9%
知らない	69	43.1%	29	12.2%	10	37.0%	108	25.5%



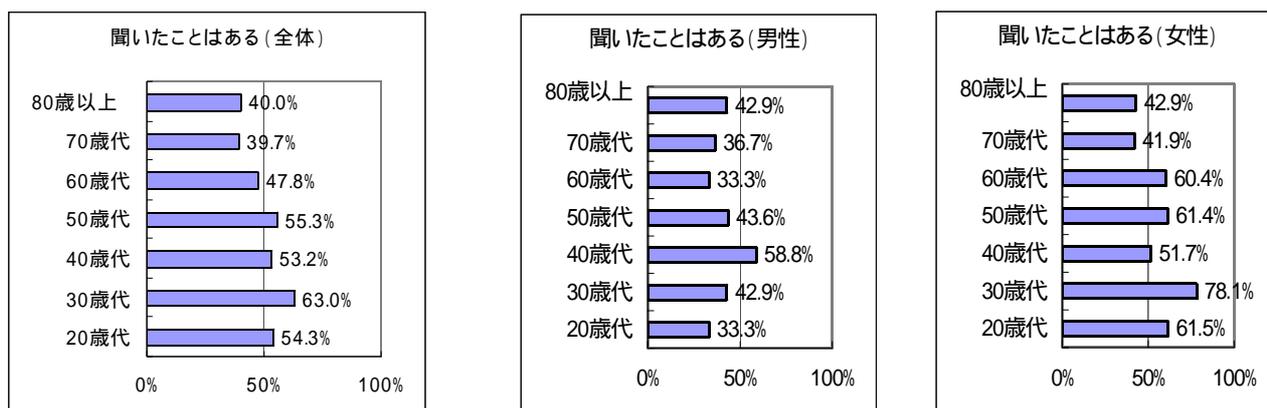
利用している

利用している人は、各年代とも男性より女性のほうが高くなっています。



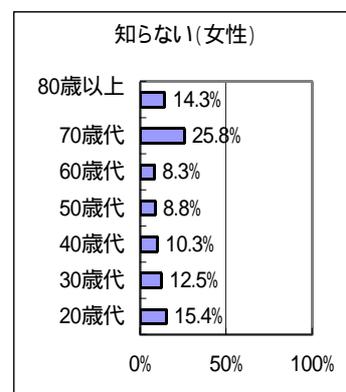
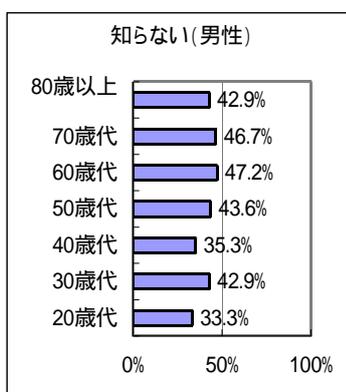
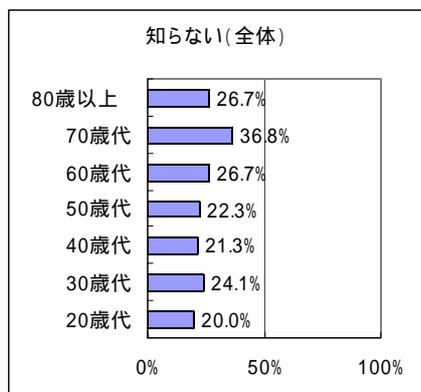
聞いたことはある

男性の40歳代、女性の20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代が50%を超えています。



知らない

知らないと答えた年代は、男性は、各世代とも平均していますが、女性は、各年代によってばらつきがみられます。



地球温暖化及びごみ減量化に対する市民意見

「地球温暖化及びごみ減量化に関しての意見（自由回答）」を、135人の方からいただきました。これに対して、環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議として、行政にかかわる質問も多いことから担当部署に確認をとりながら、また、この機会に地球温暖化防止へのメッセージ的な意味合いを込め、回答させていただきました。なお、意見等については、原文通りに記載しています。

無回答・70歳代

ごみの減量と共に、特に市販の過剰包装とトレーの減量をしてほしい。

ごみの減量化を進めるには、市民、事業者、行政が、それぞれの立場で循環型社会に向けた取り組みを積極的に行うことが重要と思います。市では、廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみの減量化施策とその方策としての有料化について」諮問し、3月12日に答申を受けました。今後の市の具体的な減量化施策に期待をしています。

女性・30歳代

個人的に魚肉類のトレーは不必要だと思います。ハッポウ類は有害な品だと思います。土にもならない。

今は家庭で洗ってゴミの日に出していますが、海や川で「ブカブカ」浮いていると「うんざり」する時があります。なにか良い方法はないのかといつも思っています。

後は、家に畑や庭のある家は生ゴミ処理も出来ると思いますが、マンション、アパートの人々はどうでしょう。収集車に回収してもらわなければならないと思います。無駄な物は作らない、買わないのが一番なのでは...

トレーの減量については、ばら売りや対面販売などの方法により減量対策を講じているスーパーなどもありますが、今のような小売形態の中で全くなくすることは難しいようです。トレイは、スーパー等がトレーメーカーと協力して店頭で回収する自主回収方式を行っているところもありますが、すべて回収するまでにはいたらず、一部が家庭ごみに混じって排出されています。

「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の中でも、5番目の項目に「ごみを減らしましょう」と呼びかけています。これからは、買い物をするときも3R(86ページをご参照ください。)を考えることが大切だと思います。

男性・60歳代

人工廃熱を減らす。 緑化事業の一層の促進。 スクラップ&ビルド時に出る廃材の有効活用。

地球温暖化の原因である温室効果ガスの中で石油などの化石燃料を燃やして出る二酸化炭素が約90%を占め、私たちの日常生活からも大量に排出されています。現在の生活様式で二酸化炭素の排出を直ちに止めることは出来ませんが、排出量の増加を止め、削減していくために、家庭等で取り組める環境に配慮した行動が大切です。これには、皆さんの協力が必要になってきます。

廃材の有効活用については、平成14年5月から建設資材リサイクル法が施行され、建築物等の解体工事によって排出されるコンクリート廃材、廃木材の分別とリサイクルが行われています。資源を再利用して、ごみとして出さない循環型社会を創ることが急務になっています。

男性・30歳代

ペットボトル、缶、ビンと燃えないゴミを分別して出しているのですが、収集日が同じ日なので、どういうふうに出すのが分からないのか分かりません。こちらが分別して出しているのに、集める方では同じ扱いをしているのかなと疑問です。

ダイオキシンの問題などで、燃えるゴミも焼却せず、埋めていると聞いたのですが、本当ですか。

現在、市の収集は、資源物（かん・びん・ペットボトル・牛乳等の紙パック・蛍光灯・電球）、燃やすごみ、燃やさないごみの3つに分けられています。それぞれの収集日は、同じ日にならないように曜日が決められていますので、資源物をごみと一緒に集めることは無いと思います。資源収集日には、かんとびんを一緒の袋、ペットボトルと紙パックを一緒の袋で出すことができますが、これらはリサイクルセンターで、アルミ缶、スチール缶、ガラスびんは色分け、ペットボトル、紙パックにそれぞれ分けられ、リサイクルされています。

ごみの焼却は、天神にあった焼却施設が厳しくなるダイオキシンの規制基準を満たすことが難しくなったことから平成13年に稼働を中止し、「燃やすごみ」も桃内の埋め立て施設に運んで処理されています。新焼却施設については、桃内の埋め立て施設の敷地内に建設される予定で、平成19年度の稼働を目標に事業を進められています。

男性・60歳代

ゴミの有料化に不満はないと思っている。

地球温暖化については、我が家も夜通し電気を使い、パソコン、ワープロ等々、車は一人1台、もっと意識しなければと思いますが、？

家庭ごみの有料化は、ごみの減量化意識の向上や資源化の推進につながる有効な方法と言われています。小樽市長から小樽市廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみの減量化施策とその方策としての有料化について」諮問され、今年3月に答申されましたが、その中で家庭ごみの有料化は、減量化意識の向上や資源化の推進につながる有効な方策の一つであるとの考えが示されました。

地球温暖化は、その「原因」が私たちの日常生活や社会のすべてに関係し、地球全体に「影響」を与えますが、変化がおそく時間的に非常に長期にわたって現れます。そして何よりも問題なことは、私たちが身近に感じられず「認識」出来にくいことだと思います。身の周りで具体的な影響が見えれば、「みんなで解決していこう」という合意づくりができますが、これが出来にくいことです。これには、将来を考えて地球温暖化を理解することが大切であり、日常生活で環境配慮行動を実行することが必要ですので、市民で決めた「市民ルール」の普及に向けて努めていきたいと思っています。

無回答・70歳代

ゴミを出す日に、いつも思っている事ですが、ゴミステーションでないのに角地なので、我が家の前にゴミが山になります。その中には資源ゴミがいっぱいあります。

小樽市もゴミ収集は有料にすべきだと思います。お金を出すことになれば、気をつけて出すようになるのではないのでしょうか。

市の調べでは、平成14年度の家庭ごみの量は約4万2千トンで、資源物となるものが約40%も含まれているそうです。ごみを減らすには、資源物とごみとの分別を徹底することで資源化を進めることが大切です。これには有料化も一つの方法と考えられますが、大事なことは、市民として率先して3R（86ページをご参照ください。）に努めることだと思います。

男性・無回答

バスの路線バスの排ガスがひどい車両が多い。もっとまめにオイル交換等整備をして、ディーゼル排ガスを少なくする様、市も指導すべきと思う。（東京並の規制は無理としても...）

東京などの大都市地域では、大気汚染が深刻な状況になっています。これらの汚染物質の発生にディーゼル車の排ガスが大きく影響しており、国でも削減対策を進めていますが、東京都では、独自の条例を制定しディーゼル車に規制をかけています。ちなみに排ガス中の粒子状物質が排出基準を満たさない車は、今年10月から都内の運行ができなくなります。浮遊粒子状物質は健康に影響を与えるとされており、環境基準が設定されています。小樽市でも、この物質の常時監視を市内4カ所（塩谷、小樽駅前、勝納、銭函）で行っており、すべての地点で環境基準を満たし、良好に推移している状況です。なお、ご意見については、バス会社にお伝えしたいと思います。

男性・40歳代

私の住んでいる地域は、資源ゴミの回収日が月に1度なのですが、月に2回の地域もあると聞いたことがあります。出来れば当地域も月に2回の回収にして頂きたいのですが…。

資源物の収集は、月1回と2回の地域に分かれていて、月2回の地域は資源物の収集を全市に拡大する前に、モデル地区として試行していた地域などだそうです。なぜ、全市月2回でないのかというと、天神にあるリサイクルセンター(資源物を集めて処理する施設)の処理能力が低いことから、このような収集回数になっているようです。

市では、桃内地区に新焼却場とあわせて、リサイクルプラザを建設する計画ですので、これが完成すると、処理能力が大幅に増え、収集回数も増やすことができるそうです。

無回答・70歳代

小樽では資源ゴミを持って行っても全部分別していないと聞きます。これは本当でしょうか。

そのようなことはありません。市で集めた資源物は、リサイクルセンターですべて分別され、リサイクルルートに乗せられて、処理されています。

女性・70歳代

マイバッグをいつも持参する様にする事。スーパーや店では、なるべくハッポーの入れ物を使わないようにする。

「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の中で、ごみの減量化を呼びかけています。

トレイについては、それに変わる包装資材が出てこない、店側で無くすことはできないと思いますが、もっと削減できる余地はあると思っています。マイバッグを持参してレジ袋をもらわないことは、使い捨ての代表的なレジ袋を削減することによって、ごみ減量化の意識向上につながる身近で簡単な取り組みだと思っています。

女性・40歳代

トレイを土にかえるものにした、不必要なプラスチック容器を減らす努力をする。

一時期、土にかえるトレイを導入したスーパー等があったようですが、製品単価が高く、コスト面で販売に結び付かなかったようです。しかし、これからはこのような環境に配慮した製品が開発され、市場に出てくると思います。国でも環境と経済が両立した新たな経済システムの構築を進めており、環境を軸にした新分野の産業ができることを期待しています。消費者としても、環境に配慮した商品を選択するよう努めることが大切だと思います。

女性・60歳代

あまりにも車が多すぎる。タイヤなどは販売元がすべて引き取る様にする事。プラスチック、テレビ、ほか電化製品、生産者が必ず引き取る様に。売るだけ売って、後は知りませんでは、いつまで経ってもゴミは無くなりませんよ。

食品に余計な入れ物が付きすぎます。

20世紀に入っての大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会活動は、私たちに大きな恩恵をもたらしてきましたが、他方では天然資源の枯渇への懸念や地球温暖化問題などの地球規模での環境問題を生じさせています。このような状況に対応するため、21世紀の経済社会の在り方として環境と経済を統合した持続可能な発展を指向する「循環型社会」という考え方が提起され、平成13年1月に循環型社会形成推進基本法が施行されました。これに伴って廃棄物減量、リサイクル促進に関する法律が整備、体系化されています。基本法の中で事業者の責務に拡大生産者責任が用いられ、廃棄物等の発生抑制や資源の循環的な利用、適正処分に資するように「製品の設計の工夫」「製品の材質・成分の表示」「一定の製品について、それが廃棄等された後、生産者が引取りやリサイクルを実施すること」が挙げられ、ごみとまらないような施策が進んでいます。

タイヤは、販売店やガソリンスタンドで、有料回収するシステムになっています。

男性・70歳代

ごみは有料にする。ごみのリサイクル向けが増える。
車のアイドリング禁止 エアコン目的のアイドリングが、これから目立つ。

ごみを減らすには、有料化も一つの有効な方法と思っています。
地球温暖化の原因である温室効果ガスの中で、二酸化炭素は約90%を占めています。
排出部門別で、2001年度の運輸部門では1990年比で22.8%増加しており、自家用車の増加が増えた原因の一つに挙げられています。自家用車のアイドリングストップは二酸化炭素を減らす効果がありますので、車を使用している人が積極的にとるべき環境配慮行動です。

男性・70歳代

生活ゴミを出す場合、透明袋でないと持っていかないの、燃えるゴミ、燃えないゴミに分別して出すのに、結構枚数が必要なので、スーパーの袋は必要不可欠な物となっています。

今回のアンケートでレジ袋をもらう理由を聞いたところ、ほとんどの人が「ごみ袋として利用する」と答えています。レジ袋はサービスでもらえ、手軽で便利なため、今の生活に定着し、ごみ袋としても利用されています。しかし、地球温暖化の防止の観点からは、レジ袋1枚つくるのに60ワットの照明を1時間つけっ放しにしたときと同じ量のエネルギーが使われていますので、今ある地球環境を後々の世代に引き継ぐためにも便利さを少し我慢することも必要だと思います。

男性・20歳代

環境に対する市の取り組みや情報を新聞折込広告と一緒に入れておけば、多くの人は見ると思う。(出来るだけ多くの回数、月二回程度など)

若い世代の人に「環境」のことを知らせる良い方法はないか、推進員会議の中でも話し合われていますが、これといった名案がない状況です。環境にやさしい行動を決めた「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)も新聞の折り込みに入れ市民にPRしましたが、そこから情報を得たと答えた方は1割にもなりません。提案のように出来るだけ多くの回数を入れればいいのですが、市としては費用の面で難しいようです。また、若い世代の人の情報収集方法がテレビや雑誌に多いようですので、新聞折込に効果があるのかも一概にいえません。地球温暖化などの環境問題を市民の皆さんにお知らせすることは大切ですので、会議の中でも検討を続けたいと思います。

男性・20歳代

商品を過剰包装しない企業が定着すれば良いと思います。無駄なゴミはいりません。パチンコ店などの照明は電気の無駄使いだと思います。

環境問題の難しいところは、経済活動との両立ではないでしょうか。それには、大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会を循環型社会に変えていく必要があります。商品の過剰包装も、この経済社会の中で消費者が受け入れてきたことの一つだと思います。このままではいけないと法律等も整備されてきていますが、それよりもまず、私たちがそのような商品を選択しないことでごみとして発生させないことが必要だと思います。照明も各店舗の営業方針に沿って行われていると思います。店舗の照明設計をするときに、白熱灯から蛍光灯に変えるだけでもエネルギーの省力化につながります。これからは地球温暖化に配慮した店舗設計が多くなることを期待しています。

女性・70歳代

電気やテレビ、水道、トイレ等の取扱いをこまめに実行しています。ゴミの減量化には、早朝の散歩時に袋を持参して、空き缶、ペットボトル等を拾って、駅やスーパーの区分入れに入れております。

皆さんの小さな取り組みが積み重なり、地球規模の環境改善に結びついていきます。こ

れからも、地球にやさしい行動を皆で進めていきましょう。

女性・80歳以上
ごみの分別が、まだ分からないことが多いので、1軒ずつ細かく書いたものを配布してほしい。

「家庭ごみ・資源物の分けかた・出し方」は、毎年小樽市で作成し、町会などを通じて各家庭に配布されています。その他の入手の仕方については、市役所環境部廃棄物対策課(32-4111内323)におたずねください。

女性・20歳代
小樽市はゴミ対策に対する取り組みが弱いと思います。富良野市のように自分の出すゴミに責任を持たせるような対策をとって欲しい。レジ袋を断るとポイントのたまる制度はどのスーパーでも実施して欲しい。特に さんでもしてもらいたいです。

現在、市では平成19年度の稼働を目指して、新しい焼却施設とリサイクル施設の建設事業が進められています。また、ごみの減量化を進めるにあたって、廃棄物減量等推進審議会に諮問し、今年3月に答申されました。この中でも、減量化に取り組んでいる人とそうでない人の不公平感についての話しもでていたようです。この答申を受けて小樽市がどのような政策をとっていくか、見守っていくことが必要だと思います。
なお、ご意見についてはスーパーにお伝えしたいと思います。

女性・60歳代
調査結果は「ホームページ」とありますが、コンピューターを持っていない人の為に、新聞、小樽市広報等で報告をお願いします。そうでないと老人は置いてきぼりになってしまいます。環境問題に無関心になってしまいます。

今回の調査結果については、いろいろな周知方法を検討したいと思っています。また、市にも皆さんの意見は伝えてあります。

女性・50歳代
リサイクル品の回収日を多くする。(貯めておく所がない人の為)
生ゴミ処理機への補助。(家電メーカーの)

現在、市では、平成19年度の稼働を目指して、リサイクル施設を建設する計画があります。この施設が完成すれば、処理能力が上がり、収集回数が増えると聞いています。市では、生ごみ減量対策として平成15年度から段ボールコンポストの普及を進めています。家庭で手軽に出来る生ごみ対策ですので、一度トライしてはいかがでしょうか。

女性・60歳代
NHKテレビで見たのですが、生ゴミを段ボールに入れて醗酵させ(何かを加える)、サラサラの土というか、有機肥料になる。その作り方を知りたいです。

小樽市環境部廃棄物対策課(32-4111内線323)で、生ごみ段ボールコンポストのパンフレットを用意していますので、ご利用ください。市のホームページの「暮らし小樽」、「環境部からのお知らせ」の中でも「段ボール式生ごみ堆肥化の手引き」があります。

男性・60歳代
地方自治体がもっと力を入れて取り組みしてほしい。

小樽市役所も一事業者として、地球温暖化防止のため温室効果ガスの削減に努めています。平成13年度に温暖化対策推進実行計画を策定し、平成17年度に、市の事務・事業から排出される温室効果ガスの総排出量を平成11年度に比べ2%以上削減するという目標が立てられています。平成14年度の温室効果ガス総排出量は平成11年度比で6.7

% 減少しています。小樽市の温暖化対策の進捗状況は小樽市のホームページ (<http://www.city.otaru.hokkaido.jp>) で公表されています。

また、私たち「環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議」でも市に様々な提言を行っていきたいと考えています。

男性・70歳代

私、はじめ市民の皆様方と力を合わせて勉強していきたいと思うております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議のメンバーも、地球温暖化について勉強しながら、「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)が市民の皆さんに広く普及するよう活動しています。地球温暖化防止には、皆さんの日常生活での環境に配慮した行動が不可欠ですので、力を合わせて地球温暖化防止に努めていききたいと思っております。

女性・70歳代

マンションに住んでおりますが、若い方の居られる家のゴミが非常に多様に思われ、気になっております。特に(ティッシュ等)食事の時には、おしぼり等を使用する事によって、使用量が、だい分、異なってくると思います。

昔ながらに家庭で普通に行ってきた行動が、地球温暖化防止につながっていることが沢山あります。便利になりすぎた生活を少し変えるだけで、地球環境にとってやさしいものとなります。「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)は、これらの行動を分かりやすく記載したものですので、参考にさせていただき、これからも環境にやさしい行動を心掛けるようご協力ください。

女性・30歳代

カラスに荒らされたゴミを見るたびに、分別をちゃんとしていないのを良く見かけます。個人個人の意識の基本ですよね。

生ゴミを堆肥化する方法も分からないし、使い道も無いのですが...、かと言って堆肥化する機械を購入する余裕もないし、場所もないし、困ってます。

ごみをきちんと分別して出すことは、市民の責任としてあると思います。ごみステーションの近くの人に迷惑がかからないようにしたいものです。

段ボール箱を利用してたい肥化する方法もあります(市のホームページの「くらし小樽」、「環境部からのお知らせ」の中でも「段ボール式生ごみ堆肥化の手引き」が参考になります。)。できたたい肥を鉢植えなどに利用してはいかがでしょうか。

女性・50歳代

古新聞は資源ゴミではないのでしょうか。資源回収の時、持って行ってくれませんか。

市で資源物として収集しているものは、缶・ビン・ペットボトル・紙パック・蛍光灯・電球で、古新聞は収集品目に入っていないようです。古新聞は、町内会などで行っている集団資源回収や民間の回収業者で集められていますが、今後、市でもごみ減量化対策の一環として、紙類などの収集が検討されるようです。

男性・20歳代

もっと市の環境に対する活動の知名度を上げるように心がけた方が良いと思いますよ。知っていれば、自ずと対策しようとする人が増えるはずですが、どんな活動をしたって、市だけでは限界があります。市民の協力を得ることも重要だと考えます。

私たちの会議は、平成12年度に市民と行政が一緒になって策定した「環境にやさしい小樽市民ルール」を普及することを目的に、市民の有志が集まって組織した会議です。現在の環境問題は、昔の公害のように特定の発生源が原因ではなく、私たちの日常生活が発生源となっており、市民の皆さん一人ひとりの理解と協力がなければ、解決しないものに

なっています。特に環境問題の中でも地球温暖化は、市民・事業者・行政が協力しながら進めなければならないものだと考えています。そのためにも市民一人ひとりの意識が重要とっております。

男性・30歳代

小樽市の環境問題に対する考え、対応、処理などの考え方、行動が市民全体にきちんと伝わっているのか？ 若い世代の人間が興味を示さないのではなく、興味を持たせる努力をしているのか。家庭を持った男性、女性が目で見てすぐ分かる事はゴミの分別くらいなのでは？ もう少しきちんと市として税金の使い方を考えて欲しい。無理にこの時期に道路工事で税金を使うのではなく、無駄に役所の人間増やして経費を掛けず、もっと環境や雇用の問題に対する税金の使い方を考えて欲しい。国としても、最近、強く思う。本当に無駄に選挙が多い。そんなに変えなくてはいけない人材を選ぶから、環境問題にもつながっていると思う。

今回のアンケート調査の結果からも、環境問題に「関心がある」と答えた人は、若い世代に行くにしたがって少なくなっています。また、市と市民との情報共有の手段である「広報おたる」も、若い世代の人には、あまり読まれていないという結果となりました。推進員会議でも、若い世代の人に周知するにはどのような方法があるか議論していますし、市でも、若い人に地球温暖化等の環境問題に対し興味を持ってもらうにはどうしたらよいか、大きな課題として受け止められています。

女性・70歳代

地球温暖化による異変現象は薄気味悪いですね。対策としては手遅れ状態でしょうが、やはり一人ひとりが認識し合って、少しでも努力し合わなければ。

祝津墓参の帰り、旧天望閣へ行く、上の道を通ります。雑木林の中にゴミ放置してあって、腹が立ちます。禁止の表示も大切なのでは？

1997年（平成9年）に地球温暖化防止についての国際会議が京都で開催され、日本は議長国として、2008年から2012年の間に1990年比で温室効果ガスを6%削減することを国際的に約束しました。

平成13年度の温室効果ガスの総排出量は、12年度から2.5%減少していますが、1990年と比べると逆に5.2%増加している状況です。部門別では、家庭から排出されたものが、1990年比で19.4%増えており、これには別部門で集計されている自家用車の増加分は含まれていませんので、これを含めると家庭からの排出量はもっと多くなります。

このような状況になっていますが、地球温暖化対策は手遅れということはありません。温暖化の影響を後の世代に残さないようするには、今できることから始める必要があります。それには市民の皆さんが協力して、環境に配慮した行動を取る必要があります。

ごみの不法投棄は、大きな社会問題となっています。市でも監視パトロールが強化されていますが、後を絶たない状態です。看板で警告しても人気のないところに捨てられますので、効果がないようです。小樽市民としてのモラルが疑われます。

男性・80歳以上

二酸化炭素の排出量は経済に比例する様です。二酸化炭素の排出量を減少させる事は、経済にブレーキをかける事を意味しています。経済成長を優先する現実の世界では、環境問題には本気で取り組めない。どうしてお金より生命が大切である事を認めようとしないのか。ここに環境問題の重要なポイントがある事が伺い知る事が大切だと思います。先進国の経済（消費）は貧しい国の100倍、貧しい人々は50億人、豊かな人達は10億人。私達は貧しい人達の100倍の生活消費をしています。国連の見解では、地球が永続的に養える人口は100億人であるといわれています。先進国の過剰消費により、既に消費総量は1045億人分に達し、現状の消費は既に地球の許容量を10倍もオーバー。即ち地球の自給自足は大幅に破綻している事になります。それでも豊かな国は、もっと景気刺激を、もっと経済成長を、もっと大型減税をと、この先が二酸化炭素に繋がる事が明確です。現在行われている国の選挙でも誰一人として、温暖化に対策を、ごみの減量化に関する声を出した人はおりません。もっと経済成長、ばかりを叫んでいます。国の指導監督に当たる人達は、もっと慎重であって欲しいと思います。経済成長は廃棄につながり、二酸化炭素の増量を知るべきです。

ご意見のように、経済と深い関係があるところがあります。とりわけ地球温暖化問題はエネルギー問題と密接な関係があり、今後、環境と経済を両立させつつ、京都議定書の6%削減を達成させなければなりません。しかし、エネルギー需要は極めて多岐にわたっており、個々の利用者の主体的な対応がない限り、実効のある削減は難しいと思います。

男性・30歳代

出雲のように、缶カンや新聞はガススタンドを利用してはどうか。

岩内や倶知安では、個人でもゴミを捨てに行ける。完成したら、そうして欲しい。(いっつできる!ゴミ炉)

各地方自治体で、いろいろなごみ減量化対策が行われていますので、事例を参考にしながら、効果がありそうなものは市に提言していきます。

ごみの自己搬入を認めることで、処分場周辺の交通量が増加するなどの影響がでるため、処分場の建設を受け入れてくださった地元の皆さんに迷惑がかかることとなります。そのため、今回計画の新焼却場でも導入しないと聞いております。なお、焼却場は、桃内地区に建設が予定されており、平成19年度からの稼働を目指しているとのこと。

女性・80歳以上

子供の頃から社会(家庭と地域)や学校等で環境問題について、教育を徹底すべきであり、これは地球がみんなの大事な生活権のことであり、生命に関係することだと思います。

ご意見のとおり、子供の頃からの教育は大切です。学校教育においては、小中高を通じ、社会科や理科などの各教材や総合的な学習の時間などで環境問題が取り上げられています。しかし環境問題は、教師と子どもだけで解決方法を見つけることにはならないと思います。環境教育が責任ある行動に結びついたものになるには、地域のさまざまな人や組織、団体とのつながりが大事であり、学んだことに感動を与えることが必要と思っています。学校での教育が家庭や地域につながることで、はじめて実効あるものになると思います。

女性・20歳代

大学進学で埼玉に一人で住んでいたのですが、小樽市の状況には、まだ不案内です。一人暮らしの時は、大きな鞆で通学していたので、自動的にマイバッグ派でしたが、実家に帰った現在は、自分のやりたいようにしきれないでいます。(母はゴミ袋に欲しがる) こちらは土地が十分なせいか、意識は低いですね...。埼玉のサミットやサティ(スーパー)では、レジ袋1枚を受け取らないと、2点のポイントがもらえました。通常のポイントに、そのまま2円分が付加されました。スタンプカードを別に持ち歩かなくて良いので(しかもポイントも付く)参加しやすかったと思います。また、スーパーには、牛乳パックとトレーの回収箱が必ずとあって良い程ありました。その点、埼玉の方が、意気込みが感じられた気がします。不燃ゴミも、カゴに(各町内会に配置されている)入れるゴミと、リサイクル可能で透明な袋に入れるプラスチックゴミを別々に集めています。資源ゴミも、ビンのカゴ、缶のカゴ、ペットボトルのカゴがありました。もっとも、皆一生懸命やっていたのは、そのカゴの管理が持ち回りだったから(2週間で隣の家に移る)、周囲の目が厳しいことでもあります...。(滋賀に居た時は、指定のゴミ袋を買って、名前も書かされたことが...。これはやりすぎ? ゴミステーションは網のプレハブみたいなもので、朝8:00~9:00しかカギが開かない。)

書きすぎて参考になりませんで申し訳ない。おわびに朝霧のゴミ分別表をおつけ致します。それにしても、小樽は甘い!と思います。

レジ袋のアンケート調査の結果では、もらう理由として「ゴミ袋に利用」と答えた人がほとんどで、お母さんのレジ袋を欲しがることとアンケート調査は一致しています。また、ポイント制度も知っている方が多いのですが、あまり利用されていないという結果となりました。環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議としては、身近であるレジ袋の削減からごみの減量化を始めてほしいと思います。

ごみの分別については、処理施設等の関係から各自治体で違いがあるように思います。地域の実情の違いが、ゴミステーションやレジ袋に対する市民の意識の差となっているのかもしれませんが。朝霧の分別表は市の担当課にお渡ししました。

男性・20歳代

頭では環境問題のことを考えているが、いざ実行するとなると何をすべきか悩む。また、きっかけがなかったりもする。

今回のアンケートでも、ほとんどの人が環境に関心を持っています。ただ、環境に対する配慮行動を見ると、ルール化されたものや習慣となっている行動は実行している人が多いのですが、意識して行動を起こさなければならない項目は実行率が低い傾向がみられます。環境問題を意識することは大切なことですので、「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)を参考にさせていただき、もう一歩進んで行動を起こすことをお願いします。

女性・60歳代

今年3月末に移転(室蘭から)してきましたので、今一つ、ゴミ、資源物の出し方が等、細かいことの判るパンフレット等をほしいと思います。

日々の生活で、ごみ減量化を含め、出来ることは心がけて行きたいと思っております。

市では、毎年「家庭ごみ・資源物の分け方・出し方」のパンフレットを作成しており、16年度版は町会を通じて各家庭に配布済とのこと。その他の入手方法は、環境部廃棄物対策課(32-4111内線323)におたずねください。

地球温暖化は、身近に感じる事が難しい問題ですので、日々の生活の中で心掛けて行動することが大切です。

女性・50歳代

スーパーでのスチロールパック等の不要なゴミの商品が多すぎるため、自宅でのゴミの減量化も難しいものがあります。衛生等を考えると現代では必要なのかもしれませんが、自宅でリサイクルできるものなど、ゴミの出ない商品開発が今後必要なのではないのでしょうか。例えば、昔の計り売りなど。

食品などに使用されているトレイは必要ないのご意見が多くあります。現状のスーパー等量販店の販売形態からはトレイをなくすことは難しいと思われるので、トレイをゴミとして出すのではなく、スーパー等の回収ボックスに戻すことにより資源化されます。

女性・40歳代

今後、ゴミの有料化等も考えておられると思います。その際は是非、現在のスーパーレジ袋と同様程度の大きさのものも用意していただきたいと思います。(小家族のため)

廃棄物減量等推進審議会において、減量化対策とその方策としての有料化について審議され3月に答申されました。この中で、家庭ごみの有料化はごみ減量化の有効な方策の一つと考えられること、ごみ量に応じたごみ袋の選択ができるように、指定ごみ袋の大きさを5種類程度とすることの考え方が示されています。

女性・50歳代

何年か前に、人間は捨てたゴミで滅びると言う人がいました。人間だけが、この地球上で今まで我がもの顔で好き放題にふるまって生きて来ましたが、皆んなが今、少し我慢して、いろいろな地球に行っている様々な事を真剣に考える時です。

私も小さな事から、出来ることを考え、毎日生きています。あまり難しいことは分かりませんが...、まず考えて、思ったことは行動に移す事ですネ。

それが大きな力になると思います。

ご意見のとおりだと思います。地球温暖化の影響が出てから対策を講じても手遅れになると思います。影響が出ないように一人ひとりが日常生活で工夫して取り組むことが大切であり、その積み重ねが大きな力になっていくと思います。

男性・60歳代

まず、基本的知識を身につけ、実行に移すための手段、方法等を学ぶことによって、

微々たることであっても、日常の中で行うことを心がけることが、一市民である私たちに必要なことであろうと考えます。

ご意見のとおりと思います。地球温暖化を理解し、実践していくことが大事になります。

男性・70歳代

吾々個人が知る方法を公共機関が大いに啓蒙した方が好いと思います。

ゴミ等を収集日に出すと指導されている状態でない事が非常に多い、私は年輩者よりも若い世代が多いと思います。

市からの周知方法は、広報誌や回覧板が主なものとなっています。収集日については、ごみ出しルールの中でも基本的なことだと思います。収集日以外にごみを出しても回収されませんし、ごみステーションの近くの方にも迷惑を掛けると思います。地域の人が、一声掛けて注意してあげることも必要ではないかと思います。

無回答・50歳代

今の世の中、ダイオキシン、その他の問題もあり、しかたありませんが、たき火で芋を焼いた昔が懐かしい気がします。

昔、当たり前に行っていたことができなくなってきています。ダイオキシン類は、意図的に製造される物質ではなく、ものの焼却などで自然に生成されてしまう物質で、環境中の量は非常にわずかですが広く存在しています。平成14年度の小樽市における大気環境の濃度は年平均値0.017 (pg-TEQ/m³) となっており、環境基準0.6 (pg-TEQ/m³) を大きく下回っていますが、私たち一人ひとりが、ダイオキシン類の問題に関心をもって、ものを大切に長く使ったり、使い捨ての製品を使わないよう心掛けをし、ごみを減らすことが重要だと思います。

男性・40歳代

市全体ではなく、各町内会を利用して、各会に指導してはどうか？ 各自、各町内会、そして市全体になるのでは！ このアンケートの様に個人にモニター(デモ)のように、1ヶ月単位で取り組んでもらっては。

地球温暖化の防止対策は、市民の皆さん全員で実行しなければなりません。推進員会議の中でも、町内会単位での取り組みができないかなどの意見が出ています。これからの参考とさせていただきます。

女性・20歳代

ゴミの減量化を進めるなら、もっと節約やポイント等の特典を利用すべき。ポイントや商品になれば、主婦は結構協力してくれるのではないかと？

ある民間の調査によると主婦のほとんどが環境に関心を持っているそうです。しかし、関心があるからといって、環境にやさしい商品を開発・販売しても、購買には結びつかないというものです。購買動機として大きいのは価格にあるそうです。

レジ袋のポイント制度も知っている人は多いのですが、利用に結びつかないのも経済的な特典が少ないことが一つの要素としてあるかもしれません。今回のアンケートでもレジ袋が無料でなくなったらどうしますかと聞いており、ほとんどの人は、マイバッグを持参すると答えています。

企業であれば営業政策の中で、特典を付けることは考えられますが、行政としてごみ減量化を進めるために特典をつけることは難しいとのこと。

男性・20歳代

生ゴミを専門に回収することはできませんか？

生ごみだけを収集することは、現在の収集体制(車の台数や収集費用など)では難しいと聞いております。ごみ減量対策で資源物の品目が拡大すると家庭からのごみは、主に生

ごみとなってきます。生ごみもコンポストを利用すれば堆肥化でき、家庭菜園等で再利用できます。家庭からは、3R（86ページをご参照ください。）の心がけによって、ごみとして出さないことが大切だと思います。

女性・60歳代

スーパーなどの食料品にトレーの使い過ぎが多いです。計り売りなどがあると大分ごみ減量になると思います。

昔のような対面式の小売形態が主であったときは、お肉などを買っても包装にはトレイなどプラスチック製品は使っていませんでした。しかし、今は、スーパーなど量販店が主流になって、包装資材の単価や食品の衛生管理面からトレイが使われるようになっていきます。トレイもリサイクル可能な資源物ですので、ごみに出さないで自主回収しているお店に戻すことが必要だと思います。

男性・30歳代

小樽は四季の風景が楽しめる魅力的な町ですから、市の条例を厳しいものにしても良いのでは。ゴミ処理場を新築し、ダイオキシンの低減。何でも埋めない。ゴミの再利用等、力を入れてほしい。次の世代へ良い環境を残して下さい。

ごみ焼却施設は、平成19年の稼働を目指して計画が進められています。この施設でも燃やすのではなく、資源となるものは分別し、循環させることが大切です。循環型社会を形成するためにも市民の役割は大きいものがあり、3R（86ページをご参照ください。）を常に心掛けて行くことが大切になると思います。

女性・30歳代

自分達ができる事は、ほんの少しの事でもしていきたいと思っています。その為（方法など）の詳しい情報（小冊子などの配布などで）が、もっと手軽に手に入ると嬉しいと思います。

日常生活の中でできることとして「環境にやさしい小樽市民ルール」（87ページをご参照ください。）を是非参考になさってください。また、地球温暖化等に関するパンフレットは、市役所の情報コーナー等にも置かれていますので、ご覧になってみてください。生ごみのたい肥化については、市のホームページの「暮らし小樽」、「環境部からのお知らせ」、「段ボール式生ごみ堆肥化の手引き」が参考になります。

無回答・60歳代

私達の東小樽町会では、月に一度、紙類等資源回収の活動をして、家庭の中のゴミを少しでも減らす為に、それでもゴミの日には新聞紙、本、段ボール、沢山あちこちのゴミステーションに捨てられて、町内の役員が一生懸命頑張っても協力してくれない人が多いので、市民の方に地球温暖化対策に関心を持ってほしいと思います。リサイクルの缶、ビンも月2回の回収でも、燃えないゴミの日を守られていない現状です。特に若い人達に多いようです。

私なりに今日からでも守られていない部分、気をつけようと、特にスーパーでの買い物の時はマイバッグを持参しようと思いました。反省致しました。色々ご苦労様です。

調査の目的とは別に、今回アンケート調査が地球温暖化等の意識啓発につながり、早速行動を起こされたことに、推進員会議としてもうれしく思っています。私たちが行動することで地球温暖化が防止できますので、より一層「環境にやさしい小樽市民ルール」（87ページをご参照ください。）の普及に努めていきたいと思っています。

男性・60歳代

全店でレジ袋を渡さないようすべき、現在はゴミ袋等に利用しているが、かなりの残量がたまっている。

レジ袋を渡すのを即中止することは難しいと思いますので、まず、もらわないことを心

がける必要があると思います。ごみとして発生させないような行動をとることが、循環型社会を形成する上で、一番必要なことと思います。

女性・40歳代

小樽市で行っている資源回収は月2回（第2、第4土曜日）ですが、もう少し回数を増やして頂けたらと思います。私の住んでいる幸町は、燃えないゴミの日の回収は木曜日で、その中に資源回収に出せるアルミ缶、ペットボトルなどが含まれているのが、時折目につくのです。せめて週1回資源回収をして頂けたら、少しはゴミの分別に地域住民の方々の意識も高まるのではないのでしょうか？ 資源といえども2週間も家に置いておくスペースがない為に燃えないゴミの日に出してしまう心情も分からない訳でもありません…。

小樽市の調査によると家庭ごみの中に資源物となるものが40%近くあるそうです。これを如何に資源物として回収するかが大きな課題ではないでしょうか。資源物として収集されたものは天神にあるリサイクルセンターに集められ処理されています。収集回数は、この施設の処理能力から現在、月2回と月1回の地域がありますが、市では新しいリサイクルプラザの建設事業にも着手していますので、その施設が完成すれば収集回数の拡大も検討されると聞いています。

女性・70歳代

一人一人の意識の問題だと思います。アンケートに答える事により、気付く事が多々ありました。例えば、スーパーのレジ袋の事、水使用に関する事、節電の事などです。アンケート調査を行う事により意識改革が高まると思います。

調査目的とは別に、アンケートに答えることで環境意識の向上効果があったことは推進会議としてもうれしいことです。これからも積極的な行動をお願いします。

女性・無回答

資源物になる物等の回収曜日を町内の掲示板等に貼って下さい。回収回数を増やして下さい。秋の落ち葉対策を検討して下さい。レジ袋、レジ係の教育または声掛けが必要。

市では、家庭からのごみや資源物の収集日がわかるものとして、パンフレットを作成し、町内会を通じ各家庭に配布しています。このパンフレットを壁や冷蔵庫に貼って分別方法などの参考にしている家庭が多いようです。

地域の環境美化は、そこにお住まいの皆さんが主体ではないでしょうか。住みよい小樽にするためにも、私たちが地域で協力し合うことも大事なことだと思います。

女性・50歳代

私の地域では資源ゴミ回収が月に1度しかありません。さまざまな物にリサイクルマークが付いていますが、それらをすべて分別し、家に置いておくことなど不可能です。分別の細分化と回収の徹底がなされることを希望します。

昨年の11月に小樽市長から小樽市廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみの減量化施策とその方策としての有料化について」諮問され、家庭ごみの有料化が、減量化意識の向上や資源化の推進につながる有効な方策の一つであるとして今年の3月に答申されました。その中で資源物の収集拡大の考え方が示されています。地球温暖化の防止にはごみの減量化は不可欠ですので、答申を踏まえた市の減量化施策に期待しています。

男性・80歳以上

私は大正初期に生まれた者ですが、いまだティッシュを質素に使っている一人です。使った物をポケットに入れたら笑われましたが、どうしても昔人間で、親、先生からの指導や注意で、ポイ捨てが出来ません。お陰でゴミの日は少量ですみます。製紙会社には申し訳ありませんが、市これが全市的に実行できたら、輸入パルプ、木材を新聞用紙、上質紙に生産、海外輸出、外貨収入となりますが、若い方々が協力して下さいるか、係の人の決断と勇気が必要となりますネ。お心にさわったら、お許し下さいませ。

昔の人といえは語弊があるかと思いますが、確かに物を大切に使用していたと感じます。大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済活動によって、便利な生活を享受しましたが、地球温暖化などいろいろな問題が生じ、資源の枯渇も懸念されています。これからは、循環型社会の形成に向け、私たちが努力しなければならないと思います。

女性・50歳代

ゴミをタダで回収していると思っている人が多い気がする。すべて税金が使われている事をもっと理解した方が良くと思います。

無駄が多すぎる。例えば、紙の回収は新聞紙と牛乳パック位ですが、お菓子の空箱とか、家庭から出る紙類も多いと思うので、シュレッダーの補助などをして、そんなものも回収してはいかがでしょうか。

私は山歩きが好きですが、旭展望台、長橋～塩谷の道路、また一般の道路にゴミをすてる人の気がしれない。もっと小さな時から、幼稚園、小学生、中学生などに教育した方が良くと思います、家で指導は当たり前ですが。

生ゴミをもっと利用されたら良いと思います。まず家族単位、職場、学校、公共施設などから勉強し、実行していけたらと思います。

今回の意見の中に、ごみ有料化に対する意見が多くあります。有料化することによってごみに対する意識が高まるのではないかというものです。推進員会議では地球温暖化防止のための「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)を普及するために活動していますが、ごみの減量化も大きな項目となっています。

ごみの減量化については、廃棄物減量等推進審議会で話し合われ、3月に答申されました。この中で、ごみの減量化を進めるには、市民・事業者・市が、それぞれの立場から3R(86ページをご参照ください。)に努めることが必要との考え方が示されています。

市では、平成15年度から生ごみについては、段ボールコンポストの普及に力を入れています。この方法も参考にされてはいかがでしょうか。(問い合わせ先：環境部廃棄物対策課(32-4111 内線 323))

女性・20歳代

「今はまだ大丈夫」という考えではなく、将来地球を担っていく大切な子供達のためにも、「今、何が出来るか」を考え、「今、できる」事を実行していくことが大切なのではないでしょうか。学校教育の中での環境問題対策の啓発はもちろん、私達大人が実行することが子ども達にもつながって行くのだと思います。そのためにも「例えば」どうすることが有効なのか、実生活に基づいた対策の情報がもっともっと欲しいです。もちろん自分で学ぶことも大切ですが、個人の認識にも差があるので、社会全般を視野にいれた啓発活動が必要だと思えます。

ご意見のとおりと思います。市民の皆さんがこのような意識で行動を起こしていただくよう「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の普及に努めていきたいと思えます。

女性・20歳代

台湾へはたまに行くことがあるが、台湾のコンビニ(日本資本)では殆どがレジ袋有料(台湾ドルで1元)である。小樽市もそうすべきでは。また、常に本州へ出張(半年以上)しているが、マイバッグ(ex. 関東のキノクニヤor 関西のイカリスーパーのような)もおしゃれでミセス層に受けるスタイルのバッグを出してみても？ 一気にレジ袋使用減につながるのでは？

そして、一番気にしていた事ですが、小樽市のゴミが処理場では可燃物も不燃物も一緒に処理されると何人かに聞いたことがあるが、本当なのか？ ゴミを捨てる度に思い出します。そうだとすると大変な事ですが、可能であれば返信下さい。

メールアドレスが書かれていたので、廃棄物対策課より回答しています。

レジ袋については、国によって有料化されているところもあるようですが、日本では、買い物時に無料で渡されるのが定着しています。市内のスーパー等では、レジ袋を減らす対策として、商品券などに変えることができるポイント制などを導入し、マイバッグの持参を促していますが、利用者が少ないということです。レジ袋を減らすためには、市民・事業者・行政が一緒になって取り組んで行くことが必要と考えています。

市では、平成13年度から天神にある焼却場が使えなくなったことから「燃やすごみ」も「燃やさないごみ」と一緒に桃内の埋め立て施設で処理しています。このような処理実態にありますが、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」に分けて収集している理由は、ごみを分別することにより、ごみに対する意識が高まり、ごみの減量や資源化が図られること、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」の計画収集が崩れ、時間内にごみ収集ができない状況となること、さらには、現在のごみ分別を一度解除すると、再度分別する際に市民に混乱が起きることが想定されることなどから、市民の皆さんには継続して分別していただいているとのこと。なお、新焼却場が平成19年度に完成する予定です。

女性・50歳代

生ゴミを肥料にしたいのですが、そのやり方をもっと一般にも広め、必要な材料を小樽市で安く市民に分けることができれば、ゴミの減量に少しは役に立つと思います。

市では、平成15年度から生ごみの減量対策として、段ボールコンポストの普及に力を入れていました。平成15年度はモニターとして100個募集しましたが、応募者が多く200個になったそうです。平成16年度も引き続き段ボールコンポストの普及を進めるため、基材（ピートモスともみ殻を混ぜたもの・微生物のすみか）を無料で配布する予定と聞いています。このような機会を利用して始めるのもよいと思います。コンポストについては、環境部廃棄物対策課（32-4111 内線 323）にお問い合わせください。

女性・60歳代

タバコ、空カン等のポイ捨てを良く見ます。空カンはつぶして小さくして投げるようにしています。

流しには、煮物の汁や味の付いた物は牛乳パックに入れてなげるようにしています。

ポイ捨ては、個人のモラル・マナーによるところが大きいと思います。「ごみは捨てないで持ち帰る」ことが基本にあると思います。行楽地に行くときは、ごみ袋や携帯灰皿を持参し、歩きタバコ、灰皿のないところでの喫煙はしないなど、最低限のルールを守ることが大切だと思います。

なお、リサイクルできる空きかんは、資源収集日に「つぶさない」で出すことになっています。

女性・60歳代

夫が町内会の役員（衛生部長）をしているので、年に何回か、市の講習会に行き、知識を得て、知らせてくれる。段ボールによる有機肥料化について町内会の会合で説明して貰ったが、台所が小さくて設置する場所がなくて、行っていないが、庭にはポット式で肥料を作って、畝に使用している。

ご意見のように少しの工夫で出来ることは沢山あります。私たちが進めている地球温暖化防止も同じことがいえます。できないとあきらめるのではなく楽しみながら続けることが大切です。

女性・60歳代

流しから出る生ゴミ等は畑に埋める。トレーはスーパー長崎屋に返品する。

皆さんの小さな取り組みが、積み重なり地球規模の環境改善に結びついていきます。これからも、地球にやさしい行動にご協力ください。

男性・50歳代

テレビ、新聞等で、地球温暖化、ごみ減量化など耳にしていますが、まだ身近に問題として感じる事が薄いような気がします（私本人）。これからは、自分も協力的に取り組んでいきたいと思っています。

地球温暖化という言葉は、テレビなどでよく流れるようになり、アンケートでも「知っている」と答えた人が多くいますが、それを改善するための行動が伴わないという結果に

なっています。地球温暖化対策の一番大きな問題は、その影響を身近に感じる事が出来ないということです。このアンケートが意識啓発のきっかけになって、取り組みたいという意見をいただくと調査をした甲斐があったとよるこんでいます。

無回答・50歳代

商品を提供するお店などで、包装パックなど不必要な（過剰）製品が多いように思われます。

最近、簡易包装の推進が言われておりますが、実際には過剰包装の商品が沢山あると思います。市では、簡易包装などごみの減量化と再資源化に積極的に取り組んでいる店舗を「環境にやさしい店」（エコショップ）として認定しています。このような店を積極的に利用することも環境配慮の一つの方法かと思いますが、日常から不要な包装は断る・過剰包装品は買わない心がけも大切なことだと思います。

女性・50歳代

ごみの出ない商品を希望します。

現在の流通形態の中でごみとならない商品を出すことはまだ難しいと思いますので、消費者として「ごみとして発生しない・再使用ができる・再生して使用できる」商品を選択することが大切だと思います。このような商品を選ぶこと自体大変難しいと思いますが、少しでも心掛けていくことが必要だと思います。

男性・60歳代

私は生ゴミは小さくても花畑等の土に戻すようにする。また紙、段ボール等は廃品回収に出すようにします。皆さん方も出来る事をすると少しでも量が減ると思う。

ご意見のとおりだと思います。何もやらないのではなく、今できることをすることが大切です。そして、意識することも必要です。

男性・60歳代

知識としては分かったつもりでしたが、積極的には行動していないし、自分の身近な問題として、もう少し積極的にかかわっていかねばと思う。

地球温暖化の原因は判明していますが、影響が身近なものとして感じられないところに大きな問題があります。それが温室効果ガスの削減行動になかなかつながらない原因です。地球温暖化問題は、影響が出てからでは遅すぎますので、今、便利な生活を享受している私たちがライフスタイルを見直し、環境配慮行動に取り組むことが必要です。

男性・60歳代

学校で授業として教え、実際に小学校の時から、ゴミ拾いや掃除当番を決めて（昔やっていた）やらせた方が良い習慣となり、環境問題はそれしかないと思う。

学校では、授業の中で環境問題を知識として学んでいます。それが実生活の中で子どもの五感として育って行かないところに難しさがあると思います。学校だけでなく、地域や家庭が一緒になって取り組まなければならない課題だと思います。

男性・50歳代

ゴミの有料化を早く行い、減量化を計ってほしい。有料にすると今まで無料で出していた市民も考えると思う。

Q7～Q12、私の勉強不足なのか、PR不足なのか、分かりませんでした。

ごみの有料化は、ごみ減量に対する意識を持たせる有効な方法と言われております。道内の自治体でも有料化しているところがあり、ごみの減量につながっていると聞いています。小樽市でも、有料化について審議会に諮問し、今年3月に答申されました。答申では、

家庭ごみの有料化は、ごみに対する市民一人ひとりの意識が高まり、自主的にごみの減量に取り組む契機となるほか、資源化の促進も期待できることからごみ減量化の有効な方策のひとつであるとの考えが示されました。市ではこれを受けてごみ減量施策を検討していくとのことです。

男性・50歳代

一家屋（マイホーム）を持つことは良いのだが、昔の人は自分の家を誇りに思って頑張ったが、今の人とは違う。うさぎ小屋と一緒に感じる。一軒家を持つという意味を知らないで生活している人が多すぎる。一軒家の主人としてのマナーが非常に悪い。

今でもマイホームを持つということは夢の一つとなっていると思います。その夢の実現に向け、懸命に働いているのではないのでしょうか。しかし、以前と違うのは、隣近所との付き合いが希薄になっていることだと思います。逆に言えば、隣近所が親身になってアドバイスしなくなったことも一つの要因なのかもしれません。

女性・80歳以上

娘夫婦と孫と私と4人で生活していますが、若い人にはあまり関心がなく、台所、洗濯など常にやっていますので、ゴミの分別処理には気をつけてやっております。資源ゴミは、缶、ビン、牛乳パック等々ですが、ハップウスチロールの容器など、まだ再利用できるものもあるんじゃないかと思っています。

市で収集している資源物のご意見のとおりです。トレイは、現在、市で収集していませんが、一部のスーパーなどの量販店は、トレイメーカーなどと協力して、店頭で自主回収する方式を取り入れています。

女性・40歳代

高齢者の多い小樽市で個人的には分別に心がけていますが、それが出来ない方が多くみかけられます。老人世帯には根気よく指導して下さい。

資源回収日が月1回しかないの、つい燃えないゴミの日に出してしまいます。せめて2回位に出来ませんか？

ごみの減量化を進めるには、常に市民の減量に対する意識の向上に努めることが必要だと思います。

資源物の回収回数については、現在月1回の地域と2回の地域に分かれています。市では、将来的にごみの減量対策として回収回数と品目の増加が検討されているようです。

女性・50歳代

資源物収集の時に、食品トレイも出せるようにしてほしい。

市では、ごみの減量化対策について廃棄物減量等推進審議会に諮問し、今年3月に答申されました。この中で白色トレイなどのプラスチック容器を資源物として拡大することや回収回数を増やすことなどの考えが示されています。市では、この答申を踏まえてごみの減量化対策を検討するそうです。しかし、現在は、トレイを資源物として収集していませんので、スーパーなどの量販店で回収している回収ボックスに入れるようお願いいたします。

女性・70歳代

地球温暖化、ごみの減量化などの取り組みがペーパー上の活字、単なる謳い文句にならない様にシビアに取り組んでほしい。

ゴミ収集の態度、様子など、一考を望む。納税者としての意見です。

地球温暖化もごみ減量も、私たちがどう取り組むかにあり、常に意識を持って行動することが大事だと思います。私たちも地球温暖化の防止のために、行政と一体になって「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の普及を推進しますので、ご協力ください。

男性・50歳代

環境問題が、どうしても身近に感じられない。経済発展時期の「消費は美德なり」の考えから抜けきっていない。「物の豊かさより、心の豊かさ」を大事とする「清貧の思想」が今こそ必要なのではないか。

小樽に住んでいると環境問題、特に地球温暖化の影響は身近に感じるできません。また、高度経済成長期に消費が美德とされていたことを、急に循環型の社会システムに変えなければならないと言われても、簡単に生活様式を変えることは難しいと思います。しかし、将来的に影響がでることを、このまま放置しておいてよいことにはならないと思います。常に環境に対する意識をもちながら、今できることから取り組むことが必要ではないでしょうか。

女性・60歳代

今、燃えないゴミとなっているプラスチック製の物を早く資源物として収集してほしいと思います。燃えないゴミになる物があまりにも多いので気になります。

燃やさないごみとして、カップめん・弁当、トレイなどプラスチック容器類が非常に多く排出されます。ごみの減量対策からは、これらを再資源化すべきと考えます。ただ、考えなければならないのは、再資源化するための処理経費が非常に高くなることだと思います。ちなみに札幌市の場合、資源化（収集-選別-資源化）する費用はごみ焼却等の費用の2.7倍になっています。小樽市の場合、今プラスチック類は収集していませんが、廃棄物減量等推進審議会において、これらプラスチック容器なども資源物として収集することが話し合われ、今年3月にでた答申に反映されています。ごみとなるものを資源物として収集することは良いことではありますが、単に大量廃棄を大量リサイクルにするのではなく、資源物となるものも減量しなければと思います。全体量を考えたごみの発生抑制を意識することは大切だと思います。

女性・20歳代

ごみの減量化に関して、市場などで商品を買う場合、トレーなどは殆どないですが、スーパーなどでは、肉、魚の殆どの物がトレーなどに入れられて売っているので、家庭での不燃ゴミの量が多くなってしまいます。リサイクルできるものに関して、以前はアパートに住んでいたのですが、収集回数が少なく、よく置き場に困っていました。（地区によっても回数が違うようですし...）

また、今後、有料化の話がありますが、我が家では小さな子供がいる為、オムツなどで、どうしても量が多くなってしまいます。できるだけ負担が大きくならないように、ご検討願います。

トレイに関する意見が多くきています。トレイの増加については、スーパー等の都合を私たち消費者が受け入れたことにもあると思います。現在は、多くのスーパー等が店頭でトレイの自主回収をしていますので、トレイは買って来たスーパーに戻すといいと思います。

ごみの有料化については、今年3月に廃棄物減量等推進審議会から市長に答申されました。答申では、有料化の内容は、「燃やすごみ」と「燃やさないごみ」は有料としており、指定のごみ袋を買うこととなります。指定ごみ袋の単価は、道内他都市の金額も考慮し、減量化に効果があつて、市民の大きな負担とならないようにすることとなっています。市では、この答申を踏まえて、金額等を決めていくこととなります。なお、「資源物」と「ボランティア清掃ごみ」は無料としておりますので、家庭においては、ごみの分別を徹底し、ごみ量を削減することが大切になってきます。

女性・40歳代

来年度、新しいゴミ焼却場を作る予定だと聞いていますが、あまり情報がなく、大変不安です。ゴミの減量や資源回収などの日数を増やすなどの対策や広報活動が必要と考えます。市民の一人としてゴミ減量にはきちんと取り組むべきだと思いますし、もっと呼びかけて欲しいと思っています。

新焼却施設については、平成19年度の完成を目指して事業が進められています。場所は桃内にある埋め立て処分場の敷地内です。処理方式は、ストーカー式焼却炉+電気式灰溶融炉で、1日の能力は197トン(98.5トン/炉×2炉)だそうです。また、リサイクルプラザも建設され、施設の完成に合わせて資源物の収集品目の拡大や収集回数の増加などが検討されているようです。市のホームページの「くらし小樽」、「環境部からのお知らせ」にもいろいろな記事が掲載されておりますので一度ご覧になってはいかがでしょうか。

男性・30歳代

近所でゴミ等を外で燃やすことがあるので、何とかして欲しい。すごい時は、火事かと思うほど煙が出ていてビックリします。

野外焼却については、どんど焼きやキャンプファイアなどの慣習化しているものまでは法律で規制されていませんが、ゴミを屋外で燃やすことは禁止されています。それらの行為を行っている人がいましたら、環境部管理課指導係(32-4111内線322)へ連絡すると適切な指導が行われます。

女性・40歳代

私の娘が、札幌でゴミ等に関するボランティア団体に入って、学生ながら活動していますので、ゴミ問題には関心があります。リサイクルできる物はリサイクルし、リユースできる物は交換会等の利用で使える物は使う事を心がけたいと思います。

ゴミ問題に関心を持つことは大切なことだと思います。関心を持つことによって、自分で出来ることは何かと考え、次に行動を起こすことが出来ます。ゴミの減量は、発生抑制、再使用、再利用の3R(86ページをご参照ください。)が基本となります。このことを常に意識し、実行することが地球にやさしい環境づくりにもつながっていきます。

女性・50歳代

使用後排水を海や河川に流すと持続する抗酸化力により環境浄化する万能粉石けんに変えて数年経っています。身近に出来る事からと思っております。

環境を考えて行動することは非常に大事なことです。小樽では下水道が整備されてきていますが、下水道に接続していない家庭も地域によってはかなりあります。これらの家庭から出る排水は、側溝-河川-海と流れていきます。環境に負荷をかけない家庭で取り組める行動を心がけることが大切に思います。

無回答・60歳代

大きな環境問題も大切だが、小樽市民として、もっと身近な街を清掃する事とか、少なくとも自分の家の前をキレイにする、川に物を捨てない、冬は歩道の除雪を町内会を中心に皆で除雪作業をするなど、観光都市を掲げるのであれば、小樽市として、又市議会議員の努力が得られない。このアンケートも通りいっぺんのものである。本来の運動をしなければダメ。

地球環境問題は、影響が地球規模で起こることが予想されていますが、その原因が私たちの日常生活に大きく関わっています。街をきれいにすることも地球にやさしい行動をとることも、取り組むのは私たちであり、根本は私たちの意識がどうあるかだと思います。他人任せにすることが環境改善を遅らせることになるのではないのでしょうか。

女性・60歳代

町内会、環境整備と称し、月一度、町内の雑草刈り。とっても良い事と思いきや、未使用の他人の土地、そこは正に雑草がうっそうと生い茂る場所。同じ町内、その場に平気でゴミを捨てられる、なぜ? 個々人が真の意味での環境整備を考えられるのなら、ゴミ(タイヤ等)を平気でその場に捨てられないはずなのに、ほんの小さな心がけ、他を真に思いやる心が地球温暖化対策にもつなげられる事なのではと考えさせられます。

ご意見のとおりだと思います。「私だけ、ちょっとだけだからいい」と思って行動する人が、50人・100人・・・と多くなれば環境に大きなダメージを与えることになります。逆に、私たちの環境に配慮した小さな行動が集まれば、それが大きな力になっていきます。地球温暖化の防止は、家庭における小さな行動が重要で、その基本には、この自分のことばかりではなく、他人を真に思いやるのが大切だと思います。日本人は、財産に関する権利意識が強い割りに、その管理を放棄している場合があるように思われます。

男性・60歳代

友達の会話の中で、環境配慮行動の積極的なことに、私も刺激され、身近な事から常に心がけております。コンセントを抜く、使わない電気はこまめに消す、風呂水は洗濯時に使う、買い物はマイバッグを使用するなど、思ったよりスムーズに行動しております。

家庭で取り組める環境配慮行動には、いろいろなものがあります。例えば、電気製品は使っていないときでも電気を消費（待機時消費電力）しています。家庭の中で消費する電力のうち約9.4%（電気料金では約9800円/世帯/年）が待機時消費電力だといわれています。冷蔵庫やFAX、電話機などを除けば、たいていの機器は電源を切っても支障がないはずで、使っていない機器はこまめに主電源を切り、コンセントからプラグを抜くなどの習慣をつけることが大事です。ご意見のように、習慣になれば思ったよりスムーズに行動できると思います。

女性・60歳代

生ごみは、肥料に使用する。

市では、平成15年度から、どなたでも簡単にできる「段ボールによる生ごみ堆肥化」を進めています。ごみの減量を生ごみから始めて見てはいかがでしょうか。コンポストについては環境部廃棄物対策課（32-4111 内線 323）までお問い合わせください。

女性・70歳代

地球温暖化問題は常に気にしています。ほんの少しの気の使い方ですが、皆が心がければ大きな力になると思います。ゴミの出し方一つ見ても、まだまだ使える物があつたり、まとめた方が悪く、自分の家の玄関前に出すのなら、こんな出し方はしないだろうと思います。又、ゴミも少し少なくなるのではと、いつも思って居ります。

家庭から出る二酸化炭素の量は、全体の約1/4を占め、私たちの日常生活と大きく関わっています。地球温暖化を理解し、意識することで、家庭からどのような取り組みを行うことが必要なのかわってきます。ごみに関しても同じことが言えると思います。

女性・30歳代

資源ゴミ（ペットボトル、空きかん、空きびん等）が、ちゃんと収集日に出されないのは残念です。月1回の収集だから、ためて出すのが面倒なのでしょうか。

もし、もう実行されてたらスミマセン。生ゴミ処理機の助成金など遣ってくれたら嬉しいです。お店で売っていて興味はあるのですが、他県他市町などで助成金があるので、小樽市民として購入するのをためらってしまいます。

空きかんのリサイクル率は、平成13年度（リサイクル協会調）でスチール缶85.2%、アルミ缶82.8%になっています。小樽では、市の資源物収集や町会などの集団資源回収を通じてリサイクルが着実に進められています。しかし、まだごみとして出されるケースも目にします。温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量から見ると、空きかんをリサイクルするとスチール缶で10グラム、アルミ缶で50グラム減らせるそうです。空きかんは、ごみではなく、貴重な資源ですので、市民の責務としてきちんと分別すべきものです。

男性・50歳代

机、イスなど、家具類、食品等のリサイクル、市の回数を増やして下さい。

市で収集している資源物は、缶・ビン・ペットボトル・紙パック・蛍光灯・電球です。机や椅子などは、市で収集しない粗大ごみになりますので、市内の収集運搬業許可業者に相談なさるとよいと思います。

男性・30歳代
皆様と協力したいし（自分のために）、日常気をつけてやっていきます。

地球温暖化防止の環境配慮行動を実行することによって、家計費の節約につながるものが多くありますので、家族の協力を得て、楽しみながら実行することが長続きさせるコツだと思います。「環境にやさしい小樽市民ルール」（87ページをご参照ください。）も是非参考にしてください。

女性・60歳代
もっと色々な物を資源ゴミとして回収してもらえたらと思います。たとえば、トレー等もスーパーだけで回収するのは勤め帰りに買い物をする人は持って行くのに困るし、それにこの地区では近くにスーパーが無く、私のような年寄りにはバスに乗って持って行くのはちょっと困ります。それから、段ボールも以前は古新聞の回収に来た時に一緒に出していましたが、最近はあまりいい顔をしません。古新聞を出してくれたら少しは持って行くよ、などと言われると、こちらもしにくいです。

今は、市のリサイクルセンターの処理能力の制限から、缶・ビン・ペットボトル・紙パック・蛍光灯・電球を資源物として収集していますが、新聞紙や雑誌、段ボールなどは町内会などが実施する集団資源回収により収集されています。トレイも市では収集していませんので、スーパー等で自主回収しているところを利用するしかありません。市では、平成19年度の新焼却処理施設の完成にあわせて、リサイクルプラザも建設することになっており、従来の資源物のほかに、白色トレイ、プラスチック製容器包装、新聞紙、段ボールのリサイクルも検討されているとのこと。ごみとして出さないよう皆で協力し合うことが必要だと思います。

女性・50歳代
ゴミの減量化で、小樽市の段ボール堆肥づくりのモニターをやりました。こういうのを何回か行い、もっと市民に広めるべきだと思います。少しでもゴミ減量になると思います。

市では、平成15年度に段ボールコンポストのモニターを実施し、アンケート調査を行いました。段ボールコンポストは家庭で簡単に取組めること、モニターの評判がよかったこと、ごみ減量に対する効果もあることから、市では平成16年度も引き続きダンボールコンポストの普及事業を実施する予定だそうです。

女性・50歳代
地球温暖化は、一人一人が考えて、実行して行かなければいけない問題ですね。忙しさに負けて、いいかなと思うことでも、今一度、家族で協力して頑張りたいと思います。

地球温暖化の問題は、「自分たちが直接被害を受けるわけではない」という構造があるため、なかなか実行されない面があることです。自分に関係ないから「ちょっとぐらいいいじゃない」「自分くらいいいじゃない」となりがちです。でも、皆さんがそう思って対策をとらないとどうなるのでしょうか。実は「自分一人、ちょっとぐらい」と思っても、地球にとっては大変なことになる可能性があります。家族の協力があればより効果があがります。

女性・50歳代
スーパー、デパートの食品売場のパック入りが多すぎる。（中身が1に対してパックが3～4出ます？）

大量生産・大量消費の弊害が、今、現れてきていると言われていています。過剰な包装も、その一つではないかと思えます。しかし、その販売形態を受け入れた消費者にも、その責任の一端はあると思えます。ごみの減量を考えると、廃棄物になるものの発生を抑制することが第一にしなければならないことです。消費者として、過剰包装は断る、また極力買わないことも選択肢の一つとしてあると思えます。

男性・60歳代

いま人類が自らの手で引き起こした環境破壊の危機的状況は、その対策が遅々として進まず、猛烈な勢いで進行中である。今更、ランプ、ローソクの時代に逆戻りは不可能、ならば一市民として「地球にやさしい」数多くの環境問題を短期的、中長期的に精査し、まず出来るもの（短期的）から試案を提示し、それに習い市民が行っている実践事例を大いにPRすべきである。因みに、小樽市のゴミ問題は最低である。集塵所、集塵箱ばらばら、冬期間未回収など、有料化にしても良いから、まずは早急な対策を乞う。

国では地球温暖化防止に向け京都議定書の目標を達成するため、新温暖化対策推進大綱を定め、その中に国民の日常生活の在り方を例示し実行を呼びかけています。「風呂の残り湯を洗濯に使う」「歯磨き中、水を止める」「家族が同じ部屋で団らんして暖房や照明を削減する」「テレビを見る時間を1日1時間減らす」などが挙げられています。地球温暖化は私たちの日常生活の取り組みが重要であり、大量生産・大量消費・大量廃棄の生活様式を見直しながら一人ひとりが努力しなければ、京都議定書の目標を達成することは難しいのではないかと思います。

推進員会議は、地球温暖化の取り組みを簡単に分かりやすく示した「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)を一人でも多くの方に知らせていけたらと思っています。

有料化については、ごみの減量対策の有効な手段として効果があることから、廃棄物減量等推進審議会で話し合われ、今年の3月に答申されました。この中で冬期間未回収地域の解消などについても、有料化における市民サービス向上の項目に挙がっています。

女性・50歳代

今迄の結果も時間が経たないと解ってこない。その事に、とても不安を感じます。これからの若者が安心して生きていける社会環境を整えてゆかなければいけないと思っています。

小樽では、地球温暖化のはっきりとした影響は見られませんし、身近に感じることもありません。しかし、地球規模で見ると、氷河の後退や珊瑚の白色化現象などが温暖化の影響と言われ、また世界保健機構でも気候変動によって既に15万人の死者が出ていると発表しています。さらに、2030年までに死者数は倍増するということです。温暖化をこのまま放置すれば、2100年には気温が約6度上がり、海面が1メートル上昇するという予測は、関係のない遠い先の話のようですが、今、便利な生活をしている我々が原因で将来世代、つまり、子どもや孫の世代へ悪影響を及ぼす可能性が強くあります。

男性・60歳代

近年、我々の生活は、その快適さ、利便性を求めるライフスタイルの変化（贅沢性）により、エネルギー需要は増える一方であります。（先進国と云われる国全体）この事が二酸化炭素の排出を増大し、地球温暖化を促進し、環境破壊を起こしております。対策としては無公害エネルギーの開発発展（太陽光、風力等）、更には各人の省エネに対する意識向上を図る必要があります。今後の問題として、小学校からの教育に地球環境をエネルギー消費との関連等取り入れて欲しいと思えます。

温室効果ガスの排出、とりわけ二酸化炭素の排出はエネルギー需要に大きく左右され、産業活動に直接結びついています。このため、産業界では省エネやエネルギー転換を積極的に進める対策が行われています。一方、私たちも日常生活の中でも多くのエネルギーを消費していますので、一人ひとりが温暖化防止のための行動をとる必要があると思えます。これには消費が美德といわれたライフスタイルを変えることが必要で、できるだけ不要なものを買わない、大事にものを使う、再利用や再使用を心がけることなどは大変重要だと思えます。

地球規模の問題を解決するには、地域や家庭などあらゆる主体が自主的に活動することや次世代を担う子ども達への環境教育が今後ますます重要な役割を担うものと思います。

女性・20歳代

レジ袋の制度について... 環境が悪くなってしまうのは嫌なことです。なので、マイバッグについては、この封書で知りました。まだ知られていない方が多いと思います。CMなどで説明できないものでしょうか...? そうする事により、危機感というものに気付くのでは? と思いました。私も今後レジ袋をもらわないように心がけたいものです。ありがとうございました。

今回のアンケートがマイバックの使用のきっかけとなり、環境に対する意識向上に結びついたことを大変うれしく思っています。推進員会議としても「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の普及活動を積極的に進めたいと思いますのでご協力ください。

女性・40歳代

生活していく中で、一番ゴミとして出るのは、食物を包装するものが多いと思っています。流通の中で、スーパーなどのラップ、トレー又ビニル袋など、包装はどうしても過剰となってしまいます。

昔の市場方式でいけば、「シンブンシ」で包んで終わりです。市場の買い物後は本当にゴミは少ないです。こういった流通上の工夫は出来ませんか?

生ゴミ用の堆肥作りのための、市で何か市民に対する援助はありますか? あったら教えてほしいです。ITではなく、TVやラジオでのアピールを。

きれいなゴミステーションを作るのではなく、ゴミを減らすための工夫など、難しくなく、誰でも分かる様な、そんな広報も必要では?

ゴミステーションのネットやゴミ箱などは、現在は町内での設置となっているみたいですが、ぜひ市からの助成を!

市場のような対面販売、バラ売りや量り売りにするのは、スーパーなどの量販店での小売形態では人件費や衛生管理の面から難しいと思われれます。ものを買う主体は私たち消費者にありますので、過剰な包装がごみとなることを意識して買い物をする必要があるのではないかと思います。

市では、生ごみの堆肥化については、段ボールコンポストの普及を進めていますので問い合わせしてみてください。(環境部廃棄物対策課 32-4111 内線 323)

行政情報の市民への伝達手段については、毎月1日発行の小樽市広報が中心になりますが、そのほかにSTVのおたるフラッシュニュース(土曜日午前9:25~)、FMおたるの小樽市民ニュース(毎週月・金9:35~)を利用しているそうです。

ご意見のとおり、ごみステーションの管理は利用者の責任で、収集の調整が必要な移設などの相談は町内会を通して行われているそうです。ごみネット等の助成については、今のところありませんが、今年3月の廃棄物減量等推進審議会の答申のなかにごみ有料化に伴う市民サービス向上の具体的な例としてカラス対策用ネットの助成が挙げられており、今後、市でその他のサービスも含めて検討すると聞いています。

女性・70歳代

小学校、中学校などでも、取り上げて欲しいと思います。

女性・30歳代

私のような主婦などは、環境問題にも生活する上で深く関わってくる事なので、ある程度関心もあり、気をつけている事もありますが、男性の環境問題に対する意識が低いように思います。外出先でもゴミやタバコのポイ捨てをしている男性を時々見かけます。家庭や学校での子供のうちからの躾も必要だと思いますが、罰金制度などの導入がなければ減らないのかも知れません。あと、最近では、迷惑なDM、ゴミが増えるだけです。DMを出す業者にも何らかの責任が生じる法律は出来ないのでしょうか?

今回のアンケート調査から見れば、環境問題の関心度は男女差がほとんどない結果となっています。ご意見のような、タバコのポイ捨てやくわえタバコの行為は男性の人に多く見受けられるかもしれません。罰則については、今年の4月から「北海道空き缶等の散乱

の防止に関する条例」が施行され、これに違反した者に2万円以下の過料に処すという条項規定が設けられました。罰則規定が設けられたからといって、すべて取り締まることは難しいでしょうし、ポイ捨てが全くなくなるものではありません。解決するには、一人ひとりのモラルやマナーの向上が求められ、市民の環境保全の意識を高めることが第一に必要なことだと思えます。

男性・60歳代

ごみの収集は有料でやるのが、減量化につながると思います。いずれの場合でも、不心得者がいると地域全体が迷惑を受けてしまいます。お互いの協力で、清潔で、きれいな街にしたいものです。

市では、ごみの減量化について、廃棄物減量等推進審議会に諮問しましたが、審議会から今年3月に答申が出され、家庭ごみの有料化がごみ減量の有効な方策のひとつとの考え方が示されました。いつもきれいな街にするには環境に対する意識の向上が大切だと思いますので、有料化が実施された場合、これが一つの契機となって市民の環境保全意識の向上につながることを期待しています。

男性・70歳代

ゴミについて、有料化にすべきだと思います。始めは少額有料として、ゴミ減量を計るべきだと思います。

市で行った調査によると家庭ごみの中に相当量の資源物が含まれているそうです。ごみとなっているものを資源物として収集し、ごみ量を減らす必要があります。有料化により、減量に取り組む人と取り組まない人の不公平感もなくなると思います。循環型社会の形成と言われている現在、ごみの減量は地球温暖化の防止にもつながり、今までの生活様式を見直すきっかけにもなると思います。

女性・50歳代

この間、生ゴミ処理の方法について、新聞等でモニターを募っていましたが、各家庭で有料でもいいので出来る様に、方法やそれに関する説明を各町内会単位で行ってくれるとよりやりやすく、自分でも実際に実行してみようかという気持ちになると思うので、その所をどうしたら皆がやりやすい様に取り組む事が出来るか、今一度検討して欲しいと思います。

市では、生ごみの減量対策として、平成15年度に段ボールコンポストのモニターを募集し、調査が行われました。その結果、効果が認められ、平成16年度も引き続きダンボールコンポストの普及を進めるため、基材(ピートモスともみ殻を混ぜたもの・微生物のすみか)を無料で配布する予定と聞いています。段ボールによる生ごみ堆肥化は、手引き書にそって手軽にできるそうです。手引き書は小樽市ホームページや市役所の情報コーナーに置いてありますので、是非挑戦してください。

女性・30歳代

企業がまず根本的に過剰包装をしないようにする事だと思います。スーパーでもレジの人が過剰に袋を渡すのを見かけますが、私達自身も不必要なものは断るべきだと思います。物を消費する事が豊かな事と思いがちですが、物を大事に使い、再利用する工夫をする事が大事だと思います。

ごみそのものを減らすため、リサイクルは企業の責任とされ、費用も企業が負担している国があります。このような制度によって、企業は容器包装を極力減らすことに努力することになります。しかし、日本では、拡大生産者責任という考え方が出てきていますが、このようなリサイクルのシステムにはなっていません。

ごみを減らすには個人の行動が重要であり、ご意見のとおり、不必要なものは断ること、物を大切に使うこと、再利用することが大事になってきます。

女性・40歳代

市のゴミ収集に出す時、どこの家庭から出されたゴミなのか明確になるとゴミ出しのルールが徹底されると思う。(たとえば、ゴミ袋に住所、氏名が分かるシール等を貼る)

販売先においては、トレー、パック等の使用を極力少なくする。

資源ゴミの回収日をもっと増やして欲しい。

行政で取り組んでいる環境問題についての情報が少ないので、情報を受ける方法をもっと分かりやすく市民に広げてほしい。

ごみの排出者を明確にする方法は、自分のごみに責任を持ってもらうことからいえば、一つの方法になるかもしれませんが、しかし、プライバシーの問題など、市民全体の合意が必要だと思います。資源物の回収回数を増やして欲しいという意見が多くありましたが、現在のリサイクルセンターの処理能力からは現状の回収回数が限度だそうです。19年度に新しいリサイクルプラザが完成すると回収回数や品目の拡大が可能になるそうです。環境問題の中でも地球温暖化が大きく注目されてきています。市でも小樽市広報や出前講座などによって地球温暖化の情報を市民に伝えていますが、行政だけでは限界がありますので、市民ルール推進員会議としても、どのような情報提供ができるかなど検討したいと思っています。

女性・70歳代

古い持ち物が多く、整理出来ずに悩んでおります。どうもありがとうございました。地球温暖化対策、ごみの減量化の意見にもならず、ごめんなさい。

無回答・60歳代

生鮮、加工食品、商品、工業製品包装資材の簡易化、材料制限

発砲スチロール、塩化ビニール等の包装資材(将来必ず廃棄物化し、公害の源となる-A)の製造を段階的に制限するとともに無公害資材(廃棄物化しても、無害-B)の製品化を拡大し、奨励し、義務化する。Aの製造、販売、使用者には従量税的な環境税を賦課、その税収は環境施策に充当するとともにBの製造、販売、使用者に奨励金として交付する。もってA、Bの割合を、A>BからA<Bへと転換を図る。

特に食品用トレイは100パーセント無公害トレイ(植物性)化する。

生ゴミのたい肥化

生ゴミは焼却、埋め立てするのではなく、たい肥化を図る。そのため製造工場を新設し、製品は販売するか、市民には家庭菜園、園芸用に無償提供する。工場は廃校舎を利用し、中高年齢者の雇用の場とする。軌道に乗れば、たい肥は捌き切れないことになりかねないので、発展途上国への援助品として国に買い上げをしてもらう方策を講ずる。

この事業がたとえ単独事業として赤字であっても、生ゴミ処理費、焼却炉の消耗などが軽減される効果が赤字より大であるならば、全国に先駆けて実施すべきである。

国では、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から循環型の社会を目指し、法律等の整備を進めています。今回のご意見のような材料制限や環境税は、循環型社会形成に向けて国民や産業界の合意を必要とするものと思います。

堆肥化工場については、ごみの分別が進みプラスチック類も資源物として収集されれば家庭から排出される主なごみは生ごみとなります。生ごみも資源物となりますので、リサイクルをどう進めるかなど、将来的な課題だと思います。生ごみの堆肥化では、富良野市が先進的な事例として紹介されていますが、成功した一番大きな要因は、堆肥化された後のリサイクルルートが確立されていることにあると思います。堆肥化されても需給先がなければごみに逆戻りになってしまいます。小樽市とは、都市規模や周辺地域の産業などの違いがありますが、今後の生ごみ処理の参考となるとと思います。

市では現在、新焼却場とリサイクル施設の建設事業に着手しており、生ごみについては、家庭で取り組める段ボールコンポストの普及に努めていきたいということです。

男性・50歳代

地球温暖化を直接ゴミ減量化へ結びつけてアンケートを実施しているが、この問題はそんなものではない。もっと奥が深いと思う。カラスの問題、道路がこんなに汚い町ははじめてだ！ ゴミもあまりに小さく分別して不愉快だ！ ゴミ処理業者の思いのままの町ではないか？ 市民の税金をゴミ処理工場へかけられないのか？ 先進的な街を見習え！ 燃えないゴミを奥の山へ埋めてどうするのか？ 又、いつの時代か、それをみた時、処理の悪さがわかるだけだ？ 小樽を観光の町としたなら、もっと基本的な環境衛生問題がある

はずだ！ 古タイヤには「蚊」もわくよ！ ウエストナイル熱の次はSARS、そして地球温暖化は次に重要な病気を呼び起こすよ！（マラリア、テング熱、寄生虫増殖など）

今回のアンケートは、地球温暖化とごみ減量化を結びつけたものではありませんが、ごみ減量化は、地球温暖化防止を進めるにあたって、市民の日常生活の中で取り組まなければならない行動の一つです。その意味で「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)にもごみ減量化についての項目を入れ、行動を呼びかけています。

女性・80歳以上

Q19の質問のスーパーの袋の替わりのポイントは、それだけを目当てにしている客が時々いる。1回で買い物が済むのに、ポイントを集めるため、何回もレジで精算して、その都度ポイントをもらう。何の為の制度か解らない。それより店側で、その分(客に利益にさせない)年1回とか決め、環境の為に利用して、発表して欲しいです。

お客さんの中には、ご意見にあるような人もいますが、誰でも簡単にできるごみ減量化ですから、特典を楽しみながら取り組んで見てはいかがでしょうか。

男性・70歳代

包装資材を簡素化する。

たしかに過剰な包装をした商品が多いように思われます。事業者も循環型社会の形成に向けて、真剣に取り組まなければならない問題だと思います。

女性・60歳代

二酸化炭素の排出につながる総ての事に、一人一人が強い意志を持つ事が大切だと思います。生ゴミの堆肥化を是非実行したいと思います。燃えないゴミの多さには非常に驚いております。人件費削減の為に商品をパック包装しなければならないのは理解出来ます。パック包装により衛生的なのも理解出来ますが、何か対策があれば良いと思います。マイバッグを持参したいと思いますが、品質、形により、万引きの疑いを掛けられた方がいると聞き、恐いと思います。

一時期、土にかえるトレイを使用するなど、環境に負荷をかけない取り組みを行った事業者がいましたが、商品の価格が割高になったことから、消費者にあまり受け入れられなかったようです。スーパーなどの量販店が中心の小売形態では、商品包装をなくすることは難しいと思いますので、消費者としてトレイを回収しているお店を利用するなど、環境のことを意識することが必要だと思います。

女性・20歳代

人間が減れば、ゴミも減るし、ある程度環境も良くなるのでは？ ゴミについては、商品を作る企業で統一して欲しい。捨てるのに悩む様なゴミを作らないで欲しい。

人間が減れば、ごみも減るといえることはないと思います。今の大量生産・大量消費・大量廃棄型の生活様式を転換しないとごみは減らないのではないのでしょうか。

男性・70歳代

ウォーキングしているのですが、行く所、行く所、ゴミが道路に捨ててあるのです。(家庭のゴミ)(弁当のカラ) ちょっと山に入っただけでも、レジ袋に空カンとか入ったものがあるのです。幸町に抜ける道です。あまりにも汚い道路です。

ごみの散乱は美観を損ねるだけではなく、環境保全の意識低下にもつながりかねない大きな問題です。散乱したものを回収するには、行政、土地所有者や地域住民にとって大きな負担がかかります。まずは、ごみを捨てない、ごみは持ち帰るという行動を基本にモラルやマナーの向上を図ることが必要だと思います。

女性・30歳代

インターネット接続していない市民へは報告なしですか?! 各新聞の地方欄や回覧板、市の広報紙などでも公表すべきです。「して下さい」ではなく「するのが当然」です。

今回のアンケートの結果は、小樽市のホームページを基本に考えていますが、小樽市広報を始め、新聞社等にも協力をお願いすることを検討させていただきます。

男性・60歳代

石油化学製品が年々使用される生活が多くなりました。埋めても土に戻らない、燃焼もできない点を考え、研究を急いで行くべきではないでしょうか。森林の開発も一度手を加えると自然破壊、元に戻りません。地球を大事にしてください。

これからは地球を大切にしたい社会システムの構築が必要になります。地球温暖化は1750年頃の産業革命から始まったといわれ、石油や石炭などの化石燃料の消費により大量の二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に排出されたり、森林伐採などが原因となっています。温暖化の原因は人間活動にありますので、地球にやさしい取り組みを積極的に行うことが求められています。

男性・40歳代

“物”が過剰となっている今日、買い物を選べる便利な反面、無用な物も多くなり、昔、一升びん、ビールびん、牛乳びんの回収で、店に持って行き、換金してもらって、小遣いにしたことを思えば、その制度も普及させても良いと思う。小売店に限らず、製造メーカーが責任をもって買い取るリサイクルがあって良いのではないかと。すべて消費者サイドの負担では、どうしてもゴミとなって出されると思う。メーカー責任により、“物”の過剰をストップさせることが、ゴミの減少につながるのでは?

企業の中には環境を経営の大きな柱にしているところが増えてきています。環境に配慮しない企業は生き残れない時代に少しずつなってきたのではないのでしょうか。また、リサイクル関連の法律も整備されてきており、メーカーの責任でリサイクルするものが増えてきています。資源の循環のためには、国・自治体・企業・国民がそれぞれの役割にそった活動をしなければなりません。私たちとしても、ごみを減らす責任があるのではないのでしょうか。

女性・60歳代

レジ袋は有料にした方が良いと思います。

今回のアンケートで「レジ袋が無料じゃなくなったらどうしますか」と聞きました。その結果「マイバッグを持参する」と回答した人が約半数になりました。有料化によってレジ袋削減の効果は大きいと思います。しかし、市民の中には、「何も持たず買い物に行けるから便利」「社会のニーズから生まれたものを止めること自体おかしい」「買ったものの量にかかわらず使えるので便利」「レジ袋なしではスーパーの便利さは半減する」などの声が出るかもしれません。企業としても一般化しているレジ袋をすぐに有料化するのには難しいと思います。レジ袋は日常生活の中で使い捨ての代表的なものだと思いますので、私たちの環境に配慮した行動の中の第一歩として「レジ袋をもらわない」ようにすることが必要だと思います。

女性・50歳代

リサイクルできるゴミの回収の回数と種類をもっと増やして、なるべくゴミとして捨てる物を減らせるようにしてほしいです。個人でも、使える物を簡単に捨てずに、リサイクルショップ等を利用するなどして、少しでもゴミの減量化に努めるようにする。又、電気や水道などの節約にも心掛けたいと思います。

これからの循環型社会を形成する上でごみを減らすことが大切です。これには行政や市民が一緒になって取り組まなければならない問題です。「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)の中でもごみ減量化は地球温暖化に結びつく大切な環境配慮行動としてうたっており、3R(86ページをご参照ください。)をすること

が今後ますます重要になってきます。

女性・60歳代

新聞の折り込み広告、商品売り出しのチラシが多いように思います。同じスーパーで連続入ってきます。必要ないと思います。

新聞の折り込みチラシは、必要ない人にとってはごみになるだけかもしれませんが、利用している企業にとっては、消費者への身近な情報提供手段として広く利用されていると思います。不用なチラシも立派な資源物ですのでごみとして出すのではなく、町内会等で行われている集団資源回収などに出すようお願いいたします。

女性・50歳代

公共の建物、デパートなど、温度を下げる。ネオンも少なくする。夜は消す。近所は車でなく、歩く。早寝、早起き。見ない時はテレビを消す。多く作らない、残さない、捨てない。物を大切にします。

地球温暖化防止のために企業でも家庭でも実行できることはどんどんすべきですね。

女性・60歳代

電気店等で見かける光景ですが、殆どのテレビにスイッチが入った状態です。売る側の気持ちも分かりますが、本当に電気の無駄をしていると思います。家庭でこまめに電気の節約をしても残念に思います。

地球温暖化防止に取り組んでいる推進員会議としても、省エネルギーの観点から残念に感じます。環境配慮行動は自発的な行動なので、個々の店舗を規制するものではありませんが、事業所の温室効果ガスも増加している現状から業界全体で省エネルギー行動を積極的に取り組んでほしいと思います。

男性・30歳代

税金は環境を悪化させていくものにかかるべきだと思います。例えば、ジュースはビン（リユースさせる場合）には税をかけない、びんを洗って再利用する場合だけ。缶やペットボトルには税をかける、リサイクルはもちろんですね。新聞や雑誌などの紙にも税をかける。テレビやラジオなどで情報得ることもできるのに、わざわざ紙を毎日使うのはぜいたくなこと、余分に金はらってもいいんじゃない？ レジ袋も税かけていい対象だよ。それとゴミの不法投棄の取り締まり方と罰金の利用も考えたい。警察と市民と役所が連携します。罰金は不法投棄ゴミの処理や一般ゴミ処分のために使います。

公報誌を全家庭に配布するのはやめて！ どんだけ紙と税金使ってるの？ 様々な年金の仕組みとかのパンフとか送ってきたり、回覧板で回せばいいでしょ。班に1部にしたら？ なきゃダメっていう人には各地の連絡所に取りに来させりゃいいんだって。その上で歩けない人にだけ配慮すればいいでしょ。環境に関するパンフとか冊子作って配布とか、イベントとかやめて、財政を縮小しなさい。国で取り組むべきことは国で、けいもうは回覧板使ったり、知恵を使って！ 支出と自分たちの仕事を増やすな！ 何でも面倒みんな！ 「子供の面倒は親が、親の面倒は子どもが。」国や地方が福祉がって動き回って、いつのまにか親はこどもの面倒になろうとせず、子どもも親の面倒を自分でみようとはしなくなっちゃったでしょ。

環境省では、国民皆が地球温暖化対策を担うよう促すことができる唯一の施策として環境税（地球温暖化税）の導入を検討しています。中央環境審議会（環境相の諮問機関）に小委員会を設置し、中環審の地球温暖化対策税制専門委員会がまとめた同税案を基に幅広い見地から制度内容を詰める作業に入っており、各地で意見交換会が開催されています。ご意見のようなものと違いますが、税は国民に負担を求めるものですので、賛否両論が出ますが、地球温暖化防止は国民全員が取り組まなければ進まない大きな問題と思います。

女性・50歳代

もう少し資源ゴミの回収回数を多くして欲しいです。雑誌、新聞なども回収してほしい

です。

資源物は受け入れ施設の処理能力から収集回数が地域によって月1回と2回に分かれています。現在、平成19年度の稼働を目指して新焼却施設とリサイクル施設の建設事業が進められており、これらの施設が完成すれば、収集回数と品目の拡大が図られると聞いています。

男性・60歳代

ゴミ処理場の建設場所については、各市町村において大変苦慮している事を聞いておりますが、ゴミ袋の有料化等、市として推進してはと思います。私自身あまり減量化について考えておりませんでした。アンケートに記入して、この事について再認識したところです。

ごみの減量化は地球温暖化防止につながる環境配慮行動の一つです。ごみの有料化については、小樽市長から小樽市廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみの減量化施策とその方策としての有料化について」諮問し、今年3月に家庭ごみの有料化は、ごみ減量の有効な方策のひとつであるという答申が出されました。

男性・50歳代

スーパーでのトレーの使用が過剰だと思います。買い物時にかさばりますし、ゴミの量も多くなります。トレーの使用分も、価格の中に組み込まれているのではないのでしょうか？
買い物をする店によっては、色のついたビニール袋に入れてくれる店があります。色のついたビニール袋はゴミ袋としても使用できないので、廃止してほしいと思います。

食品などに使用されているトレイは必要ないとの意見が多くあります。しかし、スーパー等の量販店の販売形態から急にトレイをなくすことやそれに変わる環境に配慮した資材を使うことは価格などで難しい面があると思います。トレイは、再利用できる資源ですのでごみとして排出するのではなく、スーパー等の自主回収を利用することが大切です。
レジ袋はゴミ袋として利用している人が多いようですが、ごみとして排出されるものも多くあります。買い物時には、マイバックを持参し、ごみの減量をすることも必要だと思います。

女性・60歳代

先日、道新の紙面に、小樽市のゴミの最終処分場で、すべて一緒に埋めているとの趣旨の報道を読んで非常にかっかりしました。分別してゴミと資源ゴミ、また生ゴミ、プラスチック、缶、ビンと分類しているのですから、できるだけ多くのリサイクルゴミを回収していただきたいという希望と、プラスチックゴミを後世に残さないようにお願いしたいです。

現在、市で収集しているものは、資源物（かん・びん・ペットボトル・牛乳等の紙パック・蛍光灯・電球）、燃やすごみ、燃やさないごみの3つに分けられています。回収した「資源物」は、すべてが天神のリサイクルセンターに集められ、処理して再資源に回されます。「燃やすごみ」は、天神にあった焼却施設が平成13年に稼働を中止したため桃内の埋め立て施設で処理されています。

市では新焼却場の建設を進めており、平成19年度に完成する予定です。また、これにあわせリサイクルプラザも建設され、資源物（白色トレイなどのプラスチック容器等）の品目、収集回数を増やすことが計画されているということです。

男性・30歳代

リサイクルマークが付いた包装が多く、マーク毎の分別回収が理想。リサイクルに掛かる費用は商品代金に乗せし、企業（メーカー）で分担。税金として各自から均一に集めるのではなく、その商品を選択した個人への負担とするのが良い。初期投資に関してもアンケート等を活用し、意見をくむ様に願う。

廃棄物の発生抑制、まだ使える部品等の再使用、原材料として再利用できるものの資源化を推進するため、平成13年4月に資源有効利用促進法が施行されました。この中で事

業者の責任として分別回収の促進のための表示を行うことが求められています。また、企業にリサイクルの責任を定めている製品も多くなっています。例えば、パソコンは販売価格にリサイクル料金を上乗せし、メーカーの責任で回収・再資源化されるようになりました。今後はこのような製品が増えていくのではないかと思います。

女性・50歳代

便利な生活はそれだけエネルギーを消費することになり、いくらリサイクルをしても根本的には難しい気がします。考えさせられることが多いですが、少しでもと思っています。リサイクルも費用はかかる

便利な生活を享受している私たちは、大量のエネルギーを使い、大量の廃棄物を出しています。このままでは地球は潰れてしまいます。リサイクルにも処理費用は莫大にかかりますが、皆で力を合わせて循環する社会システムを作る必要があると思います。「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)は、市民の皆さんがつくった環境に対する行動の指針ですので、参考にさせていただきたいと思います。

男性・40歳代

小樽市の資源ゴミのリサイクル(回収)率が低いという結果がでていましたが、その分析はできているのでしょうか。要因の一つには「月に1度の回収」があるのではないですか。私の家は資源ゴミを置くスペースがありますが、それでも「月1度」で限界です。まして、うっかり、その月を逃がすと、かなりの量になってしまいます。その結果、通常の日へまわってしまう事になる時が、たまにあるのが現実です。”回収率が低いです、皆さんご協力を”と呼びかける前に、市側の姿勢もちょっと前向きに変えて頂きたいものです。

市の調べでは、ごみの中に約40%の資源物が混じっているということです。これには、ご意見のような「収集回数」も一つの要因にあると思います。市は、桃内に新焼却施設とリサイクルプラザを建設することにしており、これが完成すると処理能力が大幅に増えることから、収集回数を増やす検討しているとのことです。ごみを減らすには、資源物を分別することも大切ですが、ごみ自体を減らさなければなりません。これには私たち一人ひとりの協力が大切です。

男性・70歳代

温暖化対策として吾々が出来ることは、暖房など目に見えることだけでなく、電気や水を含め、物を大切にすることが大切であることが見えただけにピンときていない人が多いのではないだろうか。

ごみの分別、リサイクル出来るものの分別などが面倒なため好い加減になることが多いと思います。夏頃でしたか、燃やすゴミと燃やさないゴミがきちんと分別されていないという市からのチラシが配られました。市民は慌ててきちんと分別に努力したように思いますが、経過するにつれて、まただらしくなりますので、時々「一喝」があった方がよい。

家庭の中ではスイッチを押せば電気がつきますし、蛇口をひねれば水が出ます。しかし、このような便利な生活が地球温暖化の原因になっていることも間違いではありません。地球温暖化を理解し、意識することが大切だと思います。

今年3月に廃棄物減量等推進審議会より家庭ごみの有料化についての答申が出されましたが、有料化が実施されれば、意識を持って減量化に取り組む人と取り組まない人では負担額に大きな違いがでることにもなりますので、ごみ出しルールを守って、ごみの分別に心がけることが必要だと思います。

女性・50歳代

市役所の公用車があまりに多すぎます。民間を利用すべきです。市の公用車が現場や出先で、時には何時間もアイドリングをして運転手さんが車の中で休んでいるのは何故でしょうか。お膝元から、車の減車をすべきと考えます。

市では、行財政改革の一環として、公用車の集中管理と職員自らが運転する方法を検討

していると聞いています。

女性・30歳代

商品の過剰包装が気になります。お菓子類も小袋で包装し、更に箱詰めされている物が多いと思うし、パン屋でパンを一つ買うと一つひとつ小袋に入れ、それを更にレジ袋へ入れるなど。食品メーカー等ももう少し商品包装の簡素化を実行してくれるようにしてくれればと思う。箱詰めなら箱のみ、袋詰めなら袋のみという風に。ゴミの減量化にもなると思うのですが、食品の衛生上無理なのではないでしょうか？

現在の包装形態は、食品の衛生管理に必要な一面があると思いますが、廃棄物の発生抑制から見ると、改善の余地はあるように思います。国でも循環型の社会形成に向け、法の整備や施策を行ってきていますので、企業責任として積極的な取り組みが進むことを期待したいと思っています。

女性・70歳代

一人一人の認識が重要。(常識) 一般家庭で出すゴミをみると毎回毎回必ずゴミの分別がだらしがない。種類分けを出来るゴミ入れを各家庭に義務づける。(透ける袋) 私のところは内容が透けて見える袋を使っている。習慣となると面倒くさくないと思う。必ず中身のみえる袋を使う事を義務づける事。

ごみは、中身の見える透明か半透明の袋で出すことになっています。「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「資源物」をきちんと分別することと、中身の見える袋の使用は市民が守らなければならない基本のごみ出しルールだと思います。

男性・60歳代

潮見台側の自転車道路のゴミがいっぱいになっている事、対策をお願い致します。

ご意見の場所がどこか不明ですが、基本的には道路のごみ処理は、市、道、国などそれぞれの道路管理者が行うものと聞いております。

男性・50歳代

私は、市民ルールを徹底すべきと考えます。ごみの減量化以前に不法投棄等、私等市民のモラルが低い状況です。町内会を通じて市民ルールの徹底化を計るとか、いろいろな方法で、まずきれいな町を(ゴミのポイ捨て)作る。その意識が市民に浸透することが必要と考えます。市の努力を期待いたします。

「環境にやさしい小樽市民ルール」(87ページをご参照ください。)は地球温暖化防止のための行動指針を決めたものですが、きれいな街をつくることにもつながりますので、行政と協力しながら市民周知に努めたいと思います。

3 R Reduce (リデュース) Reuse (リユース) Recycle (リサイクル) の頭文字をとったものです。ゴミそのものを減らすこと(リデュース)、捨てずに再利用すること(リユース)、再資源化すること(リサイクル)をバランスよく実行することが大切です。

環境にやさしい小樽市民ルール

1. 省エネルギー生活を心がけましょう

テレビや照明器具



使っていないときは、こまめに消しましょう。照明器具の切替を（白熱灯から蛍光灯へ）電気製品を長時間使わない時はコードを抜きましょう。

テレビをつける時間を1日1時間減らすと
年間で1300円の節約、6 kgのCO₂削減

お風呂や洗面所



シャワーや歯磨きのとき水の出しっぱなしをやめましょう。お風呂はさめないうちに家族で続けて入りましょう。

1日3分間水の出しっぱなしをやめると
年間で3000円の節約、3kgのCO₂削減



冷暖房

暖房の温度設定を1度低く、冷房は1度高くしましょう。ストーブの使用時間を1時間短縮してみましょう。

ストーブの使用時間を1日1時間減らすと
年間で2500円の節約、40 kgのCO₂削減

2. 自動車の使用を控えましょう 3. 買い物の時に考えましょう



不要なアイドリングはやめましょう。週に1度は、ノー・カー・デーをつくりましょう。マイカーよりもバスや電車を使いましょう。近所には、徒歩や自転車で行きましょう。

1日5分アイドリングをやめると、年間2600円の節約、1.6 kgのCO₂削減



不要な包装は断りましょう。買い物袋を持参しましょう。エコマークなどの環境にやさしい商品を選びましょう。食品トレイよりもバラ売りの商品を選びましょう。

4. エコ・クッキングしましょう

料理は水も火も電気も使います。生ゴミも出ます。



ガスは鍋底から炎がはみ出ないようにしましょう。食器洗いの湯の温度を10 下げましょう。生ゴミは水を切って出しましょう。無駄な保温はやめましょう。廃油は流さず再利用しましょう。

食器洗いの湯の温度を40 から30 に下げると
年間3200円の節約、20kgのCO₂削減

5. ごみを減らしましょう

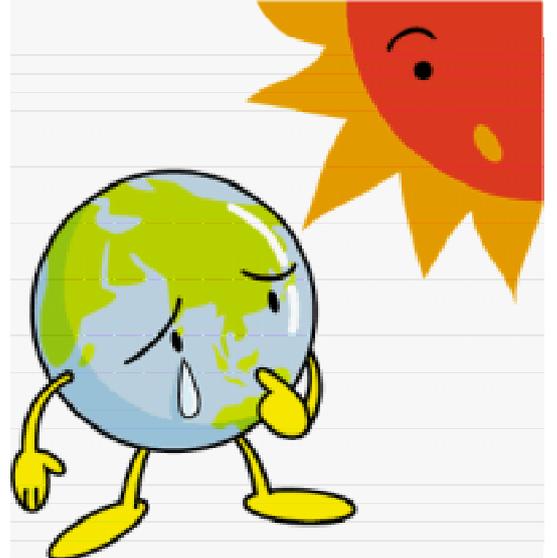
資源ごみを確実にリサイクルしましょう。フリーマーケットなどで再利用につとめましょう。野山や公園で出たごみは、持ち帰りましょう。ごみの野焼きや簡易焼却炉の使用をやめましょう。ダイオキシン発生の原因となります。



どうする？地球の温暖化

市では「21世紀最大の地球環境問題」といわれる地球温暖化問題に地域から対応するため、次ページの「環境にやさしい小樽市民ルール」を策定しました。

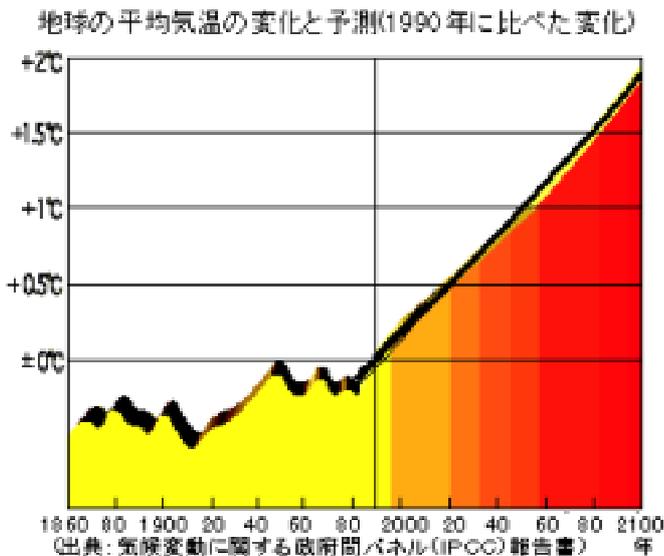
市民の皆さんの日常生活や事業活動の際にこのルールに配慮していただき、環境にやさしいまちづくりを進めましょう



「地球温暖化」ってなんのこと？

地球がだんだん温かくなってきています。

それは、私たちが生活していくうえで大量のエネルギーを使っているためです。私たちがテレビを見ると電気を使い、ストーブで灯油を焚き、自動車でガソリンを使いますが、これにより、温暖化の原因となるCO₂（二酸化炭素）が排出されます。CO₂が増えると温室効果で地表の熱が宇宙空間に逃げにくくなるため、地球が熱くなっていくのです。



温暖化で小樽はどうなる？

国際的な専門家会議の報告によると、二酸化炭素がこのままふえつづけると、2100年には地球の平均気温が2度上昇し、海面が50cm以上上昇すると予測されています。そんな先のこと...？

いいえ、次の世代2020年でも気温は0.5度上昇し、海面は10cm上昇。さらに、異常気象による農業や水産業など食糧への影響、熱帯性伝染病などその影響は計り知れません。小樽でも砂浜海岸の半分以上が浸食されることが予測されます。

市民ルール推進員会議を設置しました

平成12年度に策定した市民ルールを市民参加で普及推進するため、本年8月「市民ルール推進員会議」を設置しました。推進員には各種団体から推薦を受けた方11名のほか、一般市民公募で9名の方に就任していただきました。

今後は、推進員の皆さんの取り組みの輪を拡げ、年度内に市民ルール普及にむけての取り組みのご提言をいただくこととしています。市民の皆さんからのご意見もお寄せ下さい。



あて先 〒047-8660 小樽市花園2丁目12番1号 小樽市環境部環境課 ☎ 32-4111 内線327 FAX 32-5032

地球温暖化等に関する市民アンケートご協力のお願い

21世紀は“環境の世紀”と言われるように、地球規模の環境問題に対する地域からの取り組みがますます重要になっています。

地球温暖化等の環境問題は、日常的な市民生活や事業活動と密接に関わり、その悪影響が何世代にもわたる可能性のある深刻な問題です。

私たちは、必要以上に資源やエネルギーを消費する現在のライフスタイルを見直し、環境への負荷が少なく持続的な成長が可能な循環型社会への転換を図っていく必要があります。

地球温暖化防止の取り組みとして、平成13年度に「環境にやさしい小樽市民ルール」を市民・事業者・行政が協働して策定し、市民の皆さんで構成する「環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議」が中心になって普及活動を行っています。

今回、「市民ルール」を普及するに当たって、「市民ルール」が市民の皆さんに理解され、どのような取り組みがなされているのか、地球温暖化に代表される環境問題に対する市民の皆さんの意識がどうなのかなど、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為に抽出した1,000人の方を対象にアンケートにより調査することになりました。

今後、この調査結果を基に、地球温暖化防止の輪が市民の皆さんに広がるよう取り組みに反映させ、市民と行政が一体になって、地球温暖化防止対策をより一層推進していきたいと考えております。

この意識調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成15年11月

小樽市長 山 田 勝 磨

環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議

座 長 斉 藤 仁

【ご記入に当たってのお願い】

- (1) ご記入いただいた内容は、統計的に処理しますので、調査目的以外に使用することはありません。
- (2) ご回答は、この調査票のあて名ご本人様をご記入ください。
- (3) ご記入がお済みになりましたら、恐れ入りますが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、11月25日（火）までにご返送ください。

【お問い合わせ先】 小樽市環境部環境課環境計画係（担当 鎌田、赤井）

TEL 32 - 4111（内線 327） FAX 32 - 5032

アンケート調査票

Q 1 (皆さんにお尋ねします) 以下の項目について、あてはまるものを一つ選び、番号に付けてください。

- 性 別 1. 男性 2. 女性
- 年 齢 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
5. 60歳代 6. 70歳代 7. 80歳以上
- 職 業 1. 会社員 2. 自営業 3. 公務員 4. 家事専業
5. 学生 6. 無職 7. その他()
- 居住地域 1. 塩谷地区(蘭島、忍路、桃内、塩谷)
2. 長橋・オタモイ地区(長橋3~5丁目、オタモイ、幸)
3. 高島地区(祝津、赤岩、高島)
4. 手宮地区(手宮、末広町、梅ヶ枝町、錦町、清水町、豊川町、石山町、色内3丁目)
5. 中央地区(長橋1・2丁目、稲穂、花園、色内1・2丁目、港町、堺町、東雲町、山田町、相生町、入船1・2丁目)
6. 山手地区(富岡、緑、最上、松ヶ枝、入船3~5丁目)
7. 南小樽地区(住之江、住吉町、有幌町、信香町、若松、奥沢、天神、真栄、潮見台、新富町、勝納町、若竹町、築港)
8. 朝里地区(桜、船浜町、朝里、新光、望洋台、新光町、朝里川温泉)
9. 銭函地区(張碓町、春香町、桂岡町、銭函、見晴町、星野町)

A 『環境問題全般についてうかがいます。』

Q 2 (皆さんにお尋ねします) あなたは、環境問題に対して関心がありますか。該当するものを一つ選び、番号に付けてください。

1. 関心がある 2. ある程度関心がある (Q 3へお進みください)
3. 関心がない (Q 4へお進みください)

Q 3 (Q 2で1又は2に を付けた方にお尋ねします) 現在、最も関心のある環境問題は何か。
以下から、関心度の高いものを選び、番号に付けてください。(複数回答可)

1. 地球温暖化 2. エネルギーの枯渇 3. オゾン層の破壊や酸性雨
4. 野生生物種の減少 5. 自動車や工場等による大気汚染等 6. 森林の減少
7. 生活活動に伴う水質汚濁等 8. ダイオキシンなど環境ホルモンの問題
9. 廃棄物問題 10. その他()

Q 4 (Q 2 で 3 に を付けた方にお尋ねします) それはなぜですか。該当するものを一つ
選び、番号に を付けてください。

- 1 . 直接自分の生活とは関係ないから 2 . とくに理由はない
3 . わからないから 4 . その他 ()

B 『地球温暖化問題についておうかがいします。』

Q 5 (皆さんにお尋ねします) 地球温暖化問題をご存じですか。該当するものを一つ選び、
番号に を付けてください。

- 1 . 知っている 2 . 聞いたことはある (Q 6 へお進みください)
3 . 知らない (Q 7 へお進みください)

Q 6 (Q 5 で 1 又は 2 に を付けた方にお尋ねします) 予想されている地球温暖化の影響
の中で最も不安に感じていることは何ですか。該当するものを一つ選び、番号に を付
けてください。

- 1 . 海面の上昇による陸地の消滅 2 . 異常気象による干ばつや大洪水などの被害
3 . 気候の変化による農業・漁業・生態系への影響 4 . 熱帯病の流行地域の拡大
5 . その他 ()

Q 7 (皆さんにお尋ねします) 「環境にやさしい小樽市民ルール」をご存じですか。該当
するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- 1 . 知っている 2 . 聞いたことはある (Q 8 へお進みください)
3 . 知らない (Q 9 へお進みください)

Q 8 (Q 7 で 1 又は 2 に を付けた方にお尋ねします) 「環境にやさしい小樽市民ルール」
をどこで知りましたか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- 1 . 新聞の折り込みピラ 2 . パンフレット 3 . 小樽市広報
4 . 小樽市ホームページ 5 . 市民ルール説明会 6 . その他 ()

Q 9 (皆さんにお尋ねします)「環境家計簿」をご存じですか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

環境家計簿とは、家庭で使った電気・ガス・燃料などから地球温暖化に悪影響のある二酸化炭素の排出量を毎月簡単に算出することができる家計簿のことです。

1. つけたことがある (Q 1 0 へお進みください)
2. 聞いたことはある 3. 知らない (Q 1 1 へお進みください)

Q 1 0 (Q 9 で 1 に を付けた方にお尋ねします)環境家計簿を実際につけて、あなたの省エネに対する意識はどう変わりましたか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

1. 常に省エネを心掛けて生活するようになった 2. 少しは省エネを考えるようになった
3. あまり意識は変わらなかった 4. その他 ()

Q 1 1 (皆さんにお尋ねします)小樽市でも無料で貸し出している「省エネナビ」をご存じですか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

省エネナビとは、家庭内で使用する電力使用量や電気料金をリアルタイムに表示する装置のことです。目に見えない電気の使用量を金額で見ることができ省エネ意識の向上をお手伝いします。

1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

Q 1 2 (皆さんにお尋ねします)小樽市が認定している「エコショップ」をご存じですか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

エコショップとは、簡易包装の推進など環境にやさしい活動を通じ、ごみの減量化や再資源化に積極的に取り組んでいる店舗のことで、小樽市が認定し、店先に「環境にやさしい店」のシールを貼っています。

1. 知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

Q 1 3 (皆さんにお尋ねします)あなたが普段の生活の中で取り組んでいる環境配慮行動について、次ページの質問項目ごとに、該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

質 問 項 目	実行している	時々している	していない
使用していない照明やテレビはこまめに消す	1	2	3
電気製品を使わないときは、コンセントを抜く	1	2	3
シャワーや歯磨きのとき水を出しっぱなしにしない	1	2	3
風呂はさめないうちに家族で続けて入る	1	2	3
一枚厚着をして暖房の温度設定を低くしている	1	2	3
自動車をなるべく使わずバスなどの公共交通機関を利用する	1	2	3
常にアイドリングストップを心掛けている	1	2	3
急発進や急加速などをしないように経済的な運転をしている	1	2	3
野外でゴミ等を燃やさない	1	2	3
風呂水を再利用している（洗濯や水やり）	1	2	3
油は流しに捨てない	1	2	3
お米のとぎ汁は植木などに利用している	1	2	3
洗剤の量を少なくしている	1	2	3
洗濯炭などを利用し洗剤を使わない洗濯をしている	1	2	3
水切りネットや排水口ネットを使用し、固形物を除去している	1	2	3
生ごみの堆肥化をしている	1	2	3
過剰包装は断っている	1	2	3
エコマーク等の環境にやさしい商品を買う	1	2	3
使えるものは使い切り、無駄なものは買わない	1	2	3
料理は食べ残しの出ないように調理している	1	2	3
空きカン、空きビンなどを資源物収集に出している	1	2	3

C 『環境関係の情報についておうかがいします。』

Q14 (皆さんにお尋ねします) 環境に関する情報をどこから得ていますか。該当するものを選び、番号に を付けてください。(複数回答可)

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1. 小樽市広報 | 2. 小樽市ホームページ | 3. インターネット |
| 4. テレビ・ラジオ | 5. 新聞や雑誌 | 6. 回覧板 |
| 7. 家族や友人・知人 | 8. どこからも得ていない | 9. その他() |

Q15 (皆さんにお尋ねします) あなたにとって知りたい環境の情報は何ですか。該当するものを選び、番号に を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 環境に関する一般知識 | 2. 日常生活でできる環境保全の取り組み方法 |
| 3. 環境に関するイベント情報 | 4. 市民団体などの環境活動情報 |
| 5. ごみについての情報 | 6. その他() |

ごみの減量は、地球温暖化の防止に深く関わっていることから、「環境にやさしい小樽市民ルール」でも、「ごみになるものをできるだけ減らす」「できるだけ長く繰り返し使う」「資源としてリサイクルする」ことを提案しています。

D 『そこで、レジ袋・買い物袋(マイバッグ)についておうかがいします。』

Q16 (皆さんにお尋ねします) ごみの減量の一つに、スーパーなどの買い物時にマイバッグを持参してレジ袋を減らそうという活動がありますが、買い物時にはマイバッグを持参していますか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- | | | |
|-----------------|-------------|----------------|
| 1. いつも持参している | 2. 時々持参している | (Q19へお進みください) |
| 3. したいけれどできない | 4. 持参していない | (Q17へお進みください) |
| 5. 自分では買い物に行かない | | (Q19へお進みください) |

Q17 (Q16で3又は4に を付けた方にお尋ねします) レジ袋をもらう理由はなんですか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| 1. マイバッグを持っていない | 2. ごみ袋に利用するから |
| 3. レジ袋を渡されるので、いちいち断る理由がないから | |
| 4. レジ袋を渡されるのが当たり前になっているので考えたことはない | |
| 5. その他() | |

Q18 (Q16で3又は4に を付けた方にお尋ねします)レジ袋を無料でもらえなかったら、あなたは どうしますか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- 1. マイバッグをいつも持参する
- 2. 料金を払ってレジ袋をもらう
- 3. レジ袋の無料の店で買い物をする
- 4. レジ袋の料金によってどちらともいえない
- 5. その他 ()

Q19 (皆さんにお尋ねします)スーパーなどでレジ袋を断るとポイントをもらえ、商品券等と交換する制度がありますが、ご存じですか。該当するものを一つ選び、番号に を付けてください。

- 1. 利用している
- 2. 聞いたことがある
- 3. 知らない

地球温暖化対策及びごみの減量化に関するご意見がありましたらご記入願います。

§ § § § § § ご協力ありがとうございました。 § § § § § §

この調査結果につきましては、小樽市ホームページ (<http://www.city.otaru.hokkaido.jp>) でご報告させていただきます。

地球温暖化防止等に関するアンケート調査報告書

環境にやさしい小樽市民ルール推進員会議

(事務局) 小樽市環境部環境課

〒047-8660 小樽市花園2丁目12番1号

0134-32-4111 (内線 327)